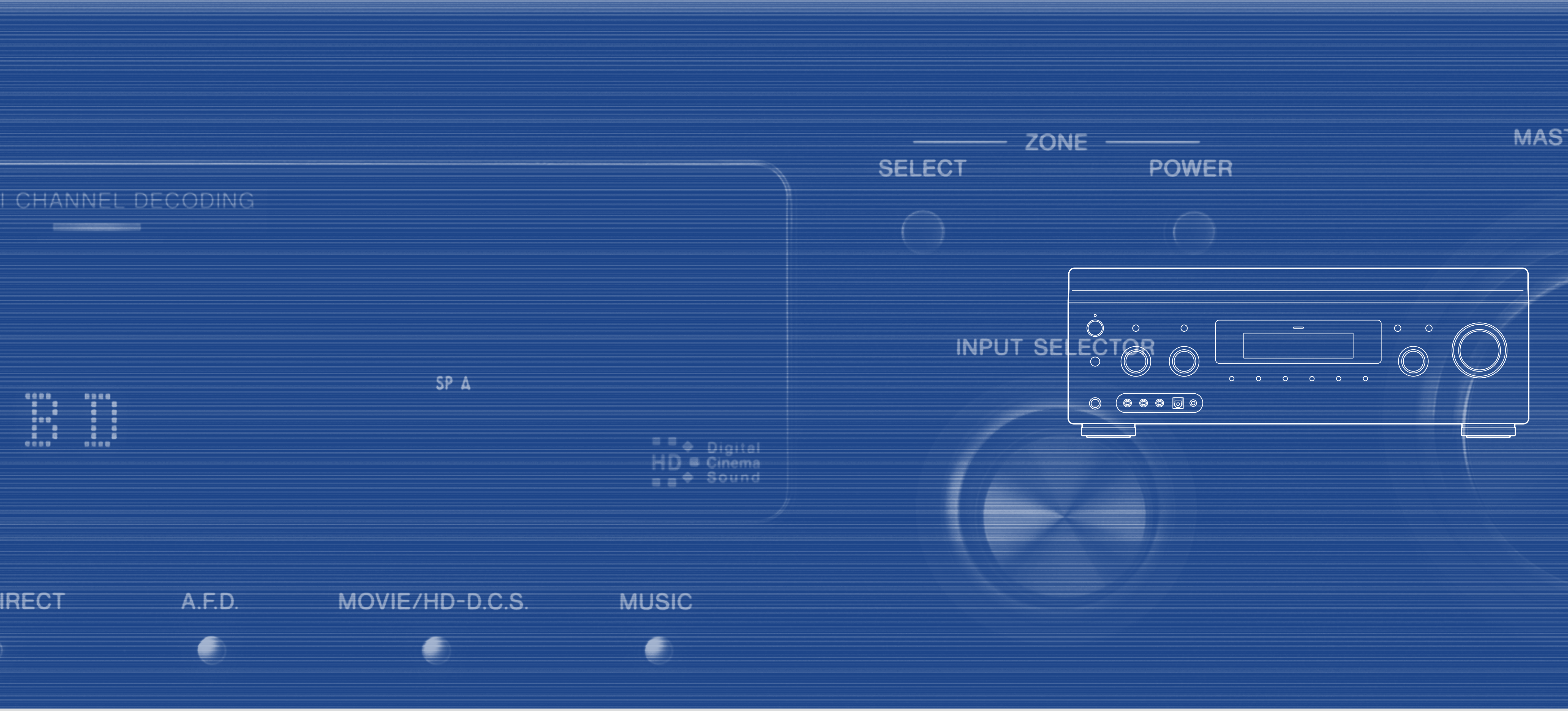
4-184-698-01(1)

SONY



マルチチャンネル
インテグレートアンプ

TA-DA3600ES

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。 http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口
フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia

* 4 1 8 4 6 9 8 0 1 * (1)

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に付属の簡単リモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。リモコンと同じ名前の本体のボタンは、同じ働きをします。

付属の電源コードについて

付属の電源コードは本機専用です。他の電気機器では使用できません。



このマークは「高温注意（Hot Surface)」を意味します。
動作中に、この面をさわると熱く感じることがあります。

商標について

本機はドルビー*デジタルデコーダー（EX）およびドルビープロロジック（II、IIx、IIz）Dolby Digital Plus、Dolby TrueHDデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**（DTS-ESおよびDTS 96/24）デコーダー、DTS-HDデコーダーを搭載しています。

＊　ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

＊＊米国特許番号 5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567、その他米国および米国外で特許申請中の実施権に基づき製造されています。
DTS は登録商標です。また DTS ロゴ、シンボル、DTS-HD および DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。©DTS, Inc. All Rights Reserved.

マルチチャンネルインテグレートアンプは、High-Definition Multimedia Interface（HDMI™）技術を搭載しています。

HDMI、HDMI ロゴ、及びHigh-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

本製品に搭載されているフォントの書体「新ゴR」は株式会社モリサワより提供を受けており、これらの名称は同社の商標であり、フォントの著作権も同社に帰属します。

Bluetoothワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, INC.の商標であり、ソニー株式会社はライセンスに基づきこのマークを使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、ここの所有者に帰属するものとします。

DLNA、DLNA CERTIFIEDは、Digital Living Network Allianceの商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Mediaは、米国 Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Intel Core、Pentiumは米国およびその他の国におけるIntel Corporation の登録商標または商標です。

SHOUTcast®はAOL LLC.の登録商標です。

本製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っている VC-1 PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：
（i）消費者が個人的、非営利の使用目的で、VC-１規格に合致したビデオ信号（以下、VC-1 VIDEOといいます）にエンコードすること。
（ii）VC-1 VIDEO（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。
なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページをご参照下さい。

MPEG Layer-3オーディオコーディング技術とその特許は、Fraunhofer IISおよびThomsonから許諾されています。

“ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴはソニー株式会社の登録商標です。

VAIOはソニー株式会社の登録商標です。

“x.v.Color”および“x.v.Color”ロゴ は、ソニー株式会社の商標です。

“プレイステーション®”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

目次

接続と準備

再生する

サラウンド効果を楽しむ

ネットワーク機能を使う

マルチゾーン機能を使う

その他の操作をする

設定を変更する

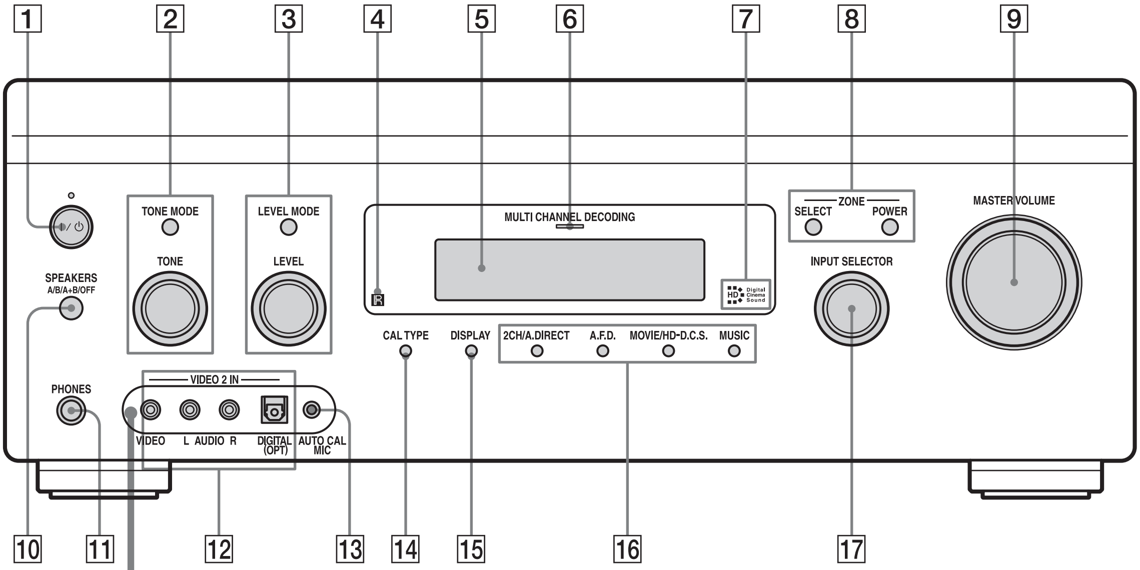
つづく

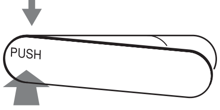
多機能リモコンで他機を操作する

その他

各部の名前と働き

本体前面





カバーをはずすには

PUSHを押します。
はずしたカバーは、お子様の手の届かないところに保管してください。

1 **I/⏻（電源オン／スタンバイ）**
本機（アンプ）の電源を入／切します。電源が入るとボタンの上にあるランプが緑色に点灯します。
スタンバイ状態時の消費電力をおさえるには
「Control for HDMI」（89ページ）、「Network Standby」（91ページ）、および「RS232C Control」（92ページ）を、それぞれ「OFF」に設定し、2nd／3rdゾーンの電源を切ってください。
「Control for HDMI」または「Network Standby」が「ON」に設定されている場合は、スタンバイ状態時に本体表示窓に「A.STNDBY」と表示されます。このとき天板が熱くなることがありますが、これは内部の回路が部分的に通電状態にあるためで、異常ではありません。

2 **TONE MODE、TONEつまみ**
フロント／センター／サラウンド／サラウンドバックスピーカー／フロントハイから出力される高音域（TREBLE）と、低音域（BASS）を調節します。TONE MODEをくり返し押して、BASSまたはTREBLEを選びます。続けてTONEつまみを回してレベルを調節します。

3 **LEVEL MODE、LEVELつまみ（95ページ）**
LEVEL MODEをくり返し押して、調整するスピーカーを選びます。続けてLEVELつまみを回してレベルを調節します。

4 **リモコン受光部**
リモコンからの信号を受信します。

5 **表示窓（7ページ）**

6 **MULTI CHANNEL DECODINGランプ**
マルチチャンネル音声がデコードされているときに点灯します。

7 **HD Digital Cinema Soundランプ（52ページ）**
サウンドフィールドにHD-D.C.S.が選ばれているときに点灯します。

8 **ZONE/SELECT、POWER（61ページ）**
SELECTをくり返し押して、2ndゾーン、3rdゾーン、またはメインゾーンを選びます。POWERを押すたびに、選んだゾーンへの信号出力を入／切します。

9 **MASTER VOLUMEつまみ**
すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。

10 **SPEAKERS（A/B/A+B/OFF）（35ページ）**

11 **PHONES端子**
ヘッドホンをつなぎます。

12 **VIDEO 2 IN端子（25ページ）**

13 **AUTO CAL MIC端子（36ページ）**

14 **CAL TYPE**
自動音場補正機能の補正タイプを設定します（39ページ）。

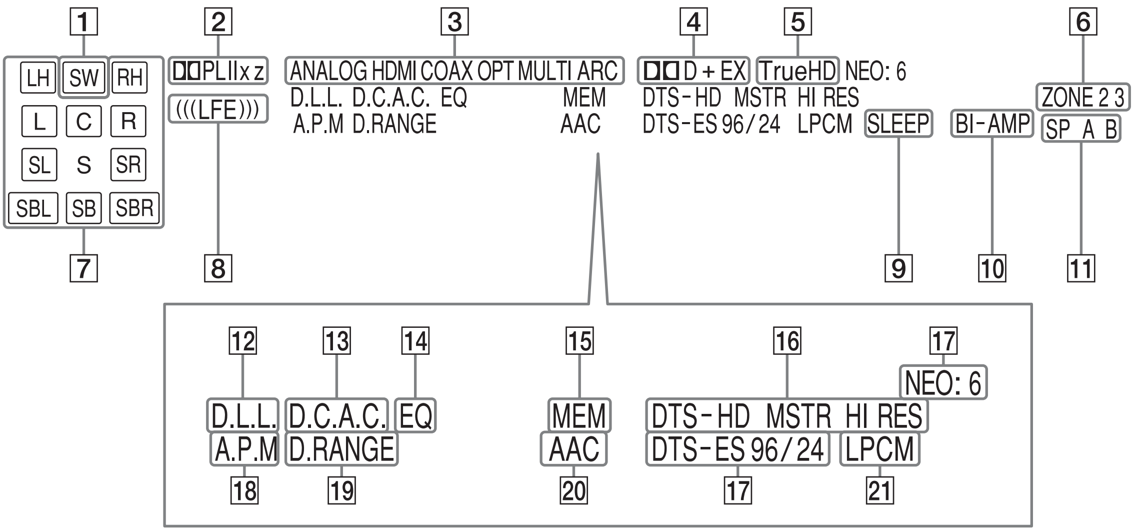
15 **DISPLAY**
表示窓に表示される情報を切り換えます。

つづく

⑯ 2CH/A.DIRECT、A.F.D.、MOVIE/HD-D.C.S.、
MUSIC（49、50、51、52ページ）

⑰ INPUT SELECTORつまみ
再生する入力ソースを選びます。
2ndゾーンまたは3rdゾーンの入力ソースを選ぶには、ZONE SELECT（8）を押して先に2ndゾーンまたは3rdゾーンを選び（表示窓に「2.入力名」または「3.入力名」と表示されます。）、INPUT SELECTORつまみを回して入力ソースを選びます。

表示窓



1 SW

アクティブサブウーファーをつないでいる場合、音声信号がSUBWOOFER端子から出力されているときに点灯します。

2 ドルビープロロジック表示

ドルビープロロジック処理をしているときに、該当するいずれかの表示が点灯します。マトリックスサラウンドデコード技術によって、入力信号を5.1チャンネルまたは7.1チャンネルに拡張します。

センタースピーカーとサラウンドスピーカーが接続されていない場合は、点灯しません。

□□PL

Dolby Pro Logic

□□PLII

Dolby Pro Logic II

□□PLIIx

Dolby Pro Logic IIx

□□PLIIz

Dolby Pro Logic IIz

3 入力表示

現在、本機に入力されている信号を表示します。

ANALOG

デジタル信号が入力されていないときに点灯します。INPUT MODEが「ANALOG」に設定されているときや「2ch Analog Direct」が使われているときにも点灯します。

HDMI

HDMI IN端子につないだ機器が認識されているときに点灯します。

COAX

デジタル信号がCOAXIAL端子から入力されているときに点灯します。

OPT

デジタル信号がOPTICAL端子から入力されているときに点灯します。

MULTI

マルチチャンネル入力が選ばれているときに点灯します。

ARC（70ページ）

テレビ入力が選ばれ、オーディオリターンチャンネル（ARC）信号が検出されているときに点灯します。

4 ドルビーデジタルサラウンド表示

ドルビーデジタルフォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。

ドルビーデジタルフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していること、INPUT MODEが「ANALOG」になっていないことを確認してください。

□□D

Dolby Digital

□□D+

Dolby Digital Plus

□□D EX

Dolby Digital Surround EX

5 □□TrueHD

Dolby TrueHD信号をデコードしているときに点灯します。

6 ZONE 2 3

2ndゾーン、3rdゾーンが操作可能な状態のときに点灯します。

7 再生チャンネル表示

現在本機が出力しているチャンネルを表示します。

文字（L、C、Rなど）はソース音源を、文字の周りの枠は、ソース音源が、スピーカーセッティングに基づくダウンミックス処理で、どのチャンネルから出力されているのかを示します。

L

フロント左

R

フロント右

C

センター（モノラル）

LH

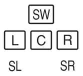
フロントハイ左

RH

フロントハイ右

つづく

SL
サラウンド左
SR
サラウンド右
S
サラウンド（モノラル／プロロジック処理されたサラウンド成分）
SBL
サラウンドバック左
SBR
サラウンドバック右
SB
サラウンドバック（6.1チャンネル処理されたサラウンドバック成分）
例：記録形式（フロント／サラウンド）：3/2.1
再生チャンネル：サラウンドスピーカーなし
サウンドフィールド：A.F.D. Auto



8 LFE
入力信号にL.F.E.（重低音効果）のチャンネルが存在しているときに点灯します。

9 SLEEP
スリープタイマーが働いているときに点灯します。

10 BI-AMP
サラウンドバックスピーカーの設定を「BI-AMP」に設定しているときに点灯します。

11 SP AB（35ページ）

12 D.L.L.
Digital Legato Linear（D.L.L.）機能が働いているときに点灯します。

13 D.C.A.C.
自動音場補正機能が働いているときに点灯します。

14 EQ
イコライザーが働いているときに点灯します。

15 MEM
Name Inputなどのメモリー機能が働いているときに点灯します（46ページ）。

16 DTS-HD表示
DTS-HD信号をデコードしているときに点灯します。
DTS-HD
次の表示とともに点灯します。
MSTR
DTS-HD Master Audio
HI RES
DTS-HD High Resolution Audio

17 DTS（-ES）表示
DTSまたはDTS-ES信号を入力しているときに点灯します。
DTSフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していること、INPUT MODEが「ANALOG」になっていないことを確認してください。
DTS
DTS信号をデコードしているときに点灯します。信号やデコードのフォーマットによって、次の表示も点灯します。
DTS-ES
デコードのフォーマットよって、次の表示とともに点灯します。
96/24
DTS 96 kHz/24ビット信号をデコードしているときに点灯します。
NEO:6
DTS Neo:6 Cinema/Music

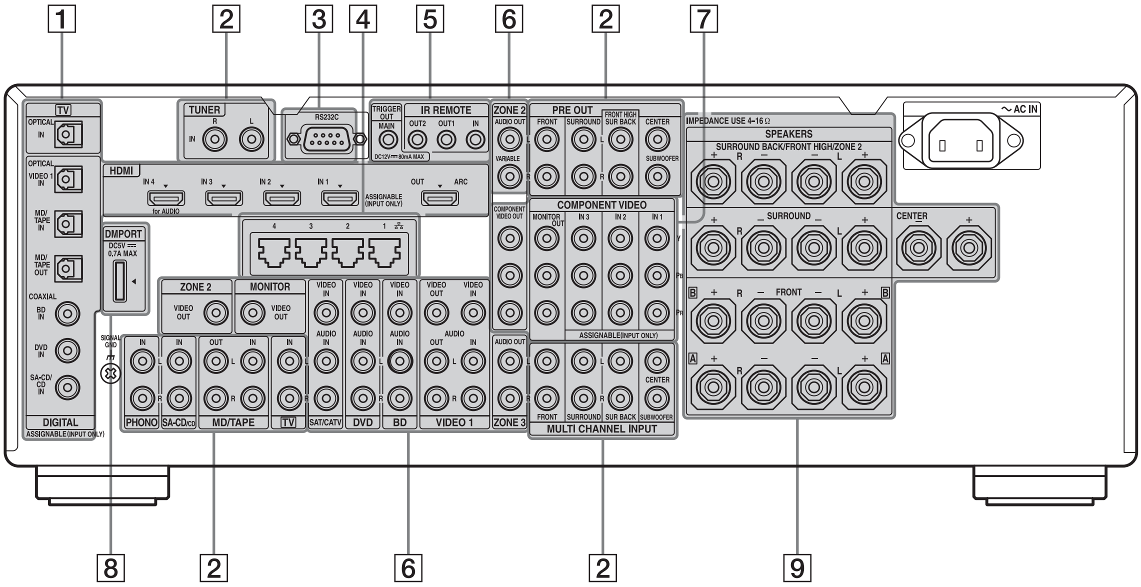
18 A.P.M（79ページ）
A.P.M.（Automatic Phase Matching（自動位相マッチング））機能が働いているときに点灯します。

19 D.RANGE
ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します。

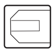
20 AAC
MPEG2 AAC信号が入力されたときに点灯します。

21 LPCM
リニアPCM信号が入力されたときに点灯します。

本体後面



1 デジタル入出力部（18、22、27ページ）



OPTICAL（光）デジタル音声入出力端子



COAXIAL（同軸）デジタル音声入力端子

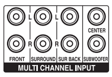


HDMI入出力端子*（18、19ページ）

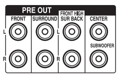
2 音声入出力部



音声入出力端子（29ページ）



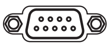
マルチチャンネル入力端子（28ページ）



PRE OUT（プリアウト）出力端子

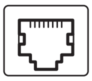
外部のパワーアンプなどとつなぎます。

3 RS232C端子



保守、サービス用です。

4 LANポート（スイッチングハブ）（31ページ）



5 ソニー製機器、その他外部機器のコントロール端子



IR REMOTE入出力端子（61ページ）



TRIGGER OUT端子（85ページ）

12Vトリガ対応の他の機器や、2ndゾーンまたは3rdゾーンにあるアンプの電源を連動してオン／オフするときにつなぎます。

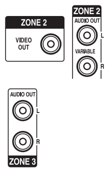
6 映像と音声の入出力部（18、22ページ）



音声入出力端子



映像入出力端子*



音声出力端子
映像出力端子
（61ページ）

7 コンポーネント映像入出力部（18、22ページ）

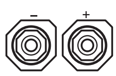


Y、P_B、P_R入出力端子*

8 DMPORT（27ページ）



9 スピーカー出力部（16ページ）



* お持ちのテレビをHDMI OUT端子やMONITOR OUT端子につなぐと、選んだ入力の映像を見ることができます（18ページ）。

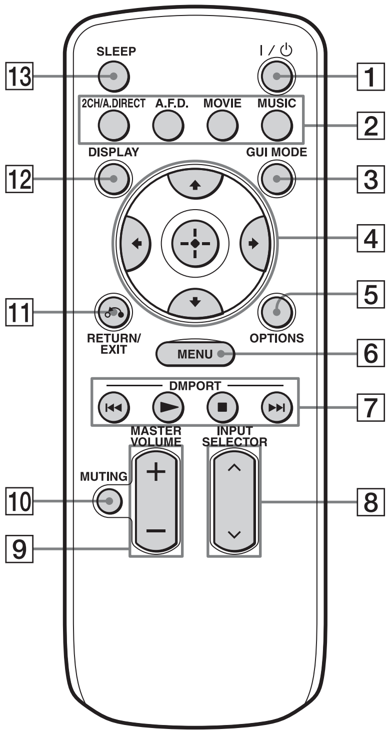
つづく

リモコン

付属のリモコンを使って、本機の操作ができます。また、リモコンに登録したソニー製機器を操作できます（100ページ）。

簡単リモコン（RM-AAU039）

本機の操作専用のリモコンです。主な機能をシンプルな操作で使うことができます。



1 I/⏻（電源オン／スタンバイ）
本体の電源を入／切します。

2 2CH/A.DIRECT、A.F.D.、MOVIE、MUSIC（49、50、51、52ページ）

3 GUI MODE（43ページ）

4 ⊕ ↑/↓/←/→
↑/↓/←/→で項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。

5 OPTIONS（44ページ）

6 MENU（33、43ページ）

7 ►、■、⏮/⏭（47、56ページ）

8 INPUT SELECTOR
再生する入力ソースを選びます。

9 MASTER VOLUME +/–（46ページ）

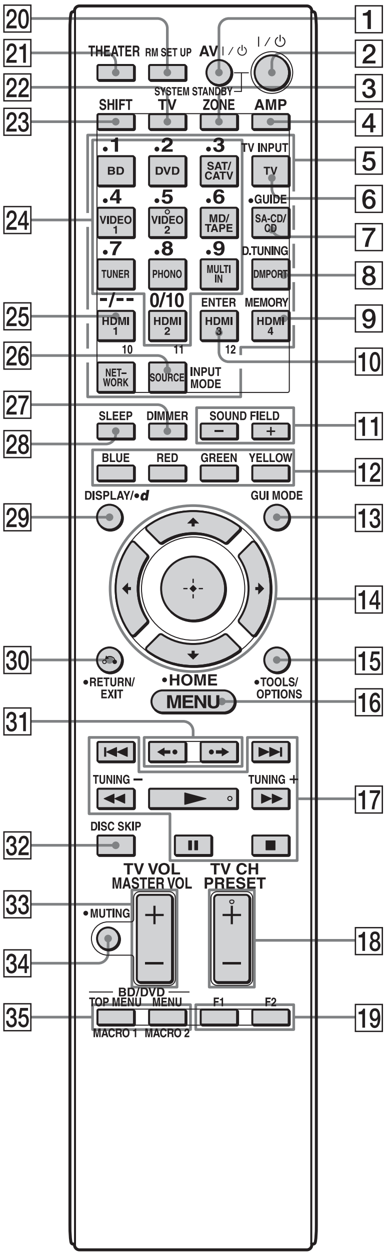
10 MUTING（46ページ）

11 RETURN/EXIT ↶（43ページ）

12 DISPLAY
表示窓の情報を切り換えるときに押します。

13 SLEEP（73ページ）

多機能リモコン（RM-AAL037）



1 AV I/⏻（電源オン／スタンバイ）
リモコンに登録されている機器の電源を入／切します（100ページ）。
I/⏻（2）と同時に押すと、2ndゾーンまたは3rdゾーンのアンプを含むすべての機器の電源が切れます（SYSTEM STANDBY）。

2 I/⏻（電源オン／スタンバイ）
本体の電源を入／切します。
ZONE（3）を押してリモコンを2ndゾーン（3rdゾーン）に切り換えると、I/⏻で2ndゾーン（3rdゾーン）の電源を入／切することができます。

3 ZONE（61ページ）

4 AMP
本機メインゾーンのリモコン操作を有効にします。

5 入力切り換え用ボタン
使用する機器を選びます。
入力切り換え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。
工場出荷時は、ソニー製機器の操作ができるように設定されています（46ページ）。リモコンに登録すると、他社製の機器を操作することもできます。詳しくは、「お使いの機器に合わせてリモコンコードを設定する」（100ページ）をご覧ください。

6 TV INPUT
TV（22）を押したあとTV INPUTを押して、テレビの入力信号を選びます。

7 GUIDE
SHIFT（23）を押したあとGUIDEを押して、番組表を表示します。

8 D.TUNING
SHIFT（23）を押したあとD.TUNINGを押して、放送局を手動受信するモードにします。

9 MEMORY
SHIFT（23）を押したあとMEMORYを押して、チューナーをメモリーモードにします。

10 ENTER
数字ボタンでチャンネルやディスク、トラックを選び、SHIFT（23）を押したあとENTERを押して決定します。

11 SOUND FIELD +/–（49、50、51、52ページ）
サウンドフィールドを選びます。

12 カラーボタン
カラーボタンが使えるときは、テレビ画面に操作ガイドが表示されます。操作ガイドにしたがい、選んだ操作を実行します。

13 GUI MODE（43ページ）

14 ⊕ ↑/↓/←/→
↑/↓/←/→を押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。

15 TOOLS/OPTIONS
本機やDVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーのオプションメニューを表示、選択します。

16 MENU、HOME
つないだオーディオ／映像機器やテレビのメニューを表示します。

17 ◀◀/▶▶[1]、■[1]、❚❚[1]、▶[1] [2]、|◀◀/▶▶|[1]
DVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、CDプレーヤー、MDデッキ、カセットデッキ、デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器などを操作します。

ご注意

- 機器によっては使えない機能もあります。
- 機能の説明は、例としてあげています。お使いの機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されているとおりに動かない場合があります。
- AV I/⏻（1）の機能は、入力切り換え用ボタン（5）を押すたびに自動的に切り換わります。

つづく

⑱ PRESET +[2]/–、TV CH +[2]/–
つないだ機器のチャンネルなどを切り換えます。詳しくは、「多機能リモコンで他機を操作する」（99ページ）をご覧ください。

⑲ F1/F2
BDまたはDVD（5）を押したあと、F1またはF2を押して操作モードを切り換えます。
- ハードディスクレコーダー
  F1：HDD
  F2：DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー
- DVD/VHSコンボプレーヤー
  F1：DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー
  F2：VHS

⑳ RM SET UP（76ページ）

㉑ THEATER
“ブラビアリンク”対応製品とつないだとき、シアター機能を入／切します。

㉒ TV
テレビの操作を有効にします。

㉓ SHIFT
押してボタンを点灯させると、ピンク色でボタン名が表記されたボタンの操作が有効になります。

㉔ **数字ボタン**
操作する機器の入力切り換え用ボタン（5）を押したあと、SHIFT（23）を押します。そのあとに数字ボタンを押して、DVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、CDプレーヤー、MDデッキのトラック、またはビデオデッキやBSデジタルチューナーのチャンネルを選びます。
0/10ボタンは、操作する機器によって0または10として働きます。

ヒント
操作する機器がテレビの場合（TV（22）を押した場合）は、SHIFT（23）を押さなくても、数字ボタンを押してチャンネルを選べます。

㉕ -/--
-/--を押してから数字ボタンを押すと、10以上の数字のDVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、CDプレーヤー、MDデッキのトラック、またはテレビやビデオデッキ、BSデジタルチューナーのチャンネルを選べます。
機器によっては、-/--を押さずに数字ボタンを押して選べる場合もあります。

㉖ SOURCE（65ページ）
メインゾーンで選んでいるソース機器の信号を2ndゾーンおよび3rdゾーンに出力することができます。

㉗ DIMMER
表示窓の明るさを切り換えます。

㉘ SLEEP（73ページ）

㉙ DISPLAY/d
本体の表示窓やテレビ画面に表示される接続機器の情報を切り換えます。

㉚ RETURN/EXIT
ブルーレイディスクレコーダーやDVDプレーヤー、BSデジタルチューナーのメニューやガイドがテレビ画面に表示されている場合、前のメニューに戻るときやメニューを消すときに押します。

㉛ ←./.→
アルバムを選びます。

㉜ DISC SKIP
マルチディスクチェンジャーを使っているときに、ディスクを選びます。

㉝ MASTER VOL +/–（46ページ）
TV VOL +/–
TV（22）を押したあとTV VOL +/–を押して、テレビの音量を調節します。

㉞ MUTING（46ページ）

㉟ BD/DVD TOP MENU、BD/DVD MENU
ブルーレイディスクレコーダーやDVDプレーヤー、テレビのメニューやガイドをテレビ画面に表示させるときに押します。↑/↓/←/→/⊕（14）を使ってメニュー操作を行います。
MACRO 1、MACRO 2（103ページ）
AMP（4）を押したあとMACRO 1またはMACRO 2を押してマクロ操作を設定または実行します。

[1] 各機器を操作できるその他のボタンについては、99 ページの表をご覧ください。
[2] 数字ボタンの 5/VIDEO 2 および ►、PRESET +/TV CH + には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

機器に合った接続方法を確認する

本機の天板にご注意文が記載された紙が貼られている場合は、必ずはがしてから本機をご使用ください。

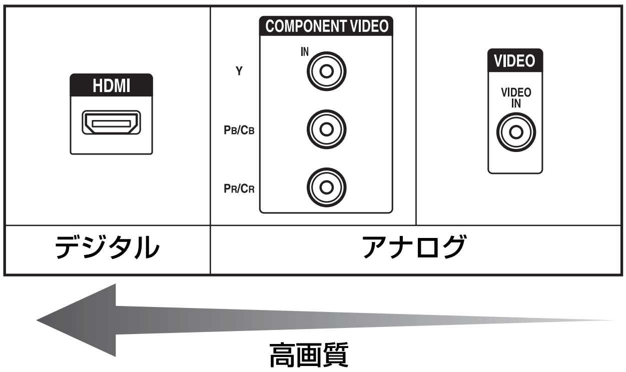
スピーカーを設置する

「準備 1：スピーカーを設置する」（14 ページ）をご覧ください。

↓

テレビおよび映像機器を接続する

画質は接続する端子によって変わります。右の図をご覧になり、機器の端子に合った接続を選んでください。



Q： テレビにHDMI端子がありますか？

→ **いいえ**：「準備 2：テレビを接続する」（18 ページ）の HDMI 端子のないテレビの接続および「HDMI 端子のない機器と接続する」（22 ページ）をご覧ください。

→ **はい**： 「準備 2：テレビを接続する」（18 ページ）の HDMI 端子のあるテレビの接続をご覧ください。

└→ **Q： 映像機器にHDMI端子がありますか？**

→ **いいえ**：「HDMI 端子のある機器と接続する」（19 ページ）をご覧ください。

→ **はい**： 「HDMI 端子のない機器と接続する」（22 ページ）をご覧ください。

↓

オーディオ機器を接続する

「準備 4：オーディオ機器を接続する」（27 ページ）をご覧ください。

↓

接続機器の音声出力を設定する

マルチチャンネルデジタル音声を出力するには、デジタル音声設定を確認してください。
ブルーレイディスクレコーダーでは、「HDMI 音声出力」が「自動」、「ドルビーデジタル」が「ドルビーデジタル」、「DTS」が「DTS」に設定されていることを確認してください。（2010 年 6 月現在）
プレイステーション 3 では、「BD / DVD 音声出力フォーマット（HDMI）」、「BD 音声出力フォーマット（光デジタル）」がそれぞれ「ビットストリーム」に設定されていることを確認してください。（システムソフトウェア 3.30 の場合）
詳しくは機器に付属の取扱説明書を参照してください。

↓

本体とリモコンの準備をする

「準備 6：本体とリモコンを準備する」（32 ページ）をご覧ください。

↓

スピーカーを設定する

「準備 7：スピーカーを設定する」（33 ページ）および「準備 8：自動でスピーカーを設定する （自動音場補正機能）」（36 ページ）をご覧ください。

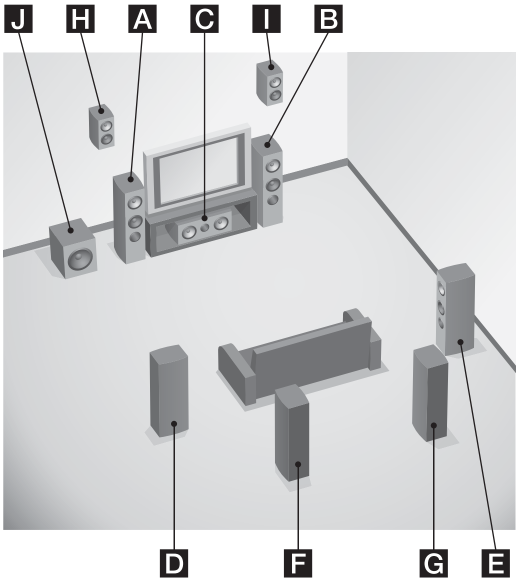
ご注意

スピーカーの接続を「Test Tone」（82 ページ）で確認することができます。音が正しく出力されていない場合は、スピーカーの接続を確認し、もう一度上記の設定を行ってください。

準備1：スピーカーを設置する

本機では最大7.1チャンネル（スピーカー 7本とアクティブサブウーファー 1本）のスピーカーシステムを構成できます。

スピーカーシステムの設置例



5.1チャンネル

映画館のようなマルチチャンネル音声を充分に楽しむには、5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）およびアクティブサブウーファーが必要です（5.1チャンネル）。

A フロントスピーカー（L）
B フロントスピーカー（R）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（L）
E サラウンドスピーカー（R）
J アクティブサブウーファー

7.1チャンネル（サラウンドバックスピーカー接続）

5.1チャンネルにサラウンドバックスピーカーを1本（6.1チャンネル）または2本（7.1チャンネル）追加することによって、DVDやブルーレイソフトに記録された6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの音声を忠実に再現できるようになります。

A フロントスピーカー（L）
B フロントスピーカー（R）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（L）
E サラウンドスピーカー（R）
F サラウンドバックスピーカー（L）
G サラウンドバックスピーカー（R）
J アクティブサブウーファー

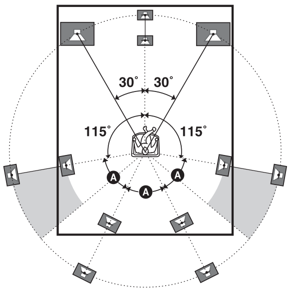
7.1チャンネル（フロントハイスピーカー接続）

5.1チャンネルにフロントハイスピーカーを2本追加することによって、Pro Logic IIzモードなどの垂直方向のサウンドエフェクトを楽しむことができます。

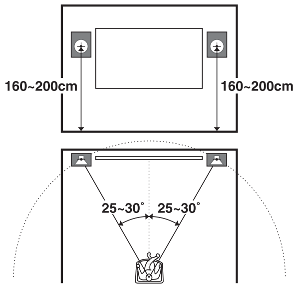
A フロントスピーカー（L）
B フロントスピーカー（R）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（L）
E サラウンドスピーカー（R）
H フロントハイスピーカー（L）
I フロントハイスピーカー（R）
J アクティブサブウーファー

ちょっと一言

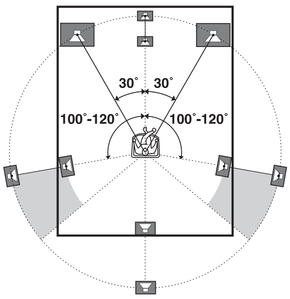
- サラウンドスピーカーの推奨配置角度は 115°です。また、耳より 30 cm 以上高い位置に配置すると音場感が向上します。
- サラウンドバックスピーカーはサラウンドスピーカーより後方に配置し、サラウンドスピーカーと同じか、さらに高い位置に配置します。
- Ⓐ の角度はなるべく同じにします。後方の壁が近い場合は、サラウンドバックスピーカーを高い位置に配置します。



- 理想的な角度が確保できない場合は、サウランドスピーカーおよびサラウンドバックスピーカーの位置が近づきすぎないように分散させて、なるべく左右対称になるように配置してください。
- フロントハイスピーカーは、なるべく前方の壁に近い位置に取り付けます。角度は 25 ～ 35°、高さは 160 ～ 200 cm（推奨 190 cm）です。スクリーンをご使用の場合は、左右はスクリーンの両端の少し外の位置に配置します。



- 6.1 チャンネルのスピーカーシステムを構成する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポジションの真後ろに配置します。

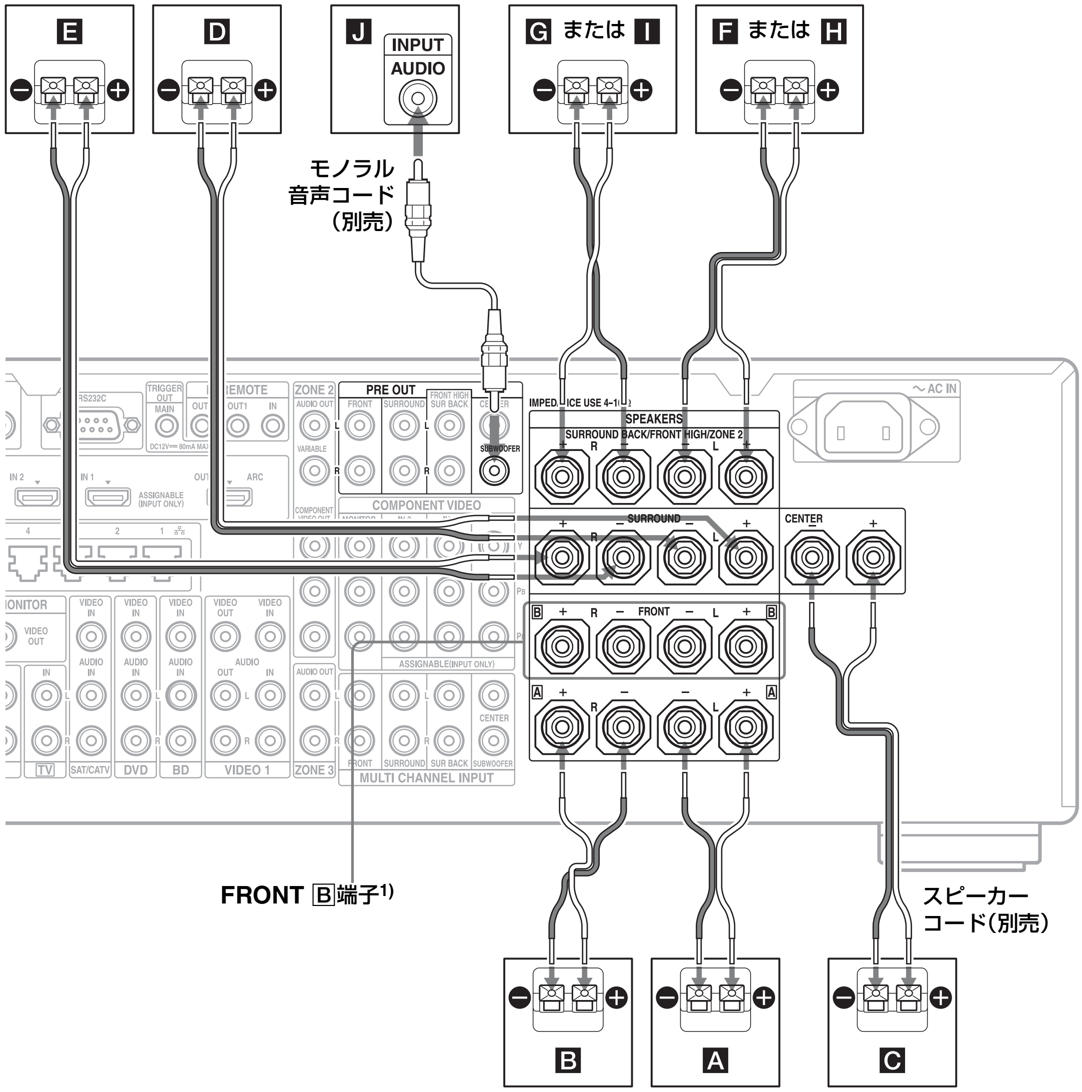


- アクティブサブウーファーには指向性がありませんので、お好みの場所に設置できます。

つづく

スピーカーを接続する

スピーカーコード類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。



A フロントスピーカー A（L）
B フロントスピーカー A（R）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（L）
E サラウンドスピーカー（R）
F サラウンドバックスピーカー（L）[2]
G サラウンドバックスピーカー（R）[2]
H フロントハイスピーカー（L）
I フロントハイスピーカー（R）
J アクティブサブウーファー[3]

1) 追加のフロントスピーカーを使用するときは、FRONT B 端子につないでください。使用するフロントスピーカーを本機前面の SPEAKERS（A/B/A+B/OFF）で選べます（35 ページ）。

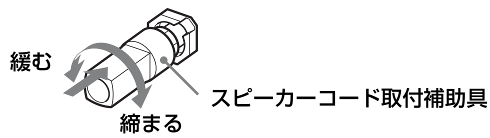
2) サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用するときは、SURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2 L 端子につないでください。

ご注意

- すべて 8Ω 以上のスピーカーをつないだ場合は、Speaker メニューの「Impedance」を「8 ohms」に設定してください。それ以外の場合は「4 ohms」に設定してください。詳しくは「準備 7：スピーカーを設定する」（33 ページ）をご覧ください。
- 電源コードをつなぐ前に、各スピーカー端子間でコードの金属線が接触していないことを確認してください。

ちょっと一言

- 別のパワーアンプにつないでいるスピーカーに出力するためには、PRE OUT 端子を使用してください。SPEAKERS 端子と PRE OUT 端子の両方から同じ信号が出力されます。例えば、フロントスピーカーだけを別のアンプにつなぎたい場合は、そのアンプを PRE OUT FRONT L、R 端子につなぎます。
- 付属のスピーカーコード取付補助具を使うと、楽に SPEAKERS 端子を緩めたり、締め付けたりできます。



[3] オートスタンバイ機能があるアクティブサブウーファーをお使いの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能を OFF にしてください。オートスタンバイ機能が ON になっていると、アクティブサブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイ状態になり、音が出なくなることがあります。

2ndゾーンの接続

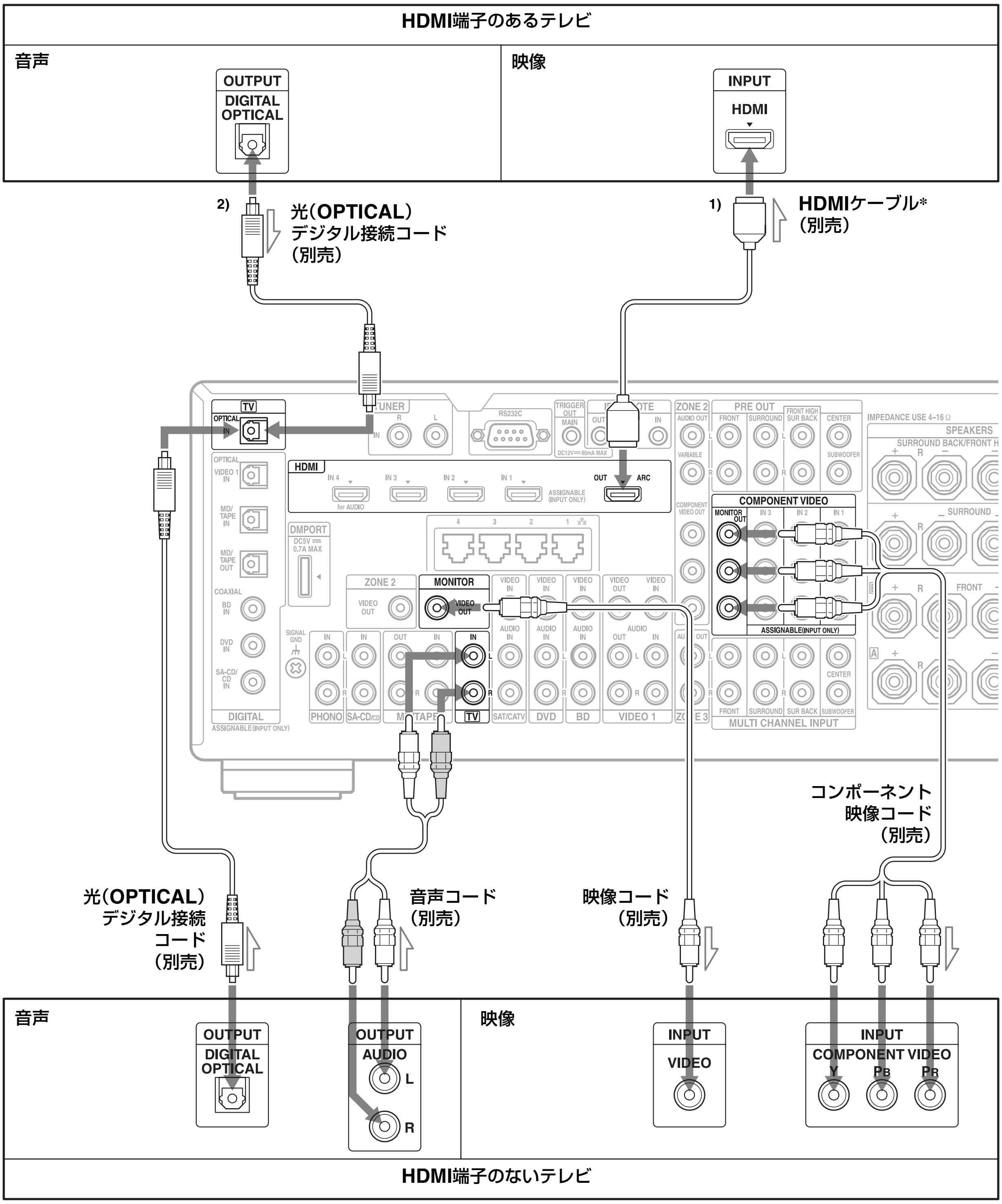
SURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2 L、R端子を2ndゾーンのスピーカー用に割り当てることができます。Speakerメニューの「Sur Back Assign」を「ZONE2」に設定してください。2ndゾーンの接続と操作について詳しくは、「マルチゾーン機能を使う」（61ページ）をご覧ください。

ご注意

サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーありのスピーカーパターンを選んでいる場合、2nd ゾーンのスピーカーは使えません。

準備 2:テレビを接続する

お持ちのテレビをHDMI OUT端子やMONITOR OUT端子につなぐと、選んだ入力の映像を見ることができます。
GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作できます。
すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声／映像コードをつないでください。



1) オーディオリターンチャンネル（ARC）機能対応のテレビの場合、テレビの音声は HDMI OUT 端子を経由して本機につないだスピーカーから出力されます。この場合は、HDMI 設定メニューの「Control for HDMI」を「ON」に設定してください（89 ページ）。光デジタル接続コードまたは音声コードなど、HDMI ケーブル以外から入力された音声信号を選びたい場合は、INPUT MODE で音声入力モードを切り換えてください（70 ページ）。

2) 本機をオーディオリターンチャンネル（ARC）機能対応のテレビと HDMI 接続している場合、テレビと本機を光デジタル接続コードでつなぐ必要はありません。

＊ソニー製の HDMI ケーブルをおすすめします。

テレビのマルチチャンネルサラウンドサウンド放送を楽しむには

本機につないだスピーカーからテレビのマルチチャンネルサラウンド放送の音声を聞くことができます。テレビのOPTICAL OUT端子と本機のOPTICAL IN端子をつなぐか、オーディオリターンチャンネル（ARC）機能対応テレビのHDMI IN端子と本機のHDMI OUT端子をつないでください。

準備 3:映像機器を接続する

HDMI端子のある機器と接続する

HDMIとはHigh-Definition Multimedia Interfaceの略で、映像信号と音声信号をデジタルで伝送するインターフェースです。

HDMI接続でできること

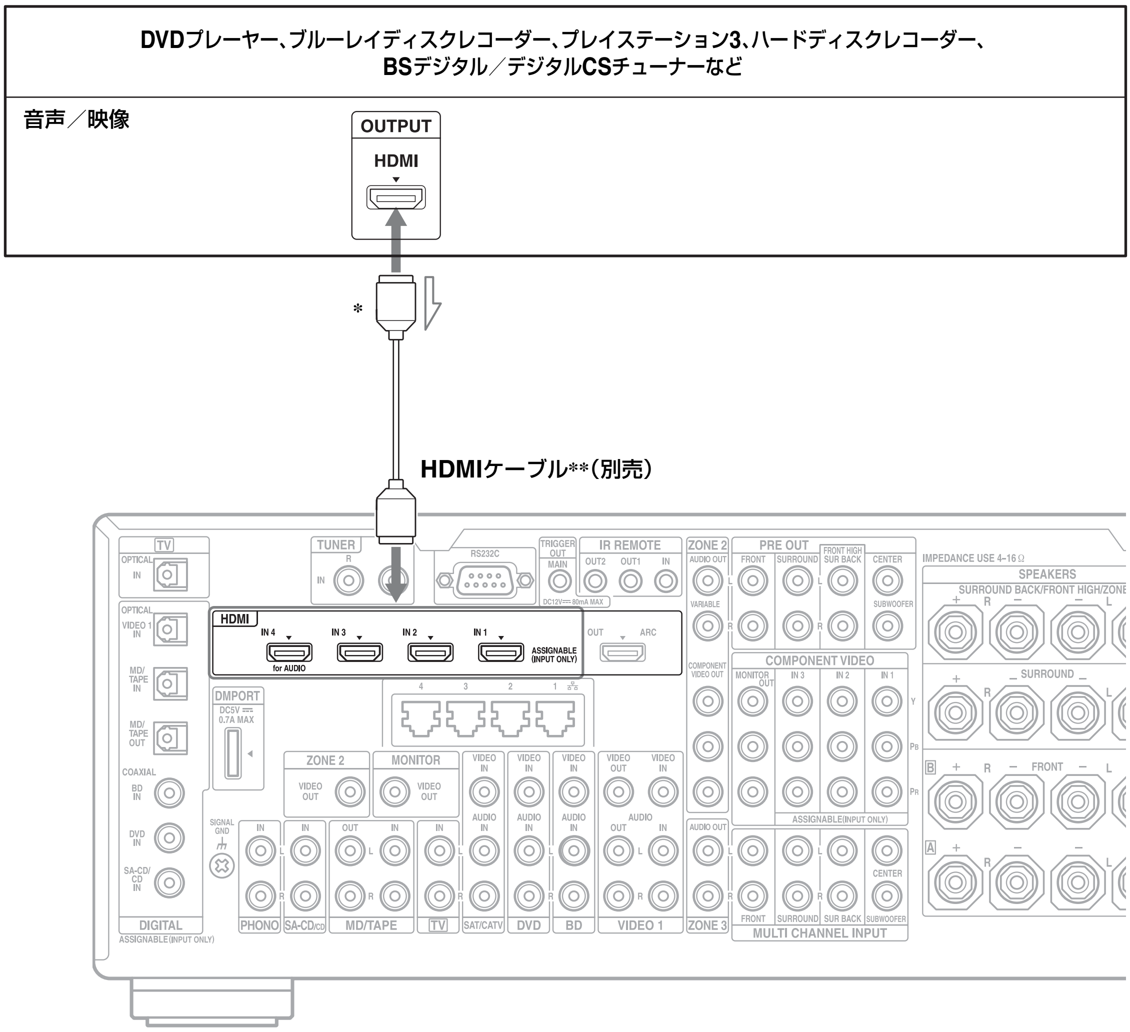
- 本機ではHDMIで転送されたデジタル音声信号をスピーカー端子とPRE OUTから出力できます。ドルビーデジタル、DTS、リニアPCM、AACの各フォーマットに対応しています。詳しくは、「本機が再生できる音声フォーマット」（53ページ）をご覧ください。
- 映像端子、コンポーネント映像端子に入力したアナログ映像信号を、HDMIに変換して出力できます。映像を変換したとき、音声信号はHDMI OUT端子から出力されません。
- 本機はDeep Color、“x.v.Color”および3D伝送に対応しています。
- 本機はHDMI機器制御機能に対応しています。

ご注意

- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- MONITOR VIDEO OUT 端子にはテレビやプロジェクターなどの映像機器をつないでください。録画機器をつないでも、録画できないことがあります。
- 「Pass Through」を「OFF」に設定している場合、電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。
- テレビのアンテナのつなぎかたによってはテレビの映像が乱れることがあります。この場合、アンテナを本機から離して設置してください。

ちょっと一言

- 本機は映像信号の変換機能を持っています。詳しくは、「映像の変換機能のご注意」（26 ページ）をご覧ください。
- テレビの音声出力端子を本機の TV IN 端子につなぐと、テレビの音声を本機につないだスピーカーで聞けます。テレビの音声出力端子が可変／固定切り換えの場合には、固定にします。



＊　本機の HDMI IN 端子には HDMI 出力端子のあるあらゆる機器をつなぐことができますが、HDMI IN 4 端子は、特に音質に配慮した入力端子です。

＊＊ソニー製の HDMI ケーブルをおすすめします。

ご注意

ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

接続ケーブルについて

- High Speed HDMIケーブルをご利用ください。Standard HDMIケーブルの場合、1080p、Deep Colorまたは3Dの映像が正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルでDVI-D機器をつないだ場合、音声や映像が出力されないことがあります。音声が正しく出力されない場合は、他の種類の音声コードやデジタル接続コードでつなぎ、「⊞ Input」のOptionメニューにある「Input Assign」の設定を行ってください。

HDMI端子の接続のご注意

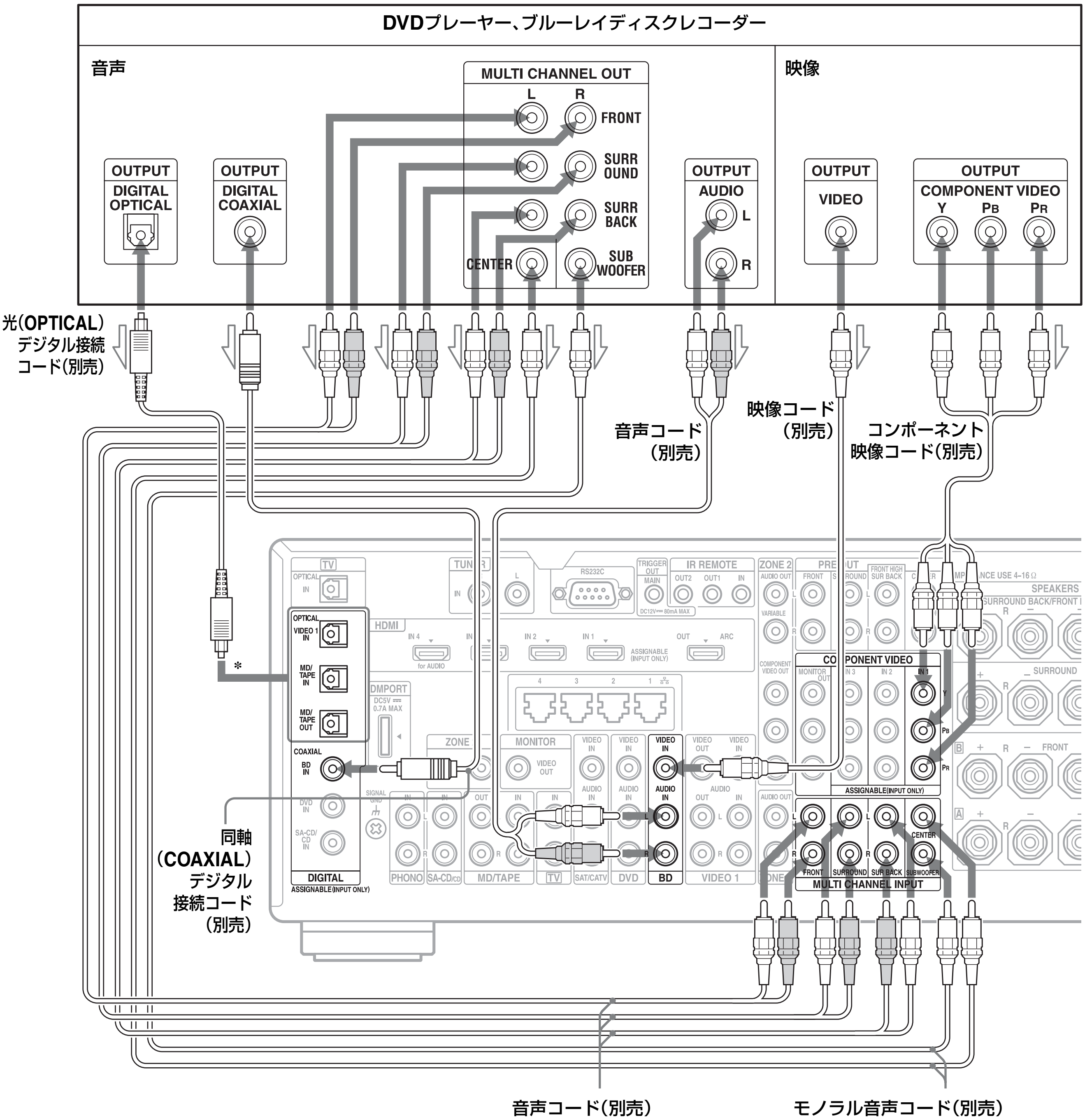
- HDMI IN端子に入力された音声信号はスピーカー出力端子、PHONES端子、HDMI OUT端子、PRE OUT端子から出力することができます。他の音声端子からは出力されません。
- HDMI IN端子に入力された映像信号は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。VIDEO OUT端子とMONITOR VIDEO OUT端子からは出力されません。
- テレビのスピーカーから音声を出すときは、HDMIメニューの「Audio Out」を「TV+AMP」に設定してください。「AMP」に設定すると、音声はテレビのスピーカーから出力されません。本機からマルチチャンネル音声を出力する場合は、「AMP」に設定してください。
- 「Pass Through」を「OFF」に設定している場合、電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。
- HDMI端子からの音声信号（フォーマット、サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出力されないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数やチャンネル数、音声フォーマットが切り換わったときに、音声が途切れる場合があります。
- 接続機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI出力端子からの映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、接続機器の仕様をご確認ください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）を楽しむには、プレーヤーの映像解像度を720p/1080i以上に設定してください。
- マルチチャンネルリニアPCMを楽しむには、プレーヤーの映像解像度の設定が必要な場合があります。プレーヤーの取扱説明書を参照してください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）、マルチチャンネルリニアPCMはHDMI接続でのみ楽しめます。
- 3D映像を楽しむには、3D表示に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー、"プレイステーション3"など）と本機をHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のブルーレイディスクなどを再生してください。
- 各HDMI機器は、表記されているHDMIのVersionで定義されている機能をすべて包括しているものではありません。例えばVersion 1.3a対応機器がすべてDeep Colorに対応しているわけではありません。
- 本機につないだ機器について詳しくは、各機器の取扱説明書を参照してください。

つづく

HDMI端子のない機器と接続する

DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーを接続する

すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声／映像コードをつないでください。



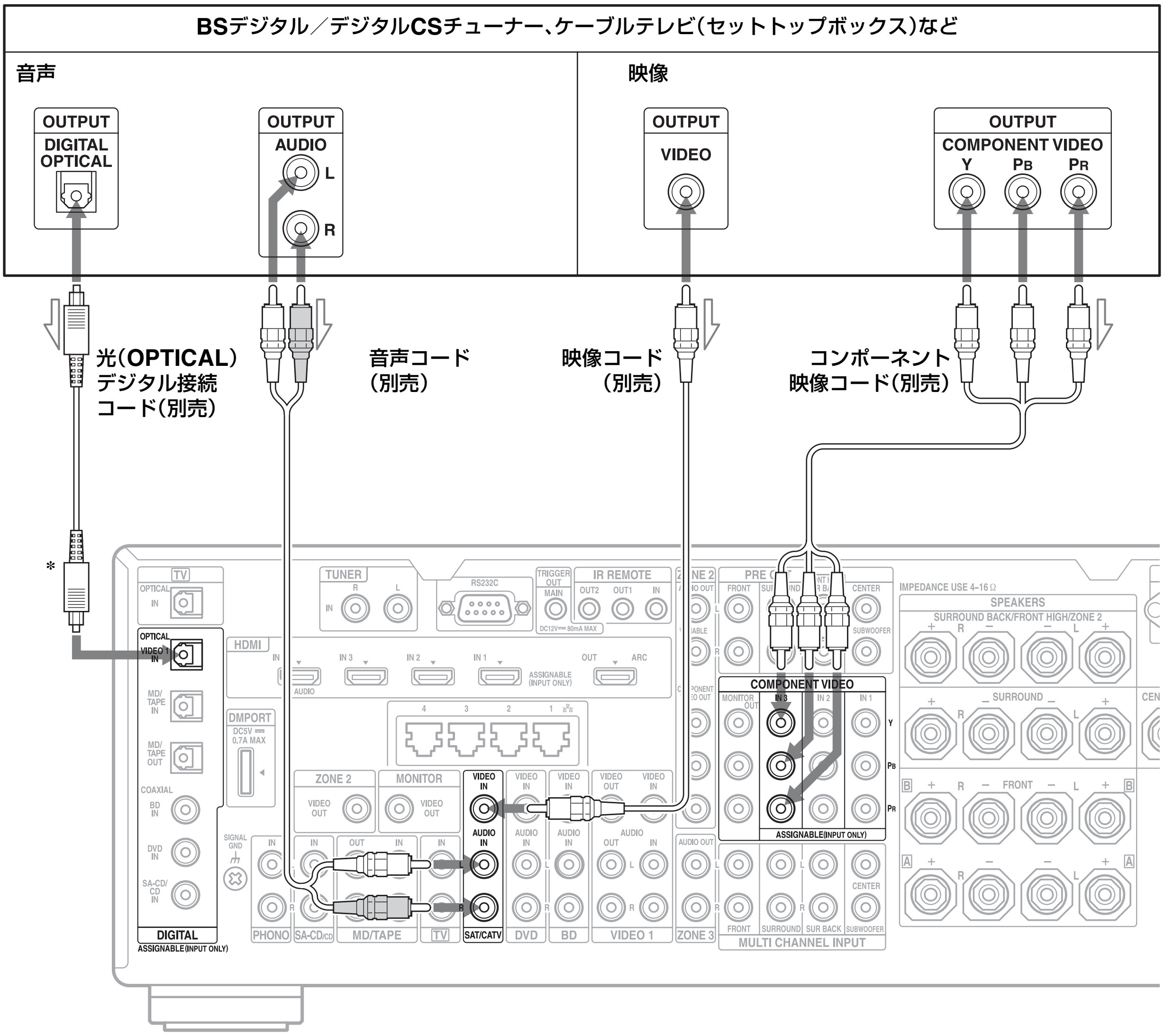
＊OPTICAL 端子のある機器をつなぐときは、Input メニューの「Input Assign」を設定してください（71 ページ）。

ご注意

- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- マルチチャンネルのデジタル音声を出力するために、DVD プレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー側でデジタル音声出力の設定をする必要があります。詳しくは、DVD プレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書を参照してください。
- DVD プレーヤーやブルーレイディスクレコーダーには SURROUND BACK 端子がないことがあります。

BSデジタル／デジタルCSチューナー、ケーブルテレビ（セットトップボックス）を接続する

すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声／映像コードをつないでください。



＊OPTICAL 端子のある機器をつなぐときは、Input メニューの「Input Assign」を設定してください（71 ページ）。

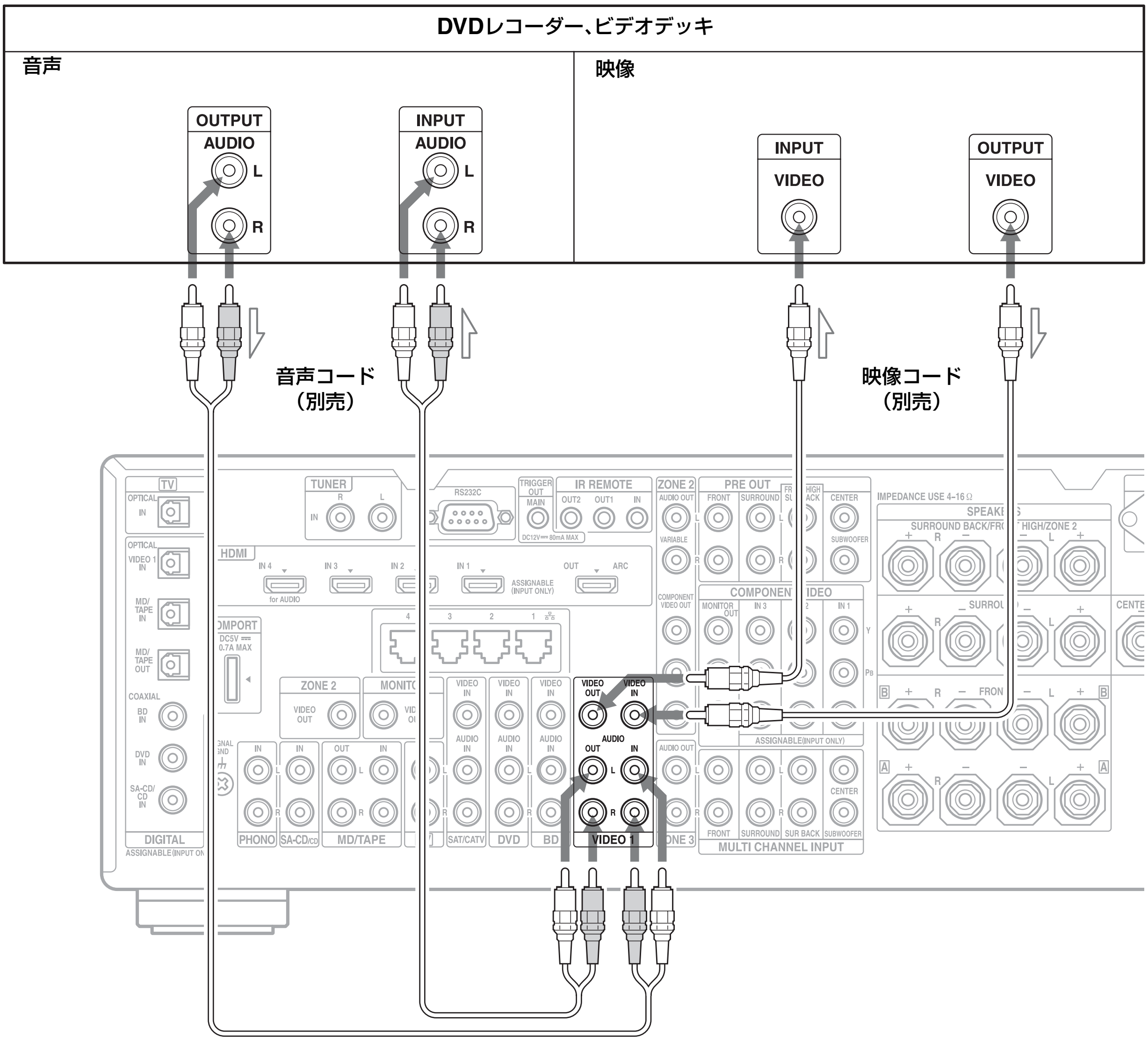
ご注意

ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

つづく

DVDレコーダー、ビデオデッキを接続する

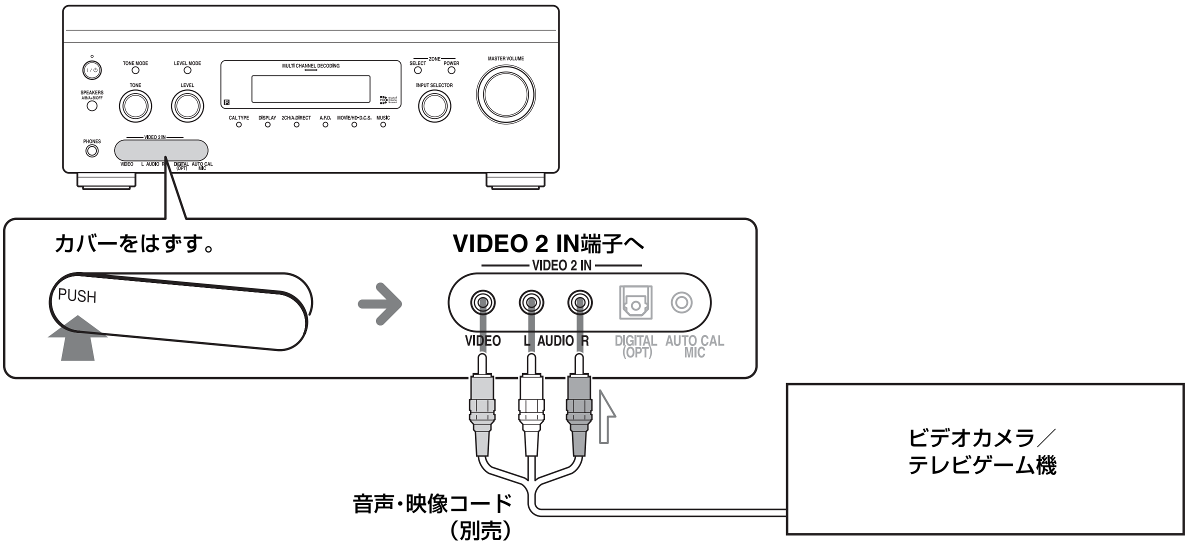
すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声／映像コードをつないでください。



ご注意

ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

ビデオカメラ、テレビゲームを接続する



映像信号の変換機能について

本機には映像信号の変換機能があります。

- コンポジット映像信号をHDMI映像信号、コンポーネント映像信号に変換できます。
- コンポーネント映像信号をHDMI映像信号、コンポジット映像信号に変換できます。

初期設定では、下の表のように、つないだ機器からの映像信号をHDMI OUT端子またはMONITOR OUT端子から出力します。お使いのモニターの解像度にあった映像変換機能に設定することをおすすめします。映像変換機能の詳細については、「映像設定（Video）」（88ページ）をご覧ください。

出力端子 / 入力信号（つなぐ端子）	HDMI OUT	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT	MONITOR VIDEO OUT
HDMI映像（HDMI IN 1/2/3/4*）	○	×	×
コンポジット映像（VIDEO IN）	○	○	○
コンポーネント映像（COMPONENT VIDEO IN）	○	○	○

○ :映像信号を出力します。
× :映像信号を出力しません。
＊HDMI 信号は、コンポーネント映像信号、コンポジット映像信号に変換できません。

つづく

映像の変換機能のご注意

- ビデオデッキからのコンポジット映像信号を変換したものをテレビにつないでいる場合、映像信号の状態によってはテレビの映像が横方向にずれたり、映像が出なくなる場合があります。
- 変換された映像信号はVIDEO 1 OUT端子からは出力されません。
- 画質向上回路（TBCなど）を搭載したビデオデッキなどを再生するとき、映像が乱れたり出なくなることがあります。
  この場合、ビデオデッキなどの画質向上回路（TBCなど）をオフにしてお使いください。
- COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子へ出力される信号の解像度は1125i（1080i）まで、HDMI OUT端子へ出力される信号の解像度は1125p（1080p）まで変換できます。
- 著作権保護情報が入っている映像信号の解像度を変換するとき、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子には解像度の制限があります。
  COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子への出力は525p（480p）/625p（576p）の解像度までとなります。HDMI OUT端子には制限がありません。
- 解像度変換した映像信号は、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子とHDMI OUT端子に同時に出力できません。両方につないでいる場合は、映像信号はHDMI OUT端子から出力されます。
- MONITOR VIDEO OUT端子、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子の両方の端子から映像を出力したい場合は、Videoメニューの「Resolution」の設定を「AUTO」または「480i/576i」に設定してください。

録画機器をつなぐには

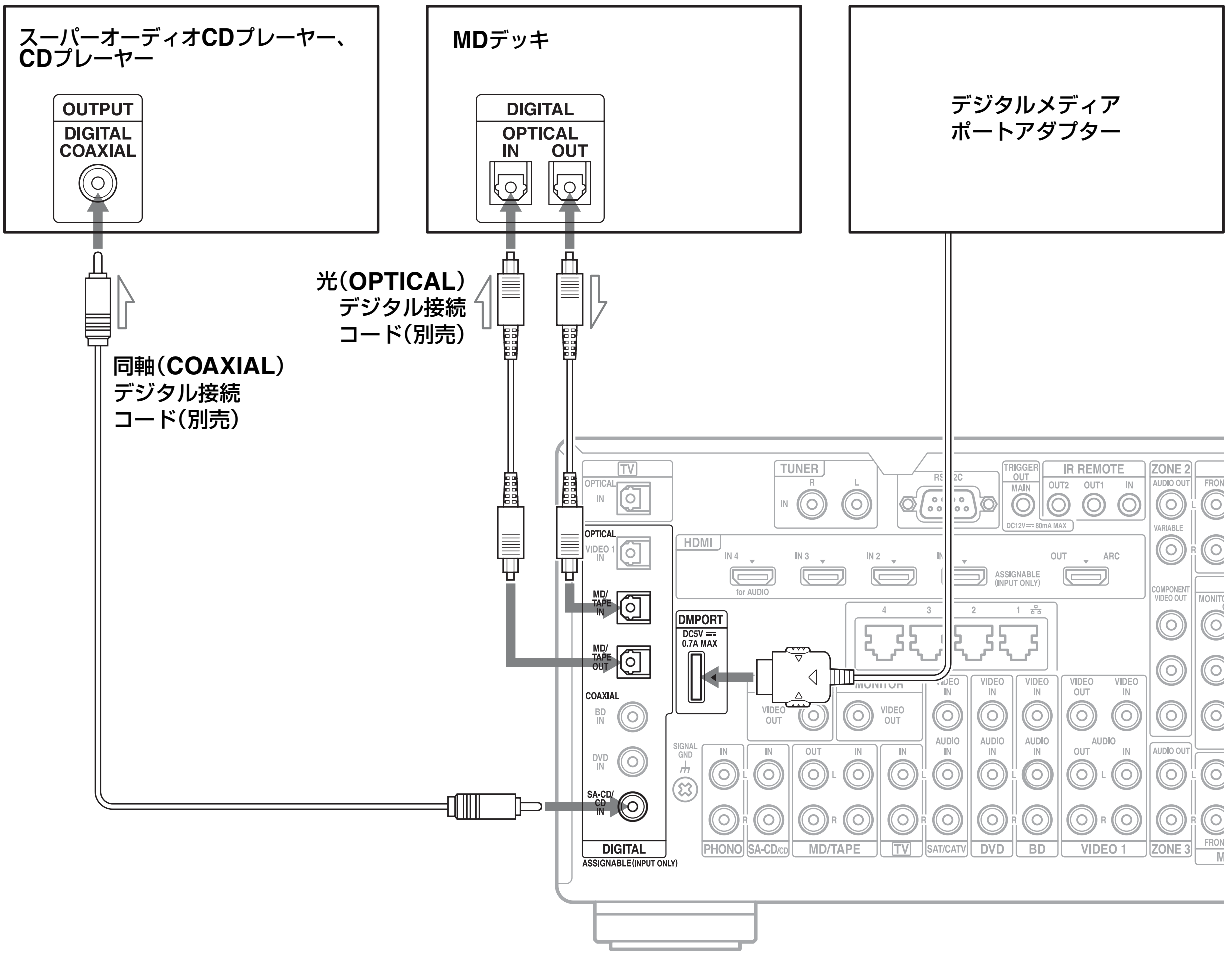
録画する場合は、録画機器を本機のVIDEO OUT端子につないでください。VIDEO OUT端子には映像変換機能がないので、入力信号と出力信号は同じ種類の端子につないでください。

ご注意
HDMI OUT 端子や MONITOR OUT 端子からの出力信号は、正しく録画できない場合があります。

準備 4:オーディオ機器を接続する

デジタル音声出入力端子のある機器

スーパーオーディオCD/CDプレーヤーやMDデッキ、デジタルメディアポートアダプターの接続例です。



スーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生するときのご注意

- 本機のCOAXIAL SA-CD/CD IN端子につないだスーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生しても、音声は出力されません。スーパーオーディオCDのディスクを再生するには、本機のMULTI CHANNEL INPUTまたはSA-CD/CD IN端子につないでください。スーパーオーディオCDプレーヤーの取扱説明書もあわせて参照してください。
- スーパーオーディオCDのデジタル音声はデジタル録音できません。

複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は

「他の入力からの音声／映像を楽しむ （Input Assign)」（71ページ）をご覧ください。

ご注意

- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。
- デジタルメディアポートアダプターをはずすときは、コネクタの側面を押しながらはずしてください。コネクタはロックで固定されています。

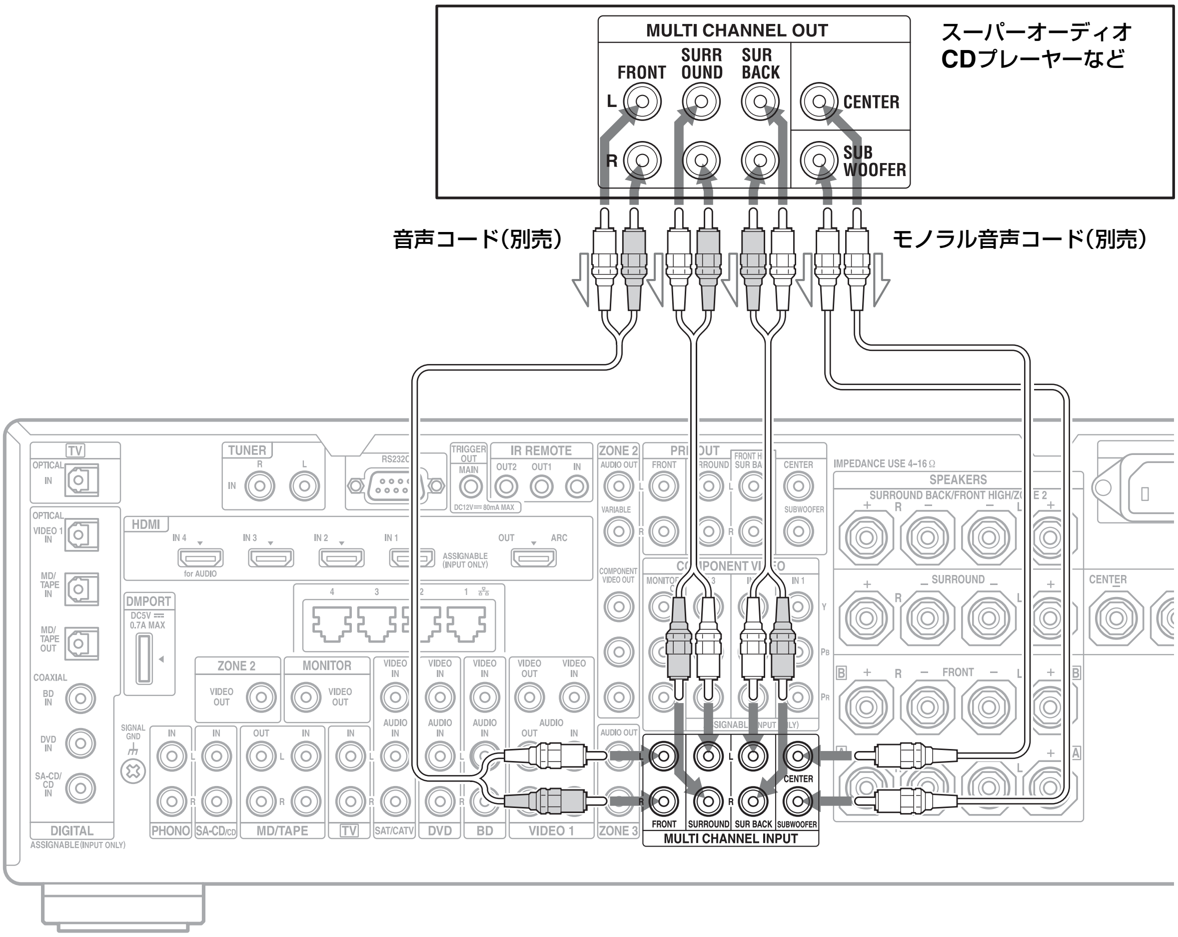
ちょっと一言

本機の DIGITAL 音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。

つづく

マルチチャンネル音声出力端子のある機器

お持ちのスーパーオーディオCDプレーヤーなどにマルチチャンネル音声出力端子がある場合は、本機のMULTI CHANNEL INPUT端子につないで、マルチチャンネル音声を楽しむことができます。外部のマルチチャンネルデコーダーとつなぐためにマルチチャンネル入力端子を使用することもできます。

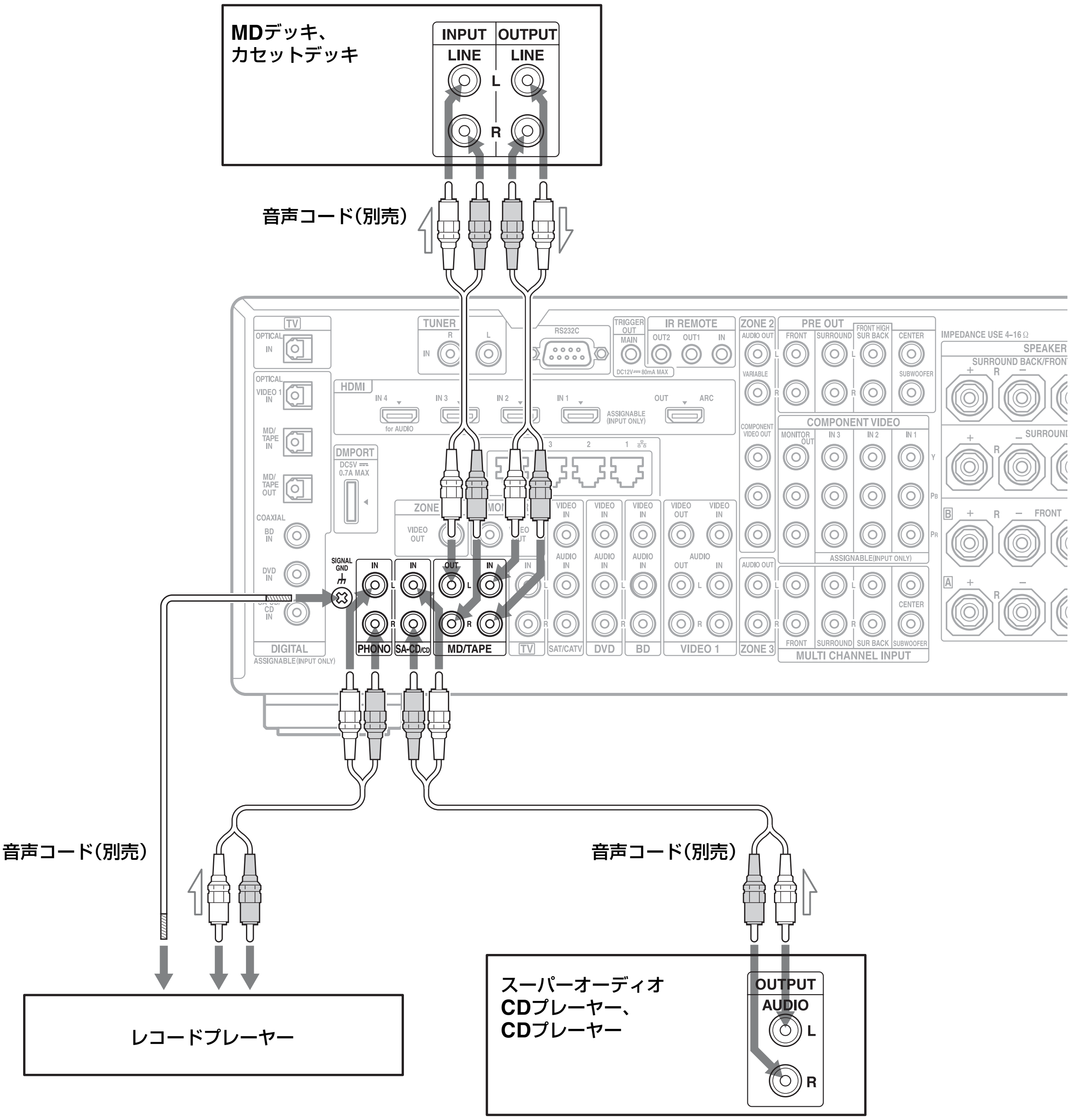


ご注意

- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- スーパーオーディオ CD プレーヤーには SURROUND BACK 端子がないことがあります。
- サラウンドバックスピーカーなしのスピーカーパターンを選んでいる場合、SUR BACK 端子に入力した信号は無効になります。
- MULTI CHANNEL INPUT 端子に入力された音声信号は、録音出力端子からは出力されません。音声信号は録音できません。

アナログ音声出力端子のある機器

スーパーオーディオCDプレーヤーやCDプレーヤー、MDデッキ、カセットデッキ、レコードプレーヤーなどアナログ端子のある機器の接続例です。



ご注意

- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- お持ちのレコードプレーヤーにアース線が付いているときは、ハム音を防ぐために、アース線を本機の ⏚ SIGNAL GND 端子につないでください。
- 本機の PHONO 入力は MM カートリッジに対応しています。

準備 5：ネットワークに接続する

ホームネットワークとDLNA対応機器の設定をします。お使いのパソコンがインターネットに接続されている場合は、本機も有線LAN経由でインターネットに接続することができます。

必要なシステム構成

本機のネットワーク機能を使うには、以下のシステム環境が必要です。

ブロードバンド回線

SHOUTcastを聞いたり、本機のソフトウェアアップデート機能を使ったりするためには、インターネットに接続できるブロードバンド回線が必要です。

モデム

ブロードバンド回線に接続し、インターネットで通信するための機器です。ルーターと一体型のモデムもあります。

ルーター

- ネットワーク上のコンテンツを楽しむためには、100 Mbps以上の通信速度に対応したルーターをお使いください。
- DHCPサーバー機能内蔵のルーターをおすすめします。DHCPサーバー機能はLAN上のIPアドレスを自動的に割り当てるものです。

LANケーブル

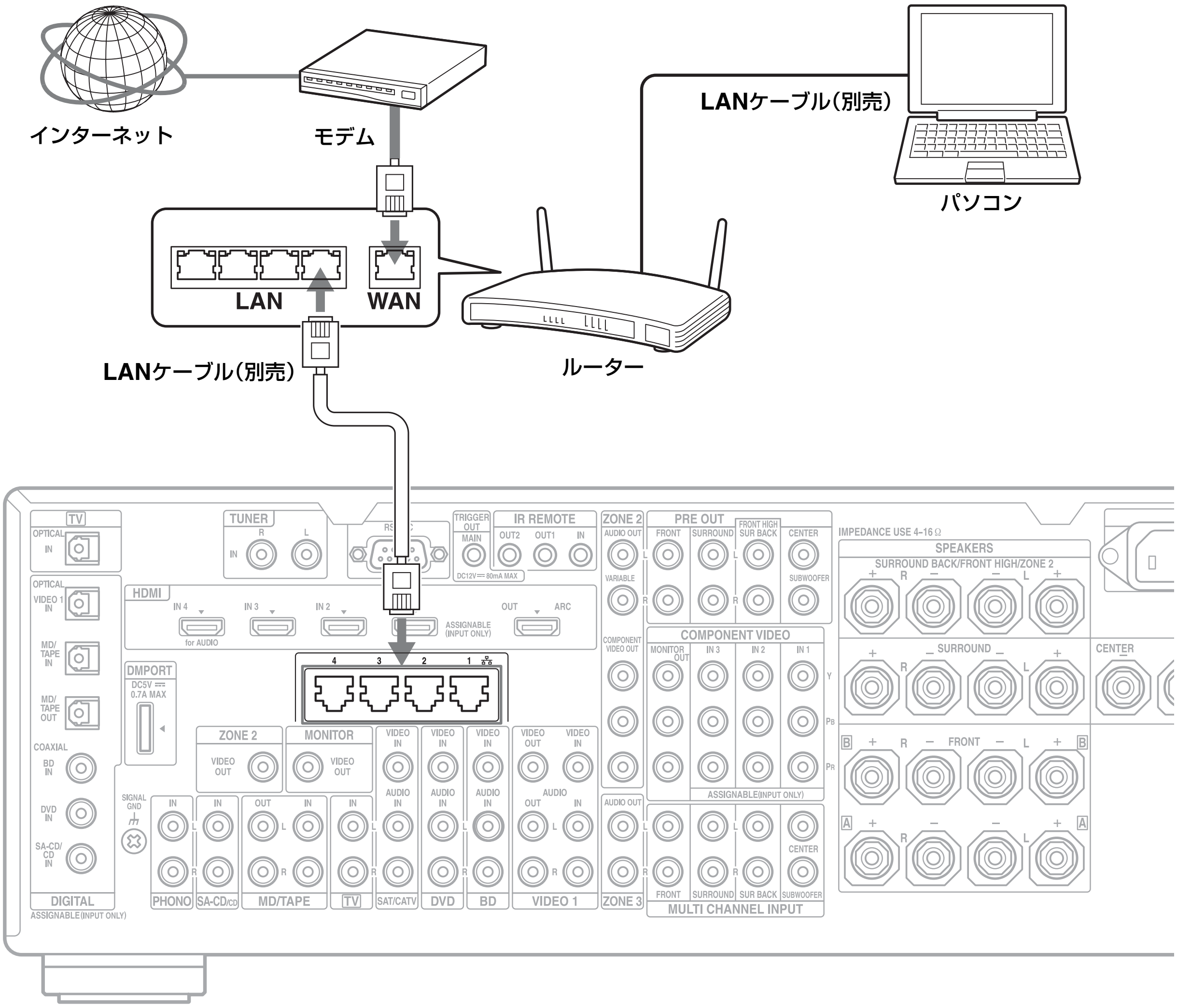
- カテゴリー 5準拠のLANケーブルをおすすめします。フラットタイプのLANケーブルにはノイズの影響を受けやすいものがあります。ノーマルタイプのLANケーブルをおすすめします。
- 電気機器からの電源ノイズのある環境やノイズの多いネットワーク環境で本機をお使いの場合は、シールドタイプのLANケーブルをお使いください。

ご注意

インターネットへの接続方法は、お使いの機器、プロバイダー、パソコン、ルーターによって異なります。

接続の例

本機とパソコンで構成したホームネットワークの接続例です。
有線での接続をおすすめします。



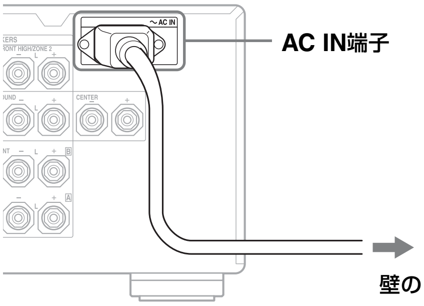
ご注意

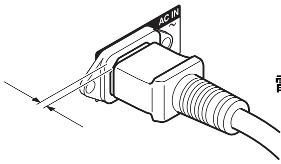
- 無線接続していると、パソコンでの音声の再生がときどき途切れることがあります。
- ルーターは 1 本の LAN ケーブルで本機のポート 1 から 4 のいずれか 1 つにつないでください。同じルーターと本機を 2 本以上の LAN ケーブルでつながないでください。故障の原因となります。

準備 6:本体とリモコンを準備する

電源コードをつなぐ

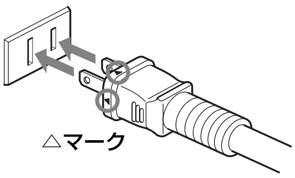
付属の電源コードを本機後面のAC IN端子につなぎ、電源コードのプラグを壁のコンセントにつなぎます。





本機後面に電源コードを奥まで差し込んでも、プラグと本機後面の間に数ミリの隙間ができますが、これで正しくつながれています。

電源コードについて



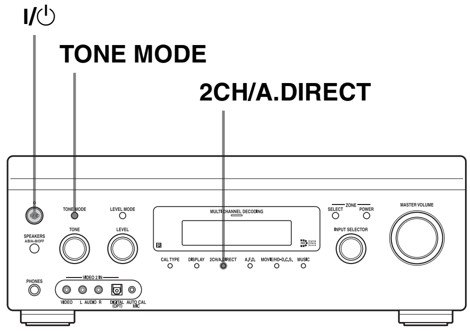
付属の電源コードには、上の図の位置に△マークがあります。これはよりよい音質にするために、壁のコンセントの差し込み口との極性を合わせるためです。壁のコンセントの差し込み口に長短がある場合は、△マークのある側を長い穴に差し込んでください。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、多機能リモコン、簡単リモコンのぞれぞれに単3形マンガン乾電池（付属）2個を

本機を初めてお使いになるときは（本機を初期設定状態にする）

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。
また、本機をお使いになったあと、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。



1 I/⏻ を押して、本機の電源を切る。

2 TONE MODE と 2CH/A.DIRECT を押しながら、I/⏻ を押して、本機の電源を入れる。

3 2、3 秒後に TONE MODE と 2CH/A.DIRECT を離す。

表示窓に「CLEARING」と表示されたあと、「CLEARED!」と表示されます。
初期設定から変更、調整された設定はすべて初期化されます。

本機を再起動する

本機の不具合で本機またはリモコンのボタンが働かなくなった場合は、本機を再起動してください。

1 I/⏻ を押して、本機の電源を切る。

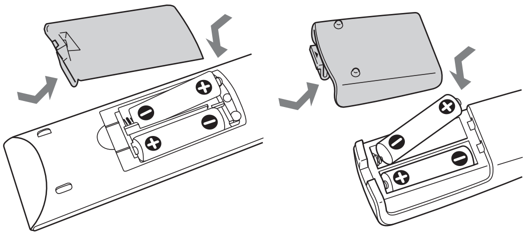
2 I/⏻を10秒押し続ける。

本機が再起動します。I/⏻の上のランプが緑色で点滅すると、再起動完了です。

ご注意

- 電源コードを差す前に、各スピーカー端子間でコードの金属線が接触していないことを確認してください。
- 電源コードをしっかり差し込んでください。
- 初期化が完了するまで 30 秒ほどかかります。表示窓に「CLEARED!」と表示されるまで電源を切らないでください。

入れます。

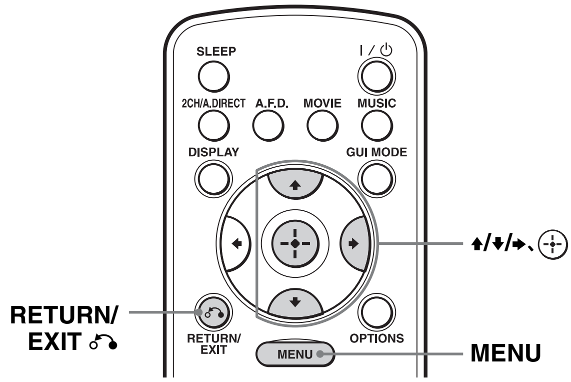


RM-AAL037　　RM-AAU039

準備 7:スピーカーを設定する

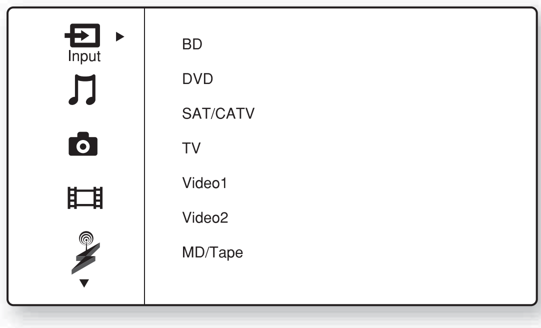
スピーカーインピーダンスを設定する

お使いのスピーカーに合わせてスピーカーインピーダンスを設定してください。



1 MENU を押す。

メニューがテレビ画面に表示されます。



ご注意

- 極端に温度や湿度の高い場所にリモコンを放置しないでください。
- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂の恐れがあります。次のことを必ず守ってください。
  - ⊕ と ⊖ の向きを正しく入れてください。
  - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - 液もれしたときは、電池入れに付いた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 電池交換時に、リモコンにプログラムした内容が消える場合があります。その場合は、再登録してください（103 ページ）。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部Ⓡに直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。誤動作の原因となります。

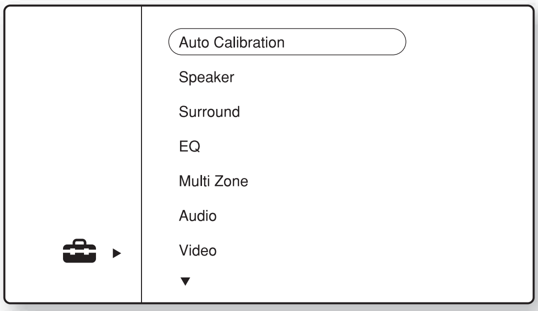
ちょっと一言

乾電池の残りが少なくなるとリモコンで操作できる範囲が狭くなります。これを目安にして、新しい乾電池に交換してください。

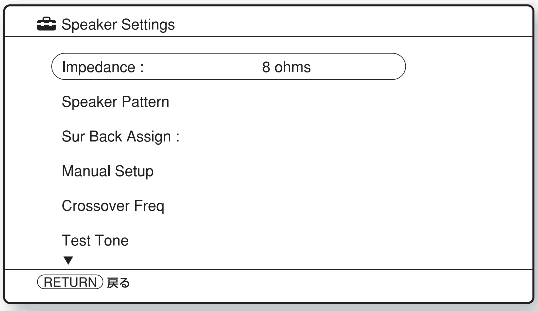
つづく

2 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。

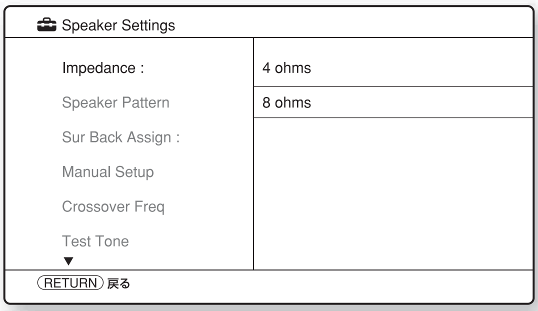
Settingsメニューが表示されます。



3 ↑/↓ をくり返し押して「Speaker」を選び、⊕を押す。

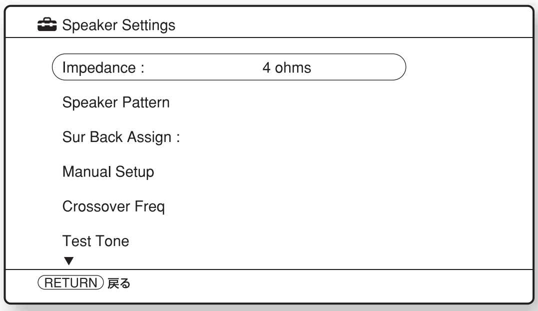


4 ↑/↓ をくり返し押して「Impedance」を選び、⊕を押す。



5 ↑/↓ をくり返し押してお使いのスピーカーに合わせて「4 ohms」または「8 ohms」を選び、⊕を押す。

選んだ数値で確定します。



6 RETURN/EXIT ↶ を押す。

メニューを消すには

MENUを押します。

スピーカーパターンを選ぶ

お使いのスピーカーシステムに合わせてスピーカーパターンを選んでください。

1 MENU を押す。

メニューがテレビ画面に表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。

Settingsメニューが表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して「Speaker」を選び、⊕を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して「Speaker Pattern」を選び、⊕を押す。

スピーカーパターン画面が表示されます。

ご注意

- お使いのスピーカーのインピーダンスが不明のときは、スピーカーの取扱説明書を参照してください（通常、スピーカー後面にインピーダンスが表示されています）。
- すべて 8Ω 以上のスピーカーをつないだ場合は、「Impedance」を「8 ohms」に設定してください。それ以外の場合は「4 ohms」にしてください。
- FRONT [A] と FRONT [B] 端子の両方にスピーカーをつないで使う場合は、8Ω 以上のスピーカーをつないでください。
  – 16Ω 以上のスピーカーを [A] と [B] 端子の両方につないだときは、「Impedance」を「8 ohms」に設定してください。
  – それ以外のときは、「4 ohms」に設定してください。

5 ↑/↓ をくり返し押してお好みのスピーカーパターンを選び、⊕を押す。

6 RETURN/EXIT ↶ を押す。

サラウンドバックスピーカーを設定する

SURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2端子につないだスピーカーの使いかたを用途に応じて切り換えることができます。自動音場補正を行う前に必ず「Sur Back Assign」の設定をしてください。

1 MENU を押す。

メニューがテレビ画面に表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。

Settingsメニューが表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して「Speaker」を選び、⊕を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して「Sur Back Assign」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押してお好みのパラメーターを選び、⊕を押す。

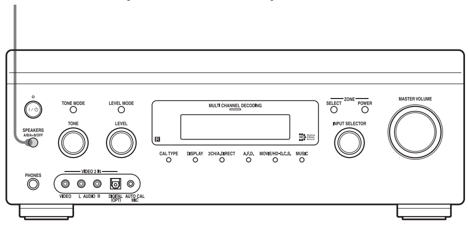
パラメーター	内容
OFF	SURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2端子をサラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカー接続用に使用することができます。
BI-AMP	SURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2端子をフロントスピーカーのバイアンプ接続用に使用することができます。
ZONE2	SURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2端子を2ndゾーン接続用に使用することができます。

6 RETURN/EXIT ↶ を押す。

フロントスピーカーを選ぶ

使用するフロントスピーカーを選びます。

SPEAKERS（A/B/A+B/OFF）



SPEAKERS(A/B/A+B/OFF)を、くり返し押して、使用するフロントスピーカーシステムを選ぶ。

Aまたは Bどちらのスピーカー端子が選ばれているか、表示窓で確認することができます。

表示	選ばれるスピーカーシステム
SP A	FRONT A端子につないだスピーカー
SP B	FRONT B端子につないだスピーカー
SP AB	FRONT AとFRONT B端子につないだスピーカー（パラレル接続）
	表示窓に「SPK OFF」と表示されます。すべてのスピーカー端子とPRE OUT端子から音声が出力されません。

ご注意

- 「Sur Back Assign」は、サラウンドバックスピーカーおよびフロントハイスピーカーなしのスピーカーパターンを選んでいる場合に設定することができます。
- ヘッドホンがつながっているときは、SPEAKERS（A/B/A+B/OFF）の設定は無効です。

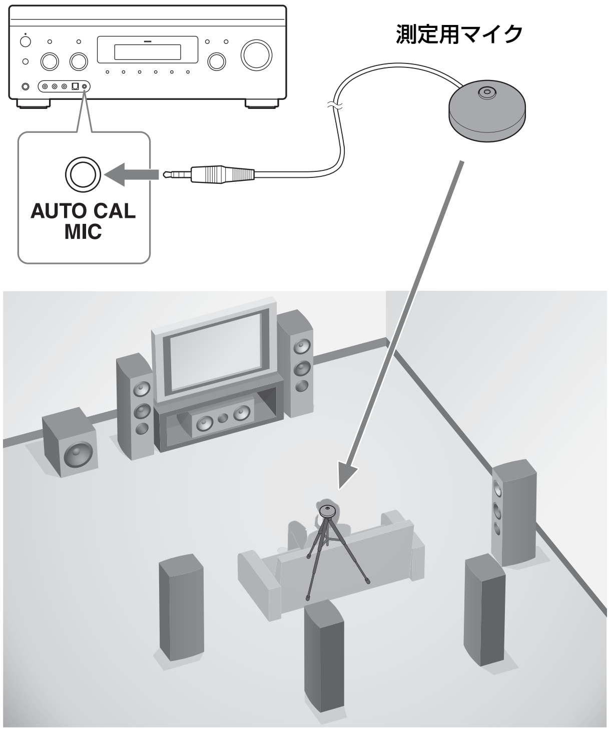
準備 8：自動でスピーカーを設定する

（自動音場補正機能）

D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能によって、各スピーカーと本機の接続やスピーカーのレベル、各スピーカーと視聴位置の距離などを自動的に測定し、最適な音声バランスを設定します。

測定をする前に

- スピーカーを設置、接続してください（14～17ページ）。
- AUTO CAL MIC端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクはつながないでください。本機やマイクの故障の原因となります。
- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると正しく測定できません。測定開始前に測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。



1 スピーカーパターンを選ぶ（34 ページ）。

フロントハイスピーカーをつないでいる場合は、測定のたびにフロントハイスピーカーありのスピーカーパターン（5/■.■または4/■.■）を選んでください。正しいスピーカーパターンを選んでいないと、フロントハイスピーカーの特性は測定されません。

2 測定用マイク（付属）を本機前面の AUTO CAL MIC 端子につなぐ。

3 マイクを設置する。

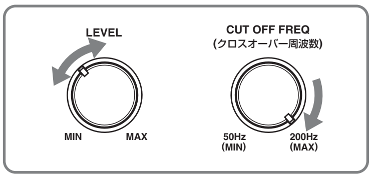
マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚を使って固定してください。

ご注意

- 以下の場合、正しく測定できないか、自動音場補正機能が実行されません。
  - ヘッドホンをつないでいる。
  - ダイポールスピーカーなどの特殊なスピーカーをつないでいる。
  - 2nd ゾーン、3rd ゾーンでマルチゾーン機能を使用している。
- 消音機能を設定している場合、機能を解除してください。

アクティブサブウーファーの設定について

- アクティブサブウーファーをつないでいる場合は、電源を入れて、音量を上げておいてください。音量は、ボリューム（LEVEL）つまみを半分または半分よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、最大に設定してください。
- オートオフ設定機能がある場合は、オフ（無効）にしてください。



本機をプリアンプとして使う場合は

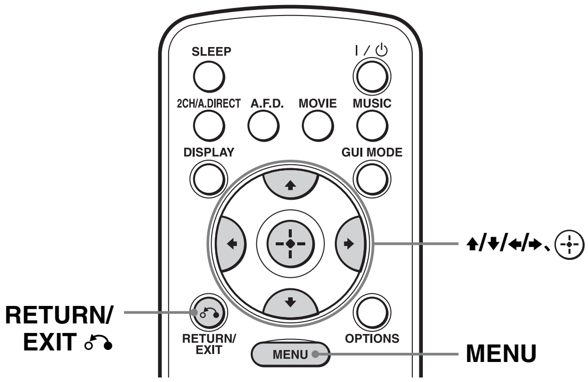
本機をプリアンプとして使う場合も、自動音場補正機能を使うことができます。
この場合、スピーカーの距離として表示される数値は、実際の距離と異なる場合がありますが、そのまま使って問題ありません。

測定する

自動音場補正機能は以下の項目を測定します。

- スピーカーの有無[1)]
- スピーカーの極性
- スピーカーの距離[2)]
- スピーカーのサイズ[2)]
- スピーカーのレベル
- 周波数特性（EQ）[2) 3)]
- 周波数特性（位相）[2) 4)]

1) マルチチャンネル入力を選んでいる場合は、測定結果は反映されません。
2) 以下の場合は、測定結果は反映されません。
　－マルチチャンネル入力を選んでいる。
　－「2ch Analog Direct」を使用している。
3) サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の Dolby TrueHD 信号またはリニア PCM 信号を受信している場合は、測定結果は反映されません。
4) サンプリング周波数が 88.2 kHz 以上の信号を受信している場合は、測定結果は反映されません。



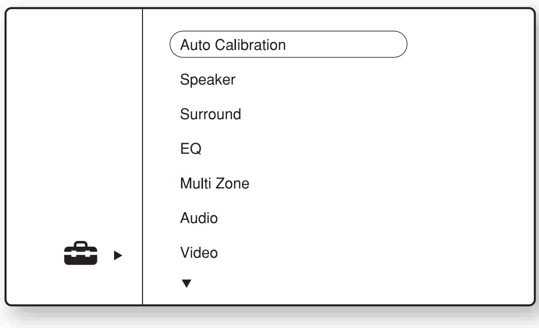
1 MENU を押す。

メニューがテレビ画面に表示されます。



2 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。

Settingsメニューが表示されます。

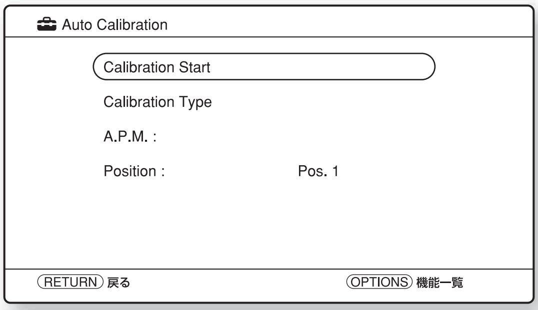


ご注意

お使いになるアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の配置よりも遠くなることがあります。

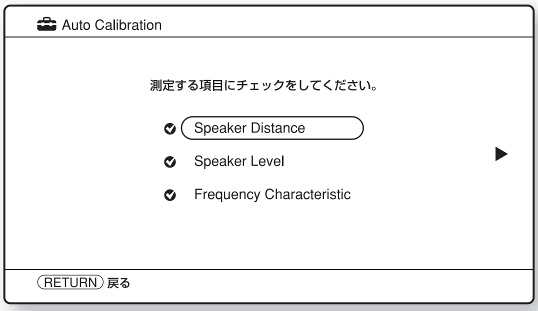
つづく

3 ↑/↓ をくり返し押して「Auto Calibration」を選び、⊕を押す。



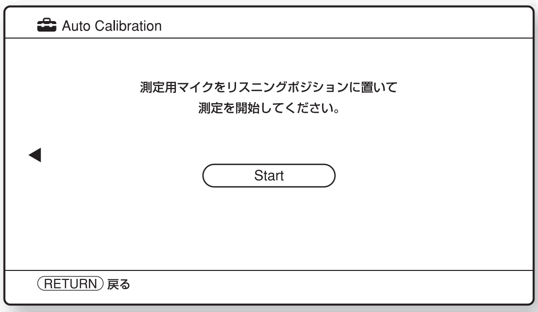
4 ↑/↓ をくり返し押して「Calibration Start」を選び、⊕を押す。

測定できる項目が表示されます。



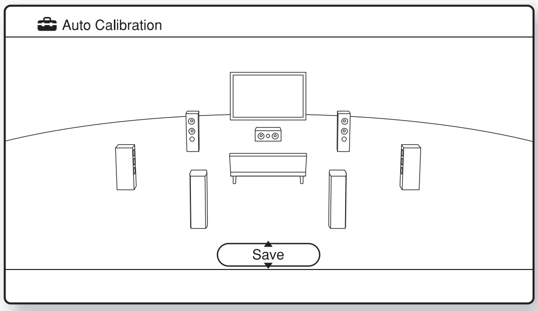
5 ↑/↓ をくり返し押して測定したくない項目を選び、⊕を押してチェックをはずし、→ を押す。

測定開始の確認画面が表示されます。



6 「Start」を選び、⊕を押す。

5秒後に測定が開始されます。
テストトーンが鳴り、約30秒間測定が行われます。測定が完了するまでお待ちください。
測定が終わると、終了音が鳴り、画面が切り換わります。



7 ↑/↓ をくり返し押して項目を選び、⊕を押す。

項目	説明
Retry	もう一度測定をします。
Save	測定結果を保存し、設定を終了します。「測定結果を保存する」（39ページ）をご覧ください。
Warning	測定結果に関する警告を表示します。「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」（40ページ）をご覧ください。
Phase	各スピーカーの位相を表示します（正相／逆相）。
Distance	スピーカーの距離の測定結果を表示します。
Level	スピーカーのレベルのの測定結果を表示します。
Exit	測定結果を保存せずに測定を終了します。

測定を中止するには

ボリューム操作、機能の切り換え、本体のSPEAKERS（A/B/A+B/OFF）の切り換え、ヘッドホンの接続で中止されます。

ご注意

スピーカーが逆相のときは、手順７で「Phase」を選ぶと「OUT」とテレビ画面に表示されます。スピーカーの＋ / −端子が逆に接続されている可能性があります。スピーカーによっては接続が正しくても表示される場合があります。スピーカーの仕様によるものですので、そのまま使って問題ありません。

ちょっと一言

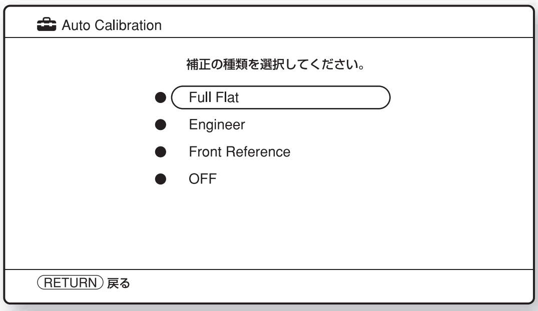
- 測定中に有効な操作は電源の入／切のみです。その他の操作は無効です。
- Speaker メニューの「Distance Unit」で距離の単位を切り換えることができます。

測定結果を保存する

次の手順で自動音場補正の測定結果を保存できます。

1 **「測定する」(37ページ)の手順7で、↑/↓をくり返し押して「Save」を選び、⊕を押す。**

補正タイプの選択画面が表示されます。



2 **↑/↓ をくり返し押して補正タイプを選び、⊕を押す。**

補正タイプ	説明
Full Flat	各スピーカーの周波数特性を平らにします。
Engineer	ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
Front Reference	すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に整えます。
OFF	自動音場補正のイコライザーをオフにします。

測定結果が保存されます。

3 **RETURN/EXIT を押す。**

測定結果を確認する

「測定する」(37ページ)の結果出たエラーコードや警告表示を確認するには、以下の操作を行ってください。

「測定する」(37 ページ)の手順 7 で ↑/↓ を押して「Warning」を選び、⊕を押す。

警告表示が表示された場合は、メッセージを確認し、そのまま本機をお使いください。また、必要ならもう一度測定してください。

「エラーコード」が表示されたときは

エラーを確認し、もう一度測定してください。

1 「Enter」を選び、⊕を押す。

2 ↑/↓を押して「Retry」を選び、⊕を押す。

3 「測定する」(37ページ)の手順6から7をくり返す。

エラーが発生した測定結果をそのまま保存するには

1 「測定する」(37 ページ)の手順 7 で ↑/↓ を押して「Save」を選び、⊕を押す。

2 「測定結果を保存する」にしたがって、測定結果を保存する。

ご注意

- 以下の場合は、周波数特性の補正結果は反映されません。
  - マルチチャンネル入力を選んでいる。
  - 「2ch Analog Direct」を使用している。
  - サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の Dolby TrueHD 信号またはリニア PCM 信号を受信している。

ちょっと一言

- スピーカーのサイズ(Large/Small)は低域特性で判定します。測定結果は測定用マイクの位置、スピーカーの位置、部屋の形などによって変わる場合があります。測定結果のまま使うことをおすすめしますが、Speaker メニューで設定を変更することもできます。測定結果を保存してから変更してください。
- アクティブサブウーファーの位置によって極性の判定が異なる場合があります。測定結果のまま使って問題ありません。

つづく

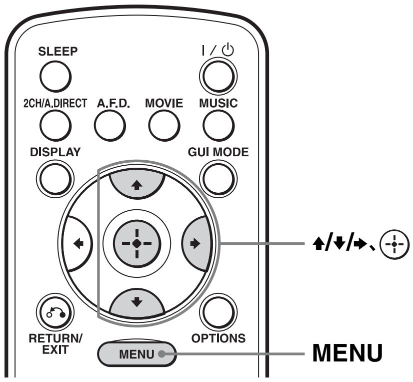
自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧

表示	原因と対策
Code 30	ヘッドホンが挿入されています。ヘッドホンをはずして再測定してください。
Code 31	SPEAKERS（A/B/A+B/OFF）がOFFになっています。SPEAKERS（A/B/A+B/OFF）を音が出る状態にして、再測定してください。
Code 32	どのチャンネルからも音が検出されませんでした。測定用マイクが正しくつながっていることを確認し、再測定してください。つながっている場合は測定用マイクが断線していることが考えられます。
Code 33	• フロントスピーカーがつながっていない、またはフロントスピーカーが1本しかつながっていません。 • 測定用マイクがつながっていません。 • 左か右どちらかのサラウンドスピーカーがつながっていません。 • サラウンドスピーカーがつながっていないのに、サラウンドバックスピーカーがつながっています。サラウンドスピーカーをSURROUND SPEAKERS端子につないでください。 • サラウンドバックスピーカーがSURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2 R端子にのみつながっています。サラウンドバックスピーカーを1つだけつなぐときは、SURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2 L端子につないでください。 • フロントハイスピーカーが1本だけつながっています。FRONT B端子それぞれにフロントスピーカーを1本ずつつないでください。 • サラウンドスピーカーがつながっていないのにフロントハイスピーカーがつながっています。SURROUND端子にサラウンドスピーカーをつないでください。
Warning 40	測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。 再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
Warning 41 Warning 42	測定用マイクからの入力が過大です。 • スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。お互いの位置を離して設置し、再測定してください。 • 本機をプリアンプとしてお使いの場合、つないでいるパワーアンプによってはこのメッセージが表示されることがありますが、そのままお使いいただいて問題ありません。
Warning 43	アクティブサブウーファーの距離・位相が測定できませんでした。 ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。
NO WARNING	WARNING情報はありません。
-----	スピーカーがつながれていません。

準備 9：ネットワークを設定する

本機のネットワーク機能を使うには、ネットワーク設定を正しく行う必要があります。
本機に必要なネットワーク設定は、イニシャルセットアップウィザードの指示にしたがって行うことができます。

以下ではIPアドレスの自動設定（DHCP）の手順をご説明します。この場合、本機またはプロバイダーに接続されているルーターは、DHCPに対応している必要があります。



1 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「Network」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して「Network Setup」を選び、⊕を押す。

「ネットワーク機能の初期設定を行います。」と表示されます。

5 「Next」を選び、⊕を押す。

6 「Connect Automatically (DHCP)」を選び、⊕を押す。

接続に成功すると、「本機がネットワークに接続しました。」と表示されます。

失敗画面が表示される場合は、最後の手順まで終えたあと「Network Setup」（90ページ）をご覧のうえ設定を行ってください。

7 「Finish」を選び、⊕を押す。

初回設定時は、このあと「External Control」、「Network Standby」の設定に続きます。詳しくは「Network Setup」（90ページ）をご覧ください。

ネットワーク設定を手動で設定するには

「IPアドレスを手動で設定するには」（90ページ）または「Proxyサーバーを手動で設定するには」（90ページ）をご覧ください。

ご注意

ネットワーク設定が完了していない場合、ネットワーク機能を使うたびにウィザード画面がテレビ画面に表示されます。

準備 10：パソコンをサーバーとして使う準備をする

サーバーとは、ホームネットワーク上のDLNA機器にコンテンツ（音楽、写真）を配信する機器です。
DLNA対応のサーバー機能を備えたソフトウェア*をパソコンにインストールすると、ホームネットワーク上のパソコンに保存されている音楽や写真を本機からネットワーク経由で再生することができます。

＊Windows 7 搭載のパソコンをお使いの場合は、Windows 7 に付属の Windows Media Player 12 をお使いください。Windows XP または Windows Vista 搭載のパソコンをお使いの場合は、本機に付属の VAIO Media plus をインストールしてください。VAIO Media plus について詳しくは以下をご覧ください。また、VAIO Media plus のヘルプを参照してください。

VAIO Media plusでできること

VAIO Media plusは、ホームネットワーク上にある音楽、写真などコンテンツをすばやく見つけたり、視聴したりできるようにするソフトウェアです。
他の機器をVAIO Media plusにつなげば、それらの機器に保存されているコンテンツをホームネットワークを通じて見つけたり視聴したりすることもできます。
例えば、パソコンやテレビ、オーディオ機器に保存されている写真や音楽をパソコン上で再生できます。
お使いのパソコンがVAIOの場合は、外付けハードディスクやNASに保存されているコンテンツを配信することもできます。

必要なシステム構成

オペレーティングシステム

Windows XP Home Edition/Professional/Media Center Edition 2004/Media Center Edition 2005（SP3、32 bit）
Windows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Ultimate（SP1、32 bit/64 bit）

パソコン

	Windows XP	Windows Vista
パソコン	IBM PC/AT互換機	
CPU	Intel Celeron Mプロセッサー 1.40 GHz以上（推奨Intel Core 2 Duo 1.80 GHz以上）	Intel Core Duo 1.33 GHz以上（推奨Intel Core 2 Duo 2.26 GHz以上）
メモリー	512 MB以上（推奨1 GB以上）	1 GB以上（推奨2 GB以上）
グラフィックチップ	Intel、NVIDIA、またはATI製グラフィックチップ搭載 DirectX9.0c互換ビデオカード（推奨DirectX9.0c/128 MB互換ビデオカードおよび最新ドライバー）	
ディスプレイ	解像度800 × 600以上	
HDD	推奨500 MB以上	
ネットワーク	100Base-TX以上	
サウンドカード	Direct Sound互換サウンドカード	

VAIO Media plusをパソコンにインストールする

サーバーソフトウェアとしてVAIO Media plusを使うときは、付属のCD-ROMからVAIO Media plusを以下の手順でインストールしてください。
古いバージョンのVAIO Media plusが既にインストールされている場合は、コントロールパネルの「プログラムと機能」（Windows Vista）または「プログラムの追加と削除」（Windows XP）を使って、あらかじめ次の3つのプログラムを削除してください。
- VAIO Media plus
- VAIO Content Folder Watcher
- VAIO Content Folder Setting

1 パソコンの電源を入れ、Administrator でログインする。

2 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに挿入する。

インストーラーが自動的に起動し、ソフトウェアセットアップ画面が表示されます。

ご注意
- 本機は映像の再生に対応していません。
- VAIO 以外のパソコンをお使いの場合は、パソコン内蔵のハードディスクに保存されているコンテンツのみ配信することができます。
- 上記の動作環境において、すべてのパソコンについて動作保証するものではありません。バックグラウンドで動作している他のソフトウェアが本ソフトウェアの動作に影響を与えることがあります。

インストーラーが自動的に起動しない場合は、ディスク内の「SetupLauncher.exe」をダブルクリックしてください。



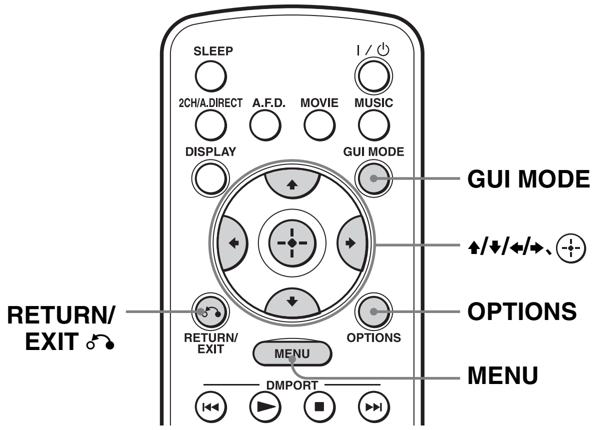
3 **画面の指示にしたがってVAIO Media plusをインストールする。**

ヘルプを見るには

VAIO Media plusの操作については、ヘルプを参照してください。
ホームメニュー画面の「Settings」をクリックし、「Help」を選んでヘルプを表示します。

画面操作のしかた

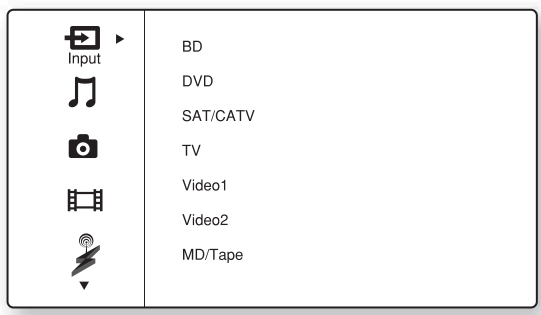
テレビ画面にメニューを表示して、↑/↓/←/→と⊕でお好みの機能を設定できます。
本機のメニューをテレビ画面に表示するには、「「GUI MODE」のオン／オフを切り換えるには」（44ページ）の手順にしたがって、本機が「GUI MODE」になっていることを確認してください。



メニューの使いかた

1 **テレビの入力を切り換えて、メニューが表示されるようにする。**

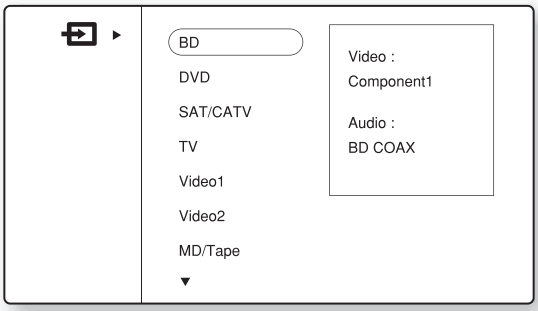
2 **MENU を押す。**
テレビ画面にメニューが表示されます。



3 ↑/↓ をくり返し押してお好みのメニューを選び、⊕または → を押す。

メニュー項目の一覧が表示されます。

例：Inputの場合



4 ↑/↓ をくり返し押して設定したいメニュー項目を選び、⊕を押す。

5 手順３と４をくり返し、設定を変更する。

前の表示画面に戻るには

RETURN/EXITを押します。

メニューを消すには

MENUを押します。

「GUI MODE」のオン／オフを切り換えるには

GUI MODEを押します。選ばれているモードに応じて、表示窓に「GUI ON」または「GUI OFF」と表示されます。

メニュー一覧

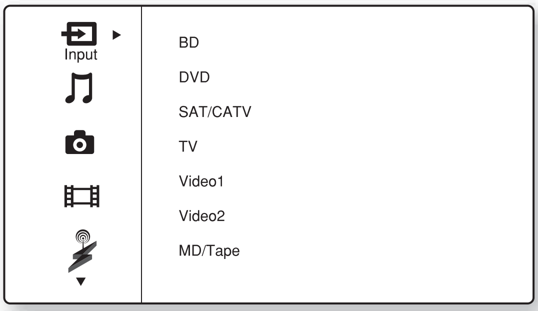
メニューアイコン	内容
Input	本機への入力を選びます（46ページ）。
Music	ホームネットワーク上のサーバー、「My Library」、またはデジタルメディアポートアダプターにつないだオーディオ機器から音楽を選びます（47ページ）。
Photo	ホームネットワーク上のサーバーまたは「My Library」から写真を選びます。
Video	今後発売されるデジタルメディアポートアダプターのための項目です。
SHOUTcast	SHOUTcastラジオサービスを選びます（58ページ）。
Settings	スピーカーやサラウンド効果、イコライザー、音声、映像、HDMI入力など本機の設定、調節をします（78ページ）。

オプションメニューの使いかた

OPTIONSを押すと、選んでいるメインメニューのオプションメニューが表示されます。関連する機能をメニューから選び直すことなく簡単に変更できます。

1 MENU を押す。

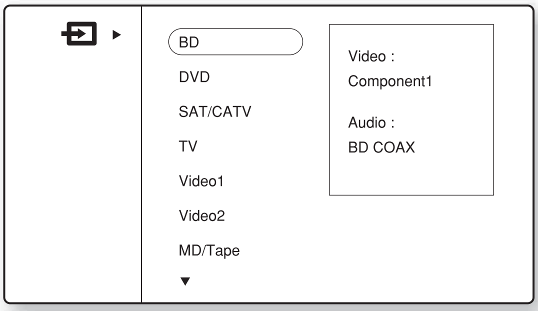
テレビ画面にメニューが表示されます。



2 ↑/↓ をくり返し押してお好みのメニューを選び、⊕または → を押す。

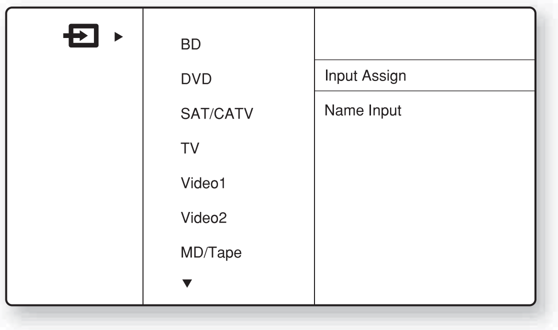
メニュー項目の一覧が表示されます。

例：Inputの場合



3 **メニュー項目の表示中に OPTIONS を押す。**

オプションメニューが表示されます。



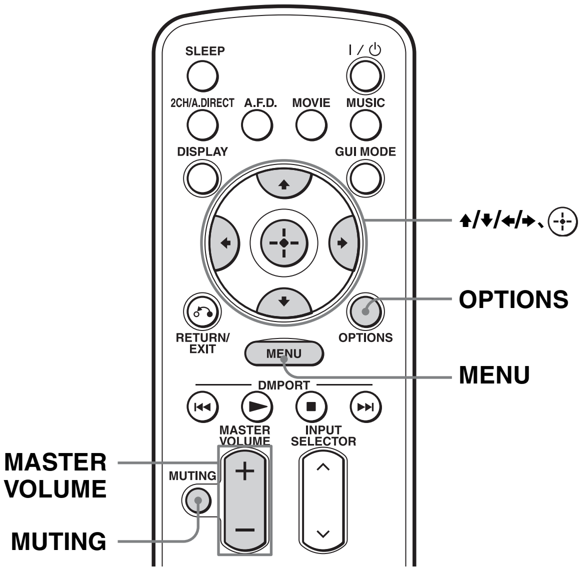
4 **↑/↓ をくり返し押してお好みのオプションメニュー項目を選び、⊕を押す。**

5 **↑/↓ をくり返し押して設定を選び、⊕を押す。**

オプションメニューを消すには

MENUを押します。

つないだ機器の音声／映像を楽しむ



1 「Input」を選び、⊕または → を押す。

メニュー項目の一覧が表示されます。

2 再生したい機器を選び、⊕を押す。

メニューから外部機器の再生画面に切り換わります。

選んだ入力	再生する機器
BD	BD端子につないだブルーレイディスクレコーダーなど
DVD	DVD端子につないだDVDプレーヤーなど
SAT/CATV	SAT/CATV端子につないだBS/CSチューナーなど
TV	TV端子につないだテレビなど
Video 1、Video 2	VIDEO 1 INまたはVIDEO 2 IN端子につないだビデオデッキなど
MD/Tape	MD/TAPE端子につないだMDデッキ、カセットデッキなど
SA-CD/CD	SA-CD/CD端子につないだスーパーオーディオCD/CDプレーヤーなど
Tuner	TUNER端子につないだラジオチューナーなど
Phono	PHONO端子につないだレコードプレーヤーなど
Multi In	MULTI CHANNEL INPUT端子につないだ機器
HDMI 1、2、3、4	HDMI IN 1、HDMI IN 2、HDMI IN 3、またはHDMI IN 4端子につないだHDMI機器など

3 本機につないだ機器の電源を入れ、再生する。

4 MASTER VOLUME ＋ / －を押して、音量を調節する。

音を一時的に消すには

リモコンのMUTING を押します。解除するには、MUTING をもう一度押します。またはMASTER VOLUMEを押して音量を上げます。消音中に本体の電源を切ると、消音機能は解除されます。

スピーカーの破損を防ぐために

電源を切る前に音量を最小にしておいてください。

入力に名前を付ける
(Name Input)

入力に8文字までの名前を付けて、表示できます。機器名を付けると、どの端子に何の機器をつないだかがわかり、便利です。

1 「Input」画面で、名前を付けたい機器を選ぶ。

2 OPTIONS を押す。

オプションメニューが表示されます。

3 「Name Input」を選び、⊕を押す。

4 ↑/↓ を押して文字を選び、→ を押す。

←/→を押して入力位置を前後に移動することができます。

ちょっと一言

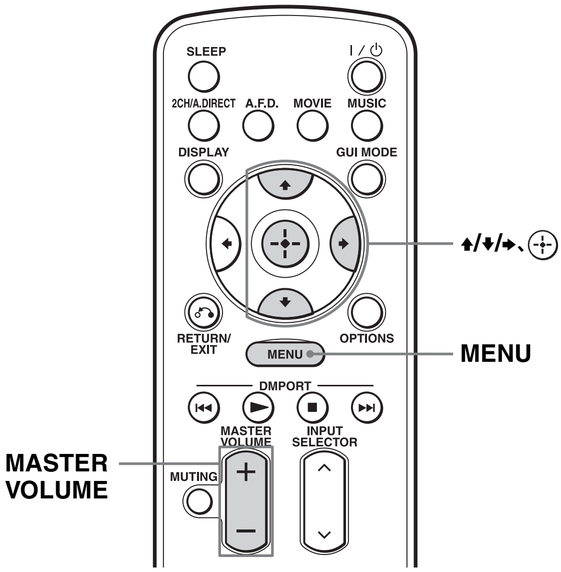
- 本体の MASTER VOLUME を回す速さによって音量の調整量を変えられます。
  音量を早く上げ／下げしたいとき：速く回す。
  音量を微調整したいとき：ゆっくり回す。
- リモコンの MASTER VOLUME ＋ / －を押す時間の長さによって音量の調整量を変えられます。
  音量を早く上げ／下げしたいとき：押し続ける。
  音量を微調整したいとき：短く押す。

5 手順４をくり返して文字を１つずつ入力し、⊕を押す。

入力した名前が登録されます。

デジタルメディアポートにつないだ機器の音声を楽しむ

デジタルメディアポートアダプターを使って、本機でポータブルオーディオプレーヤーなどからの音楽を楽しめます。デジタルメディアポートの接続について詳しくは、「デジタル音声出入力端子のある機器」（27ページ）をご覧ください。
デジタルメディアポートアダプター TDM-NW10、TDM-BT10は別売です。



1 「♫Music」を選び、⊕または → を押す。

「Video」は今後発売されるデジタルメディアポートアダプターのための項目です。

2 「DMPORT」、またはデジタルメディアポートアダプターにつないだ機器を選び、⊕を押す。

デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器が認識され、テレビ画面の表示が「DMPORT」からそれぞれの機器名に変わります。アダプターが認識されていない場合、テレビ画面の表示は「DMPORT」のままです。

	接続した機器
DMPORT	以下の機器以外と接続
Walkman	ウォークマンと接続
Bluetooth	Bluetooth対応機器と接続

ご注意

- 本機にデジタルメディアポートアダプター以外のアダプターをつながないでください。
- 電源が入っている状態で、本機にデジタルメディアポートアダプターをつないだり、はずしたりしないでください。

つづく

3 デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器で聞きたい曲を選ぶ。

4 MASTER VOLUME ＋ / －を押して、音量を調節する。

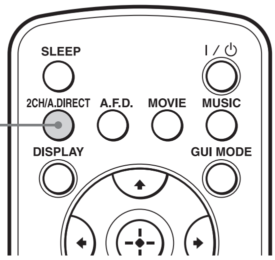
デジタルメディアポートメッセージ一覧

メッセージ	説明
No Adapter	アダプター未接続です。
No Device	機器未接続です。
No Audio	オーディオファイルが見つかりません。
Loading	データ読み込み中です。
No Item	アイテムが見つかりません。

2 チャンネル音声で再生する

音楽ソフトの記録フォーマットやつないだ再生機器、サウンドフィールドなどに関係なく、2チャンネル音声出力に切り換えられます。

2CH/
A.DIRECT



2CH/A.DIRECT をくり返し押して、出力したい 2 チャンネル音声モードを選ぶ。

2チャンネルモード	効果
2ch Stereo	フロントL/Rの2本のスピーカーのみから音を出します。アクティブサブウーファーからは音が出ません。 標準的な2チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに再生します。マルチチャンネル音声は、2チャンネルにして（ダウンミックス）再生します。
2ch Analog Direct	選んでいる入力の音声を、2チャンネルのアナログ入力に切り換えます。高品質のアナログ音声を楽しむことができます。 この機能を使っているときは、音量とフロントスピーカーのバランスのみ調節できます。

ヘッドホンで聞いている場合には

サウンドフィールド	効果
Headphone（2ch）	「2ch Analog Direct」以外のモードでヘッドホンを使用すると自動的に選ばれます。通常の2チャンネルステレオ音源は一切サウンドフィールドの処理を行わず、マルチチャンネルのサラウンド音声は2チャンネルにダウンミックスして出力されます。
Headphone（Direct）	音色、サウンドフィールドなどの処理を行わずに、アナログ音声を出力します。
Headphone（Multi）	マルチチャンネル入力を選んでいるときにヘッドホンを使用すると、自動的に選ばれます。MULTI CHANNEL INPUT端子のFRONT L/R端子に入力された信号を出力します。

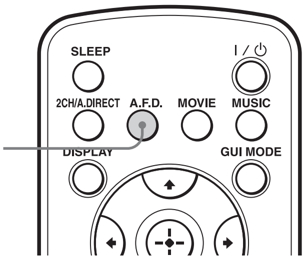
ご注意

- 以下の場合、「2ch Analog Direct」は選べません。
  – ホームネットワーク上の機器に保存されているコンテンツを再生している。
  – HDMI 入力またはマルチチャンネル入力を選んでいる。

マルチチャンネルサラウンドで再生する

A.F.D.（オートフォーマットダイレクト）モードを使って、録音またはエンコードされたままのソフトの音を再現します。また、2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞くためのデコードモードを選ぶことができます。

A.F.D.



A.F.D. をくり返し押して、A.F.D. モードを選ぶ。

A.F.D.モード	デコード後のマルチチャンネル音声	効果
A.F.D. Auto	（自動判別）	サラウンド効果なしで録音またはエンコードされたままの音声として処理します。
A.F.D. Multi Stereo	（マルチステレオ）	2チャンネルの信号に対し、L/R成分をすべてのスピーカーから出力します。

ご注意

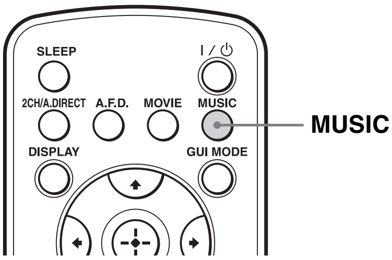
- 「A.F.D. Auto」および「A.F.D. Multi Stereo」は、マルチチャンネル入力を選んでいる場合は機能しません。
- 以下の場合は、「A.F.D. Multi Stereo」は機能しません。
  – マルチチャネルサラウンド音声を受信している。
  – サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の Dolby TrueHD 信号またはリニア PCM 信号を受信している。

ちょっと一言

通常は「A.F.D. Auto」の使用をおすすめします。

音楽用の音場効果で再生する

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、コンサートホールの臨場感を再現できます。



MUSIC をくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

サウンドフィールド	効果
Hall	コンサートホールの音響を再現します。
Jazz Club	ジャズクラブの音響を再現します。
Live Concert	300席あるライブハウスの音響を再現します。
Stadium	屋外のスタジアムの雰囲気を再現します。
Sports	スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。
Portable Audio	ポータブルオーディオ機器から、よりクリアな音像を再現します。MP3やその他の圧縮された音源に適しています。
PLII Music	ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ音源に適しています。
PLIIx Music	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ音源に適しています。
PLIIz Height	ドルビープロロジックIIzの処理を行います。5.1チャンネルから7.1チャンネルにシステムを拡張するときに、より柔軟な対応が可能になります。垂直方向の成分を加えて立体感と奥行きを表現します。「PLIIz Height」は、52ページ記載のサウンドフィールドと同一のモードです。「PLIIz Height」のゲインレベルを調整することもできます。詳しくはサラウンド設定（83ページ）をご覧ください。
Neo:6 Music	DTS Neo:6のミュージックモード処理を行います。2チャンネルの音源を7チャンネルにデコードします。CDなど通常のステレオ録音の再生に適しています。

音楽用のサウンドフィールドを解除するには

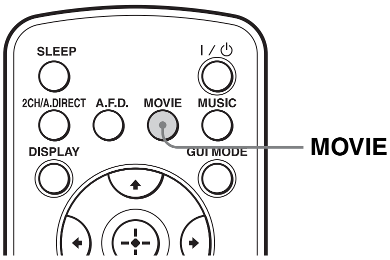
2CH/A.DIRECTまたはA.F.D.を押します。

ご注意

- 音楽用のサウンドフィールドは、以下の場合は機能しません。
  - マルチチャンネル入力を選んでいる。
  - サンプリング周波数が 88.2 kHZ 以上の Dolby TrueHD 信号、DTS-HD 信号、またはリニア PCM 信号を受信している。
- 「PLII Music」、「PLIIx Music」、「PLIIz Height」および「Neo:6 Music」は、スピーカーパターンが 2/0 または 2/0.1 に設定されている場合は機能しません。
- DTS 96/24 信号を受信中にサウンドフィールドを設定した場合は、信号は 48 kHz でのみ再生されます。
- 「PLIIx Music」および「PLIIz Height」は、設定されているスピーカーパターンによっては表示されません。
  - 「PLIIx Music」は、サラウンドバックスピーカーありのスピーカーパターンに設定されているときのみ機能します。
  - 「PLIIz Height」は、フロントハイスピーカーありのスピーカーパターンに設定されているときのみ機能します。
- サウンドフィールドの設定によっては、いくつかのスピーカーから音が出力されないことがあります。
- 音楽用サウンドフィールドのいずれかを選んでいるときは、Speaker メニューですべてのスピーカーが「Large」に設定されていても、アクティブサブウーファーからは音が出ません。ただし、入力されたデジタル信号に L.F.E. 信号が含まれているときや、フロントとサラウンドのいずれかが「Small」に設定されているとき、映画用サウンドフィールドを選んでいるとき、「Portable Audio」を選んでいるときは、アクティブサブウーファーから音が出ます。
- 選んだサウンドフィールドによっては、音源のノイズが目立つことがあります。

映画用の音場効果で再生する

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、映画館の臨場感を再現できます。



MOVIE をくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

サウンドフィールド	効果
HD-D.C.S.	HD Digital Cinema Sound（HD-D.C.S.）は、マスタリングスタジオの緻密な計測データに基づき、ソニーが最新の音響およびデジタル信号処理技術を用いて新たに開発した劇場音響再現技術です。 HD-D.C.S.によって、ご自宅でブルーレイディスクやDVDの映画ソフトの高音質に加えて、マスタリング時にエンジニアが意図した最良の音場も楽しむことができます。 HD-D.C.S.のエフェクトタイプを選ぶこともできます。詳しくはサラウンド設定（83ページ）をご覧ください。
PLII Movie	ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹き替え版や古い映画のビデオなども5.1チャンネルで再生できます。
PLIIx Movie	ドルビープロロジックIIxのムービーモード処理を行います。2チャンネルまたは5.1チャンネルの音源を7.1チャンネルにデコードします。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹き替え版や古い映画のビデオなども7.1チャンネルで再生できます。
PLIIz Height	ドルビープロロジックIIzの処理を行います。5.1チャンネルから7.1チャンネルにシステムを拡張するときに、より柔軟な対応が可能になります。垂直方向の成分を加えて立体感と奥行きを表現します。 「PLIIz Height」は、51ページ記載のサウンドフィールドと同一のモードです。「PLIIz Height」のゲインレベルを調整することもできます。詳しくはサラウンド設定（83ページ）をご覧ください。
Neo:6 Cinema	DTS Neo:6のシネマモード処理を行います。2チャンネルの音源を7チャンネルにデコードします。

映画用のサウンドフィールドを解除するには

2CH/A.DIRECTまたはA.F.D.を押します。

ご注意

- 映画用のサウンドフィールドは、以下の場合は機能しません。
  - マルチチャンネル入力を選んでいる。
  - サンプリング周波数が 88.2 kHz 以上の Dolby TrueHD 信号、DTS-HD 信号、またはリニア PCM 信号を受信している。
- 「PLII Movie」、「PLIIx Movie」、「PLIIz Height」および「Neo:6 Cinema」は、スピーカーパターンが 2/0 または 2/0.1 に設定されている場合は機能しません。
- DTS 96/24 信号を受信中にサウンドフィールドを設定した場合は、信号は 48 kHz でのみ再生されます。
- 「PLIIx Movie」および「PLIIz Height」は、設定されているスピーカーパターンによっては表示されません。
  - 「PLIIx Movie」は、サラウンドバックスピーカーありのスピーカーパターンに設定されているときのみ機能します。
  - 「PLIIz Height」は、フロントハイスピーカーありのスピーカーパターンに設定されているときのみ機能します。
- サウンドフィールドの設定によっては、いくつかのスピーカーから音が出力されないことがあります。
- 選んだサウンドフィールドによっては、音源のノイズが目立つことがあります。

ちょっと一言

HD-D.C.S. が選ばれているとき、表示窓の HD Digital Cinema Sound ランプが点灯します。

本機が再生できる音声フォーマット

本機がデコードできる音声フォーマットは、再生機器とつないだデジタル音声入力端子によって異なります。
本機は以下のフォーマットに対応しています。

音声フォーマット	最大チャンネル数	本機と再生機との接続	
		COAXIAL/OPTICAL	HDMI
Dolby Digital	5.1チャンネル	○	○
Dolby Digital EX	6.1チャンネル	○	○
Dolby Digital Plus [a]	7.1チャンネル	×	○
Dolby TrueHD [a]	7.1チャンネル	×	○
DTS	5.1チャンネル	○	○
DTS-ES	6.1チャンネル	○	○
DTS 96/24	5.1チャンネル	○	○
DTS-HD High Resolution Audio [a]	7.1チャンネル	×	○
DTS-HD Master Audio [a] [b]	7.1チャンネル	×	○
MPEG-2 AAC（LC）	5.1チャンネル	○	○
マルチチャンネルリニアPCM [a]	7.1チャンネル	×	○

a) 再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書を参照してください。
b) サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の信号は、96 kHz または 88.2 kHz で再生されます。

本機のネットワーク機能について

- 本機のホームネットワーク機能は、DLNA（Digital Living Network Alliance）標準に準拠しています。この機能により、本機ではDLNAロゴが表示された適合機器（DLNA認定製品）に保存されているコンテンツ（音楽、写真）を楽しむことができます（55ページ）。
- 本機をホームネットワーク上でUPnPメディアレンダラー相当の機器として使うことができます（57ページ）。
- 本機をインターネットに接続すれば、SHOUTcastを聞いたり、本機のソフトウェアをアップデートしたりすることもできます（58、59ページ）。
- パソコンを使って本機の設定を変えることができます（59ページ）。

DLNAについて

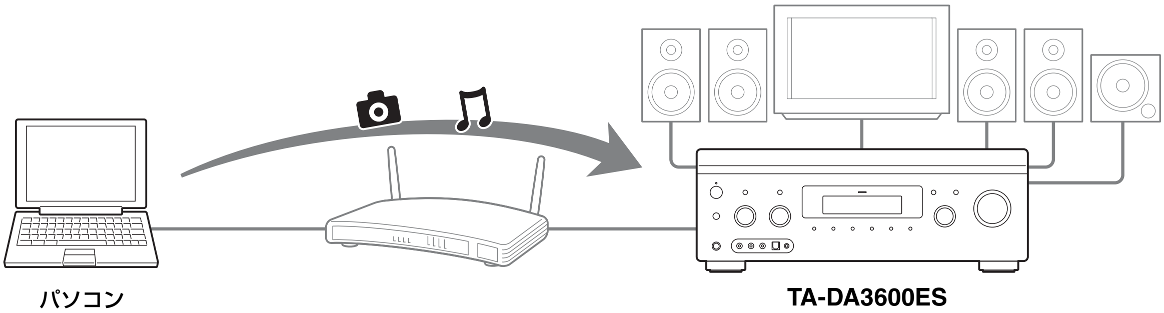
DLNA（Digital Living Network Alliance）は、コンテンツ（音楽、写真、映像）をやりとりできるパソコン、AV機器、モバイル機器など、さまざまな製品のメーカーから構成される標準機構です。DLNAは標準の決定、および適合機器に表示される認定ロゴの発行を行います。

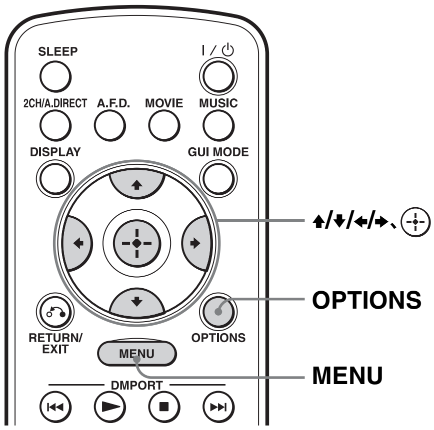
ご注意

接続しているサーバーやコンテンツの種類によっては、本機で再生できない場合があります。

外部サーバーにあるコンテンツを本機で楽しむ

サーバーとは、ホームネットワーク上のDLNA機器にコンテンツ（音楽、写真）を配信する機器です。
本機でサーバーに保存されている音楽および写真を再生することができます。





1 「♫Music」または「📷 Photo」を選び、⊕または ➔ を押す。

2 「Server」を選び、⊕を押す。
サーバー一覧が表示されます。

3 再生したいコンテンツがあるサーバーを選ぶ。
コンテンツ一覧が表示されます。

4 コンテンツ一覧から再生したいコンテンツを選び、⊕を押す。
再生画面が表示され、選んだコンテンツが再生されます。

サーバーを検索するには

サーバー一覧が表示されない場合は、サーバーを検索することができます。

1 「♫Music」または「📷 Photo」を選び、⊕または➔を押す。

2 「Server」を選び、⊕を押す。

3 OPTIONSを押す。

4 「Server Search」を選び、⊕を押す。
確認画面が表示されます。

5 「はい」を選び、⊕を押す。
サーバー一覧が表示されます。

お好みのコンテンツを登録する

「♫Music」または「📷 Photo」から再生したお好みのコンテンツを「My Library」に登録することができます。

1 コンテンツ再生中に OPTIONS を押す。

2 「トラック（写真）をMy Libraryに追加」を選び、⊕を押す。

3 コンテンツを登録したい数字を選び、⊕を押す。
選んだコンテンツが「My Library」に登録されます。

つづく

My Libraryに登録したコンテンツを再生する

1 「♫Music」または「📷Photo」を選び、⊕または ➡ を押す。

2 「My Library」を選び、⊕を押す。

3 コンテンツ一覧から再生したいコンテンツを選び、⊕を押す。

多機能リモコンを使って再生する

多機能リモコンの以下のボタンでサーバー上のコンテンツを楽しむことができます。
リモコンのAMPを押して、操作してください。

コンテンツの種類		♫Music	📷Photo
多機能リモコンのボタン	▶	●	●
	■	●	●
	❚❚	●	●**
	▶▶❙	●	●**
	❙◀◀	●	●**
	▶▶	●*	
	◀◀	●*	

＊　このボタンは接続しているサーバーやコンテンツの種類によっては働かないことがあります。
＊＊このボタンは写真をスライドショー再生または「My Library」から再生しているときに働きます。

再生方法を選ぶ

Musicカテゴリーの再生方法を選ぶことができます。

1 音楽コンテンツを一覧表示中＊または再生中に OPTIONS を押す。

＊コンテンツの種類によっては、OPTIONS が働かないことがあります。

2 「Repeat」または「Shuffle」を選び、⊕を押す。

3 以下からお好みの再生方法を選び、⊕を押す。

■**Repeat**

1つのトラックまたはすべてのトラックをくり返し再生します。
- Off
  リピート再生を解除します。
- One
  1つのトラックをくり返し再生します。
- All
  すべてのトラックをくり返し再生します。

■**Shuffle**

すべてのトラックをランダムに再生します。
- Off
  シャッフル再生を解除します。
- On
  シャッフル再生にします。

写真をBGM再生するには

「My Library」に登録した音楽をBGMにして写真を楽しむことができます。

1 「Server」（55 ページ）または「My Library」から写真を再生する。
「Server」から選んだ場合は、写真を一枚表示するか、サーバー内の写真をスライドショー再生するか選択できます。
「My Library」から選んだ場合は、「My Library」に登録されている写真が順番にスライドショー再生されます。

2 OPTIONSを押す。

3 「BGM」を選び、⊕を押す。

4 以下から再生方法を選び、⊕を押す。
- Off
  BGMの再生を停止します。
- On
  「My Library」内のすべてのトラックをくり返し再生します。
- On (Shuffle)
  「My Library」内のすべてのトラックをランダムにくり返し再生します。

ご注意

「My Library」から再生しているコンテンツを再度「My Library」に登録することはできません。

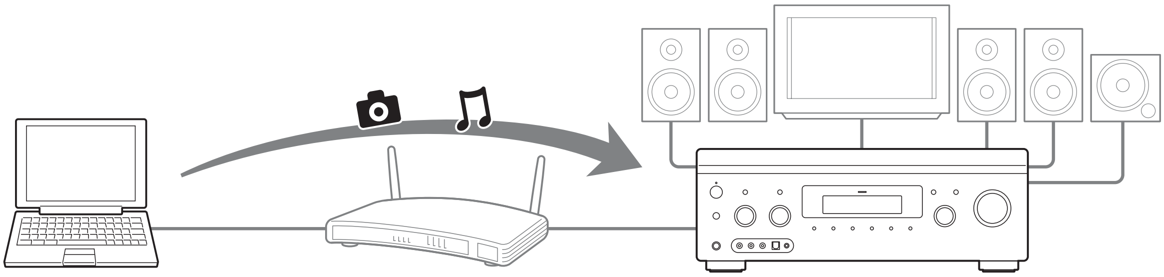
コントロールーラーを使う

コントロール機能を持つ機器を使ってホームネットワーク上で以下のことができます。
– サーバー内に保存されているコンテンツを本機で再生させる
– Windows 7搭載パソコン付属のWindows Media Player 12で本機を操作する

サーバーに保存されているコンテンツを楽しむ

コントローラーを使ってサーバー上のコンテンツ（音楽、写真）を楽しんだり、コンテンツの状態を確認したりすることができます。ただし、コントローラーで操作できるのはメインゾーンのみです。

以下の操作に対応しています。
- コンテンツの再生、停止、一時停止、早送り、早戻し
- 前後のコンテンツへのスキップ
- 再生中のコンテンツの経過時間確認



1 **ホームネットワーク上のコントローラーでサーバーとして使う機器を選ぶ。**

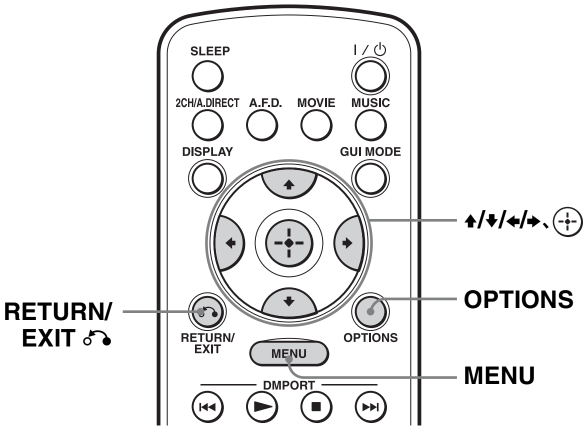
2 **ホームネットワーク上のコントローラーで再生したいコンテンツを選ぶ。**

3 **ホームネットワーク上のコントローラーでコンテンツ再生先として本機を選ぶ。**
各機器の取扱説明書を参照してください。

ご注意
- コントローラーを使って本機を操作する前に、お使いになるコントローラーを本機に登録する必要があります。ネットワーク設定の「External Control」を「ON」にしたあと、「Controllers」の設定を行ってください。コントローラーの設定について詳しくは、「Controllers」（91 ページ）をご覧ください。
- コントローラーとして使用している機器によっては、一部の操作ができないことがあります。詳しくは各機器の取扱説明書を参照してください。
- コントローラーと一緒に付属のリモコンを使って本機を操作した場合、本機が正しく動作しないことがあります。

SHOUTcast を聞く

SHOUTcastは、ストリーミング技術を用いてデジタルオーディオを配信するインターネットラジオサービスです。SHOUTcastは、いわばインターネットラジオ局の登録簿で、ユーザーはここから世界中のDJや放送局が無料で配信している膨大なオンラインラジオ局にアクセスすることができます。
詳しくはSHOUTcast のホームページ（http://www.shoutcast.com/）を参照してください。



SHOUTcastの放送局を選ぶ

1 「SHOUTcast」を選び、⊕または → を押す。

2 「Preset List」、「0-9」、または A から Z を選び、⊕を押す。

3 聞きたいジャンルを選び、⊕を押す。

4 聞きたい放送局を選び、⊕を押す。
受信画面が表示され、選んだ放送局が受信されます。

お気に入りの放送局を登録する

1 放送局を受信中に OPTIONS を押す。

2 「Add to Preset List」を選び、⊕を押す。
プリセット番号一覧が表示されます。

3 登録したいプリセット番号を選び、⊕を押す。

前の表示画面に戻るには

RETURN/EXIT を押します。

お気に入りに登録した放送局を選ぶ

1 「SHOUTcast」を選び、⊕または → を押す。

2 「Preset List」を選び、⊕または → を押す。

3 聞きたい放送局のプリセット番号を選び、⊕を押す。
受信画面が表示され、選んだ放送局が受信されます。

ご注意

- 放送局の数が多い場合、本機は順番に 100 局まで表示します。
- 本機が対応していない音声フォーマットで配信している放送局は、一覧に表示されません。
- メインゾーンと 2nd ゾーンで聞けるのは、同じ放送局 1 局のみです。
いずれかのゾーンで他の放送局が選ばれていても、あとから選ばれた放送局が優先されます。
- 登録済みのプリセット番号を選んだ場合、すでに登録されている放送局はあとから選んだ放送局で上書きされます。

Setup Manager でできること

付属のCD-ROMからSetup Managerをパソコンにインストールすると、本機で行うのと同様にパソコンからも本機の設定を確認したり調節したりすることができます。

Setup Managerでは以下の設定はできません。
- Auto Calibration
- Speaker
  - Test Tone
- Multi Zone
  - Power オン／オフ
  - Input 変更
  - Volume 調整

必要なシステム構成

オペレーティングシステム

Windows 7
Starter/Home Premium/Professional/Ultimate（32bit/64bit）
Windows Vista
Home Basic/Home Premium/Business/Ultimate（SP2、32bit/64bit）
Windows XP
Home Edition/Professional（SP3、32bit）

パソコン

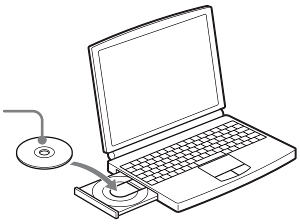
CPU: Celeron、Pentium III以上
Clock Speed: 1 GHz以上
RAM: 512 MB以上
HDD: 20 MB以上の空き容量
（.NET Framework 2.0がインストールされていない場合は、280 MB以上の空き容量が必要です。）
Monitor: 1024 × 768、High Color（65536色）
Network: 100Base-TX以上

Setup Managerをパソコンにインストールする

1 パソコンの電源を入れ、Administrator でログインする。

2 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに挿入する。

インストーラーが自動的に起動し、ソフトウェアセットアップ画面が画面に表示されます。
インストーラーが自動的に起動しない場合は、ディスク内の「SetupLauncher.exe」をダブルクリックしてください。



3 画面の指示にしたがって Setup Manager をインストールする。

Setup Managerを使って本機のソフトウェアをアップデートする

Setup Managerを使って本機のソフトウェアをアップデートすることができます。Setup Managerの操作について詳しくは、Setup Managerのヘルプを参照してください。
アップデートを行う前に、表示窓で「UPDATE（PC）」を「DENY」から「PERMIT」に設定し、本機のソフトウェアをパソコンを使ってアップデートできるようにてください（98ページ）。

1 アップデートプログラムをサポートウェブサイトから Setup Manager がインストールされているパソコンにダウンロードする。

つづく

2 **パソコンの Setup Manager ウィンドウで「System」をクリックする。「Browse...」をクリックしてアップデートプログラムの保存されている場所を指定し、「Start Update」をクリックする。**

アップデート中は、本体前面のMULTI CHANNEL DECODINGランプが点滅します。アップデートが完了すると、本機は自動的に再起動します。

ヘルプを見るには

Setup Managerのヘルプを見るときは、［スタート］－［すべてのプログラム］－［Setup Manager］－［Setup Managerヘルプ］の順番でクリックします。

ご注意

- ソフトウェアのアップデート中に本機の電源を切ったり、LAN ケーブルを抜いたりしないでください。故障の原因となります。
- ソフトウェアのアップデートは、完了するまで 50 分ほどかかります。

マルチゾーン機能でできること

本機を設置した場所（メインゾーン）とは別の場所で、本機につないだ機器の映像や音声を楽しむことができます。例えば、リビング（メインゾーン）でブルーレイディスクを見て、寝室（2ndゾーン）でDVDレコーダーに録画したテレビ番組を見ることができます。

IRリピーター（別売）を使うと、2ndゾーンまたは3rdゾーンからメインゾーンにある機器と、2ndゾーンまたは3rdゾーンにあるソニー製のアンプの両方を操作することができます。

2ndゾーンまたは3rdゾーンでは多機能リモコンをお使いください。簡単リモコンはメインゾーン以外では使用できません。

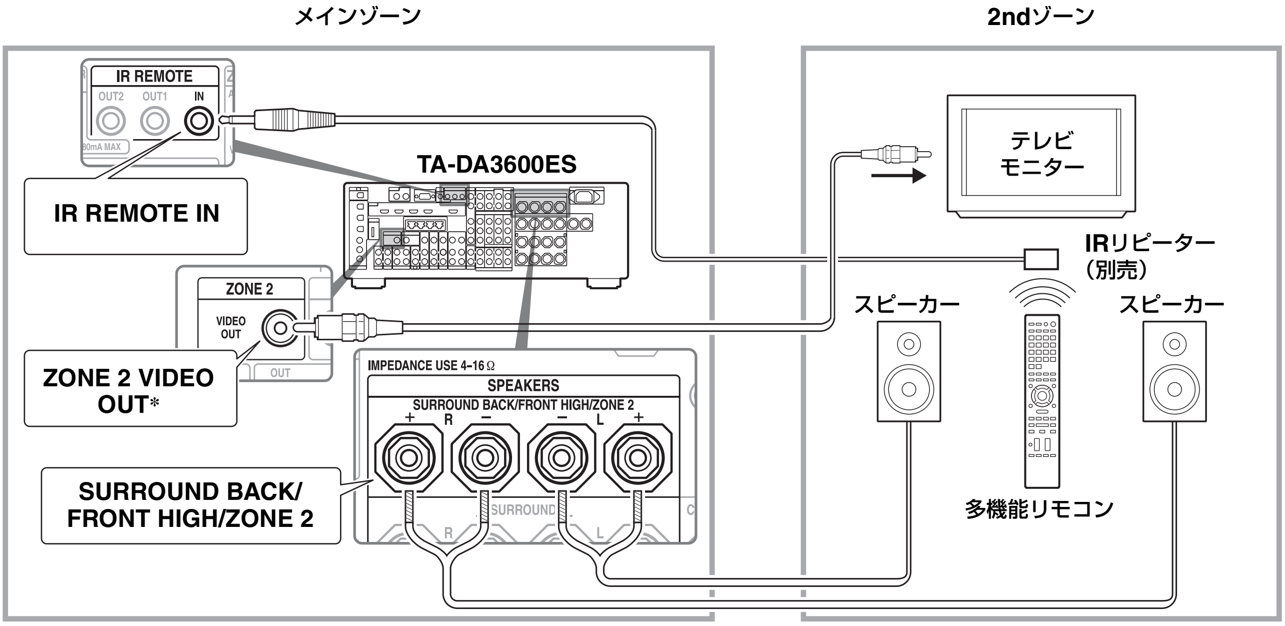
本機を2ndゾーンまたは3rdゾーンで操作するには

IRリピーター（別売）をIR REMOTE IN端子につなぐと、本機のリモコン受光部にリモコンを向けなくても本機を操作することができます。
リモコンの信号が届かない場所に本機を設置している場合は、IRリピーターをお使いください。

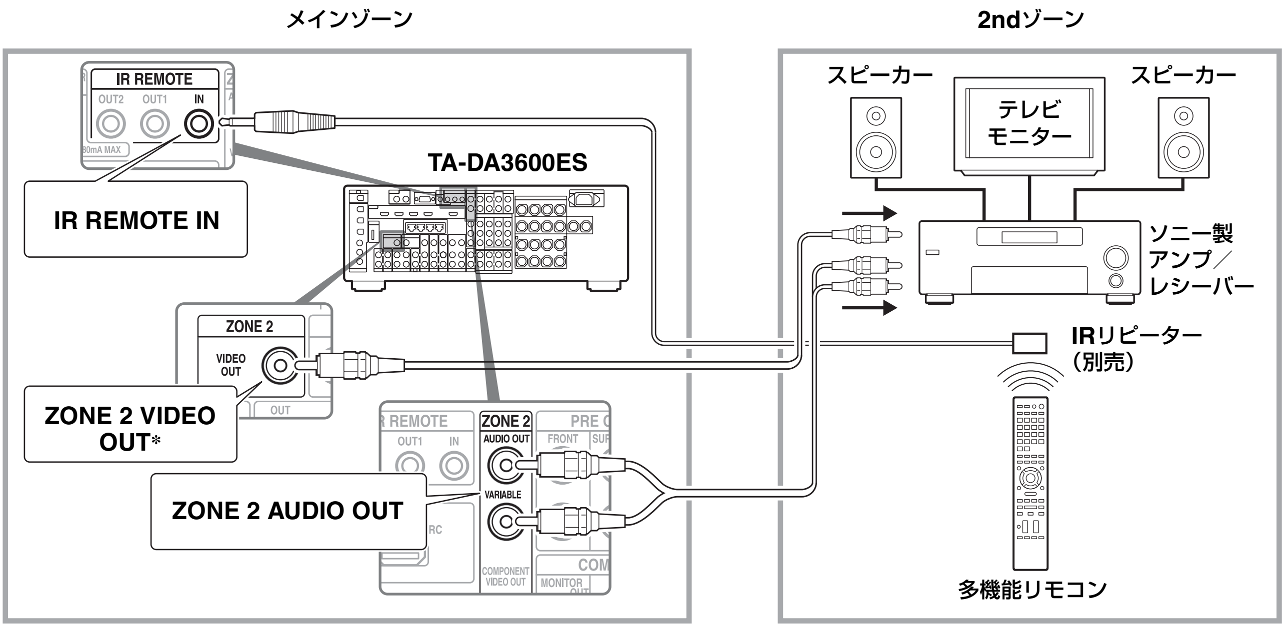
マルチゾーン接続をする

1：2ndゾーンの接続

①本機のSURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2端子を使用して、2ndゾーンにあるスピーカーから音声を出力するには

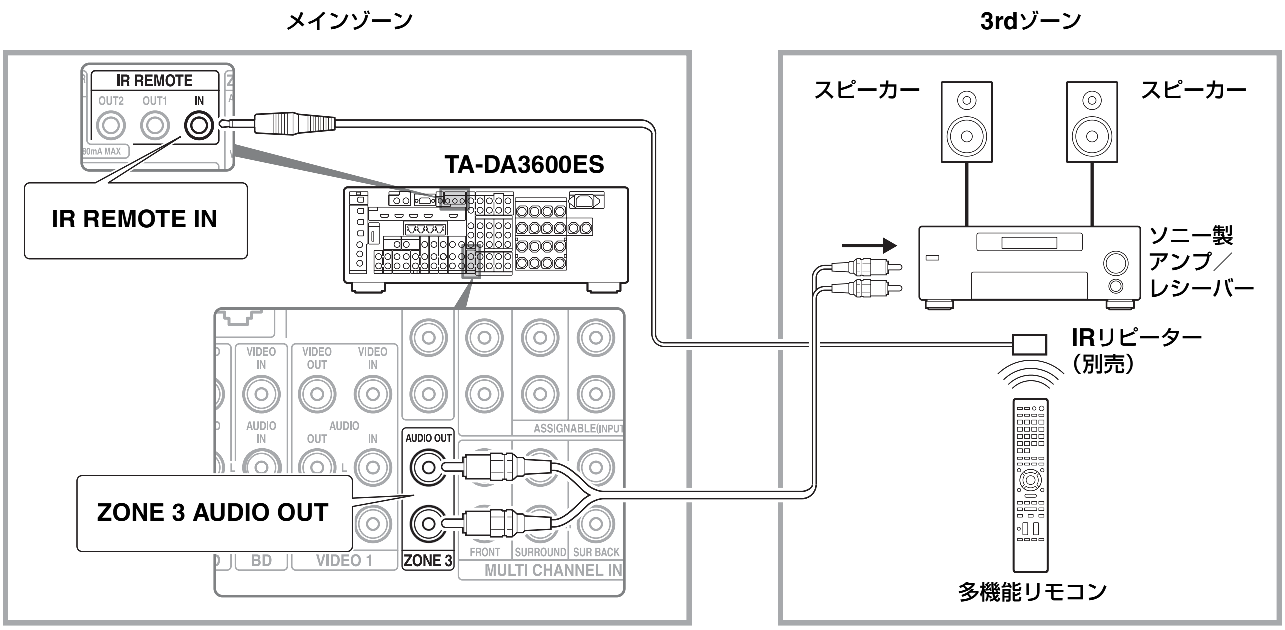


②本機と、もう1台のアンプを使用して、2ndゾーンにあるスピーカーから音声を出力するには



＊ZONE 2 COMPONENT VIDEO OUT 端子にもつなぐことができます。ただし、ZONE 2 VIDEO OUT および ZONE 2 COMPONENT VIDEO OUT 端子からの映像信号は、ビデオコンバーターを通して変換されません。入力と出力は同じ種類のコードでつないでください。

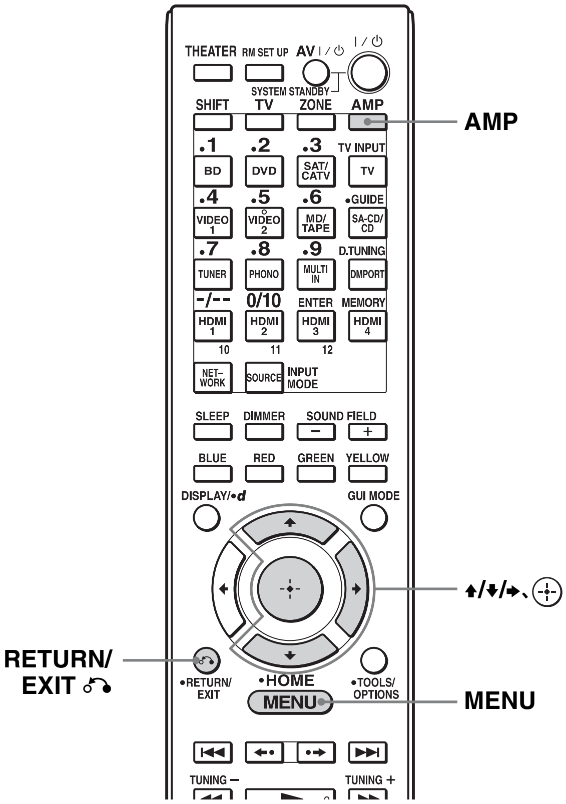
2：3rdゾーンの接続



メインゾーン
3rdゾーン
IR REMOTE
OUT2
OUT1
IN
IR REMOTE IN
TA-DA3600ES
VIDEO IN
VIDEO OUT
VIDEO IN
AUDIO IN
AUDIO OUT
IN
ASSIGNABLE(INPUT
AUDIO OUT
ZONE 3 AUDIO OUT
BD
VIDEO 1
ZONE 3
FRONT
SURROUND
SUR BACK
MULTI CHANNEL IN
スピーカー
スピーカー
ソニー製
アンプ／
レシーバー
IRリピーター
（別売）
多機能リモコン

2nd ゾーンのスピーカーを設定する

2ndゾーンのスピーカーをSURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2端子につないでいるときに（62ページ）、2ndゾーンで選んだ音声がSURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2端子につないだスピーカーから出力されるように設定します。



1 AMP を押す。

本機の操作ができるようになります。

2 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

3 「Settings」を選び、⊕または → を押す。

4 「Speaker」を選び、⊕または → を押す。

5 「Speaker Pattern」を選び、サラウンドバックスピーカーおよびフロントハイスピーカーなしのスピーカーパターンを選ぶ。

6 RETURN/EXIT を押す。

7 「Sur Back Assign」を選び、⊕を押す。

8 「ZONE2」を選び、⊕を押す。

メニューを消すには

MENUを押します。

2ndゾーンの音量調節の設定をする

ZONE 2 AUDIO OUT端子の音量調節を可変または固定に設定します。

1 「Settings」を選び、⊕または → をを押す。

2 「Multi Zone」を選び、⊕または → をを押す。

3 「Zone2 Line Out Level」を選び、⊕を押す。

4 お好みの設定を選び、⊕を押す。

設定	説明
VARIABLE	音量調節を可変にして、初期値を－40 dBに設定します。パワーアンプにつないで使う場合におすすめします。
FIXED	音量調節を±0 dBに固定します。音量調節可能な機器につないで使う場合におすすめします。

ご注意

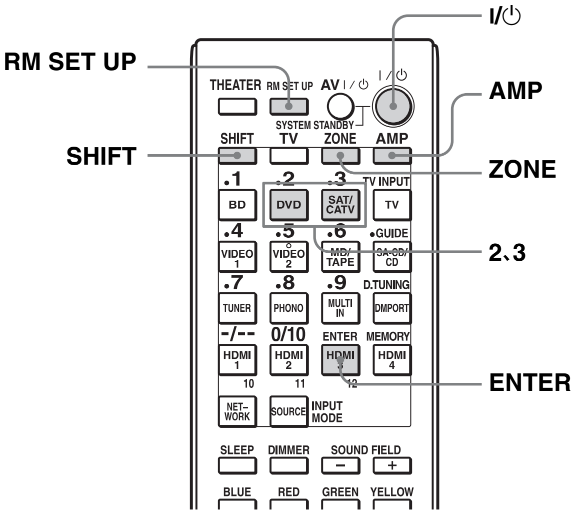
サラウンドバックスピーカーまたはフロントスピーカーありのスピーカーパターンを選んでいる場合、「Sur Back Assign」は「ZONE2」に設定できません。

ちょっと一言

「VARIABLE」に設定すると、ZONE 2 AUDIO OUT 端子および SURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2 端子の音量を連動して変えることができます。

多機能リモコンのゾーン設定を切り換える

多機能リモコンは、お買い上げ時には2ndゾーンで使えるように設定されています。3rdゾーンで使いたい場合は、多機能リモコンのゾーン設定を切り換えてください。



1 RM SET UP を押したまま、I/⏻ を押す。

AMPとZONEが点滅します。

2 ZONE を押す。

AMPが消灯し、ZONEは点滅したままSHIFTが点灯します。

3 ZONE が点滅している間に SHIFT を押して、2nd ゾーンに切り換えたい場合は数字ボタンの 2 を、3rd ゾーンに切り換えたい場合は数字ボタンの 3 を押す。

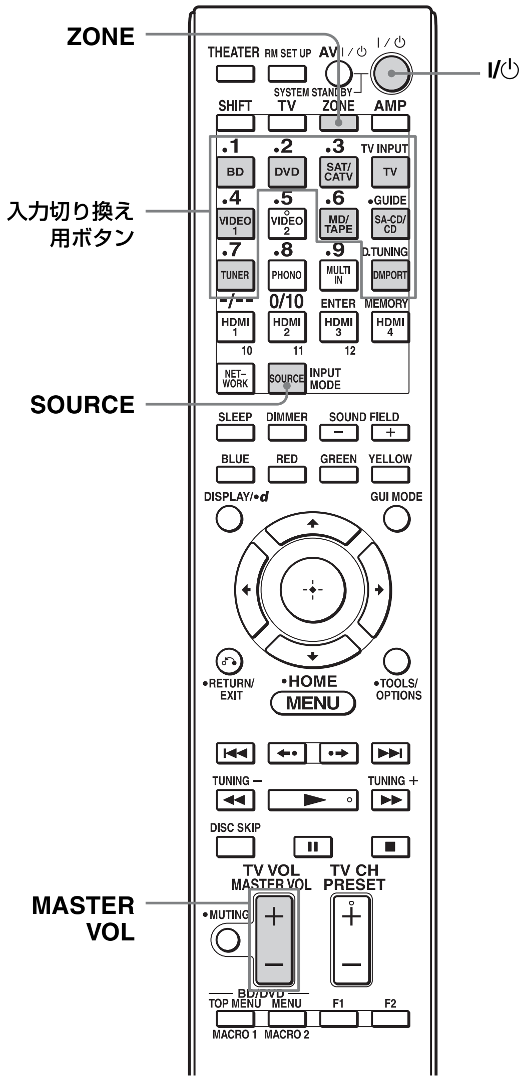
ZONEが点灯します。

4 ENTER を押す。

ZONEが2回点滅し、多機能リモコンのゾーン設定が2ndゾーンまたは3rdゾーンに切り換わります。

本機を 2nd ゾーン／ 3rd ゾーンで操作する

以下の手順では、IRリピーターをつないで2ndゾーンまたは3rdゾーンから本機を操作する方法を説明しています。IRリピーターをつないでいない場合は、メインゾーンで本機を操作してください。



1 本機および 2nd ゾーンまたは 3rd ゾーンのアンプの電源を入れる。

2 ZONE を押す。

多機能リモコンが2ndゾーンまたは3rdゾーンに切り換わります。あらかじめゾーン設定を2ndゾーンまたは3rdゾーンに切り換えておいてください。

3 I/⏻ を押す。

マルチゾーン機能が有効になります。

つづく

4 多機能リモコンの入力切り換え用ボタンのいずれかを押して、出力したいソース信号を選ぶ。

2ndゾーンにはアナログ映像信号とアナログ音声信号が出力されます。3rdゾーンにはアナログ音声信号のみ出力されます。SOURCEを選ぶと、現在の入力信号が出力されます。

5 音量を調節する。

- イラスト1-①の場合（62ページ）、多機能リモコンのMASTER VOL＋/－で音量を調節します。
- イラスト1-②の場合（62ページ）、またはイラスト2の場合（63ページ）、2ndゾーンまたは3rdゾーンのアンプで音量を調節します。

2ndゾーン／3rdゾーンの操作を終了するには

ZONEを押して、I/⏻を押します。

ちょっと一言

- 2nd ゾーンまたは 3rd ゾーンの電源が入っている場合は、メインゾーンをスタンバイ状態に切り換えても本機の電源は切れません。本機の電源を完全に切るには、多機能リモコンの I/⏻ と AV I/⏻ を同時に押します（SYSTEM STANDBY）。
- ZONE 2 OUT および ZONE 3 OUT 端子からは、本機のアナログ入力端子につないだ機器の信号のみ出力されます。本機のデジタル入力端子にのみつないだ機器の信号は出力されません。
- SOURCE を選んでいるときにマルチチャンネル入力を選んでも、MULTI CHANNEL INPUT 端子に入力された信号は、ZONE 2 OUT および ZONE 3 OUT 端子からは出力されません。
- テレビ入力、フォノ入力、およびマルチチャンネル入力は、メインゾーンでのみ選ぶことができます。
- 3rd ゾーンでは「Server」および「SHOUTcast」は選べません。
- メインゾーンと 2nd ゾーンで選べるネットワーク機能は、「Server」または「SHOUTcast」のいずれか 1 つのみです。いずれかのゾーンで他が選ばれていても、あとから選ばれたものが優先されます。

“ブラビアリンク”機能を使う

“ブラビアリンク”機能とは？

“ブラビアリンク”機能はHDMI機器制御機能を搭載したソニーのテレビやDVD／ブルーレイディスクレコーダー、AVアンプなどが対応しています。
“ブラビアリンク”機能に対応しているソニー製品をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、以下の操作ができます。
– ワンタッチプレイ（68ページ）
– システムオーディオコントロール（68ページ）
– オートジャンルセレクター（68ページ）
– 電源オフ連動（69ページ）
– シアター（69ページ）

HDMI機器制御機能は、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

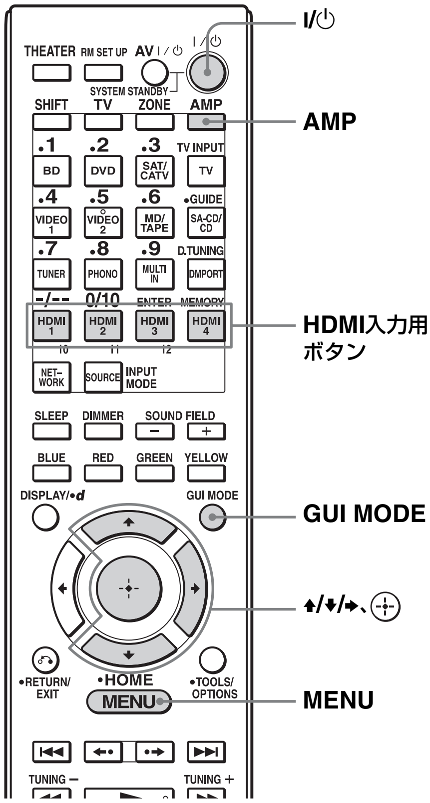
HDMI機器制御機能は、以下の場合働きません。

- HDMI機器制御機能に対応していない機器をつないだ場合
- 本機と各機器をHDMIでつないでいない場合

本機は、“ブラビアリンク”機能に対応している機器とつなぐことをおすすめします。

“ブラビアリンク”機能の準備をする

“ブラビアリンク”機能を使うには、本機とつないでいる機器ともにHDMI機器制御機能の設定を有効にする必要があります。
本機と接続機器のHDMI機器制御機能を別々に設定します。
この操作には多機能リモコンをお使いください。簡単リモコンでは操作できません。



1 AMP を押す。

本機の操作ができるようになります。

2 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

ご注意

- つないでいる機器によっては、HDMI 機器制御機能が働かないことがあります。お使いの機器の取扱説明書を参照してください。
- Input メニューの「Input Assign」を使ってコンポーネント映像入力端子と HDMI 入力端子を関連付けている場合は、「Control for HDMI」を「ON」に設定できません。

つづく

3 「Settings」を選び、⊕または ➡ を押す。

4 「HDMI」を選び、⊕または ➡ を押す。

5 「Control for HDMI」を選び、⊕または ➡ を押す。

6 「ON」を選び、⊕または ➡ を押す。

本機のHDMI機器制御機能が有効になります。

7 GUI MODE を押して、GUI メニューを消す。

GUIメニューが表示されていると、再生機器のHDMI機器制御を正しく設定することができません。

8 HDMI入力用ボタンで、HDMI機器制御を設定する再生機器を表示する。

9 つないでいる機器の HDMI 機器制御機能を有効にする。

接続機器の設定方法については、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。

10 続けて他の機器も設定する場合は、手順8と9をくり返す。

ワンタッチで機器を再生する（ワンタッチプレイ）

簡単な操作で、本機にHDMI接続された機器を自動的に起動して視聴できます。

「Pass Through」を「ON」に設定したときは、本機はスタンバイ状態のままで、音声と映像がテレビから出力されます。

再生機器（DVD プレーヤーなど）を再生する。

本機とテレビの電源も連動して入り、映像と音声が出力されます。

テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ（システムオーディオコントロール）

簡単な操作で、テレビの音声を本機につないだスピーカーから楽しめます。

システムオーディオコントロール機能が有効になっていると、本機の電源が切になっていても、状況に応じて電源が入り、適切な入力に切り換わります。

また、テレビの音声が本機につないだスピーカーから出力されると、テレビの音量は自動的に消音されます。

その他、以下のように働きます。

- テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、テレビの音声は自動的に本機につないだスピーカーから出力されます。本機の電源を切ると、自動的にテレビのスピーカーから出力されます。
- テレビの音量を調節すると、本機につないだスピーカーの音量を調節できます。

システムオーディオコントロール機能は、テレビのメニューでも操作できます。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書を参照してください。

デジタル放送のジャンルに応じてサラウンド効果を切り換える（オートジャンルセレクター）

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（システムオーディオコントロール機能が有効で、かつオートジャンルセレクター対応のテレビなどの機器をお使いの場合のみ）。

1 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 「Settings」を選び、⊕または ➡ を押す。

Settingsメニューが表示されます。

3 「HDMI」を選び、⊕または ➡ を押す。

4 「Sound Field」を選び、⊕または ➡ を押す。

ご注意

- 「Control for HDMI」が「ON」のときは、システムオーディオコントロール機能によって、HDMI メニューの「Audio Out」は自動的に設定されます。
- テレビによっては、ワンタッチプレイで映像、音声が頭切れすることがあります。
- システムオーディオコントロール機能のないテレビをつないだ場合は、システムオーディオコントロール機能は働きません。
- テレビの電源を入れてから本機の電源を入れると、テレビの音声が出力されるまでに多少時間がかかることがあります。
- 番組情報（EPG 情報）に応じてサウンドフィールドが切り換わるとき、音が途切れることがあります。

5 お好みのパラメーターを選び、⊕を押す。

パラメーター	内容
AUTO	デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが自動的に切り換わります。
MANUAL	サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

番組情報対応表

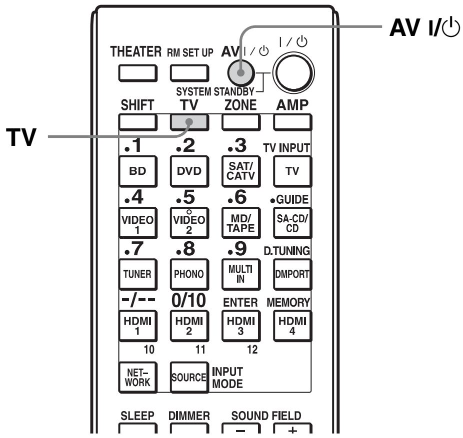
番組情報（EPG情報）	オートジャンルセレクターで切り換わるサウンドフィールド
ニュース／報道	2ch Stereo
スポーツ	Sports
情報／ワイドショー	A.F.D. Auto
ドラマ	A.F.D. Auto
音楽	詳細ジャンルによって異なります。下記の音楽番組詳細ジャンル対応表をご覧ください。
バラエティ	A.F.D. Auto
映画	HD-D.C.S.
アニメ／特撮	A.F.D. Auto
ドキュメンタリー	A.F.D. Auto
劇場／公演	Live Concert
趣味／教育	A.F.D. Auto
福祉	A.F.D. Auto
その他	A.F.D. Auto
スポーツ（CS）	Sports
洋画（CS）	HD-D.C.S.
邦画（CS）	HD-D.C.S.
情報なし	A.F.D. Auto

音楽番組詳細ジャンル対応表

詳細ジャンル	サウンドフィールド
国内ロック／ポップス	Live Concert
海外ロック／ポップス	Live Concert
クラシック／オペラ	Hall
ジャズ／フュージョン	Jazz Club
歌謡曲／演歌	Live Concert
ライブ／コンサート	Live Concert
ランキング／リクエスト	Live Concert
カラオケ／のど自慢	Live Concert
民謡／邦楽	Live Concert
童謡／キッズ	Live Concert
民族音楽／ワールドミュージック	Live Concert
その他	Live Concert

テレビと本機の電源を切る
（電源オフ連動）

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機と再生機器の電源も連動して切ることができます。
また、本機の多機能リモコンでも電源オフ連動の操作ができます。



TV を押してから、AV I/⏻ を押す。

HDMIでつないだすべての機器の電源が切れます。

ワンタッチで映画に適した音場効果に切り換える
（シアター）

本機やテレビ、またはブルーレイディスクレコーダーのリモコンをテレビに向けて、リモコンの THEATER ボタンを押す。

サウンドフィールドが自動的にHD-D.C.S.に切り換わります。
もとのサウンドフィールドに切り換えるには、もう一度THEATERボタンを押します。

ご注意

- 電源オフ連動機能を使うには、テレビの電源連動機能の設定を有効にしてください。詳しくはテレビの取扱説明書を参照してください。
- 状態によっては、接続機器の電源が切れない場合があります。詳しくは、各機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- テレビによってはサウンドフィールドが切り換わらないことがあります。

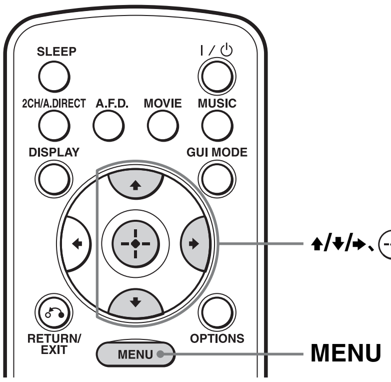
ちょっと一言

テレビの入力を切り換えたとき、もとのサウンドフィールドに切り換わることがあります。

本機がスタンバイ中でも再生機器を楽しむ

（パススルー）

本機がスタンバイ状態であっても、HDMI IN端子から入力された映像および音声信号をHDMI OUT端子につないだテレビに出力することができます。
この機能を有効にするときは、以下の手順で「Pass Through」の設定を行ってください。



1 「Settings」を選び、⊕または → を押す。

2 「HDMI」を選び、⊕または → を押す。

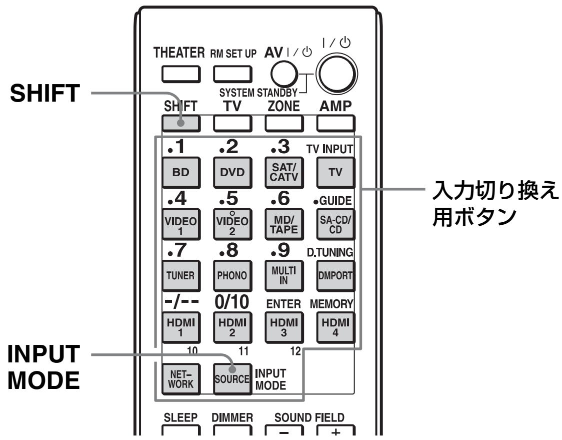
3 「Pass Through」を選び、⊕または → を押す。

4 お好みのパラメーターを選び、⊕または→を押す。

パラメーター	内容
ON	本機のスタンバイ状態時に、HDMI OUT端子から常に信号を出力します。
OFF	本機のスタンバイ状態時に、HDMI出力端子から信号を出力しません。つないだ機器をテレビで楽しむ場合には、本機の電源を入れてください。

デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える

機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、どちらかに固定したり、視聴するソフトの種類によって切り換えることができます。
また、オーディオリターンチャンネル（ARC）機能対応のテレビをご使用の場合は、「AUTO」に設定するとオーディオリターンチャンネル（ARC）機能が働きます。この機能を使うと、HDMI OUT端子にHDMI接続したテレビの音声を、AUDIO IN端子や TV OPTICAL端子につなぐことなく本機から出力することができます。



1 入力切り換え用ボタンで入力を選ぶ。

2 SHIFT を押してから、INPUT MODE を押す。

テレビ画面に選んだ音声入力モードが表示されます。

- AUTO
  機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、デジタル音声入力が優先されます。
  デジタル音声入力がない場合は、アナログ音声入力が選ばれます。
  テレビ入力が選ばれているときは、オーディオリターンチャンネル（ARC）信号が優先されます。テレビがオーディオリターンチャンネル

ご注意

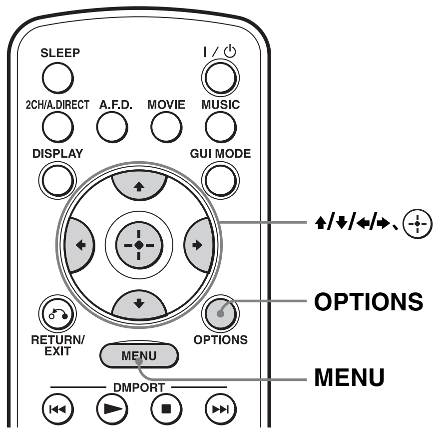
- 「Control for HDMI」が「OFF」のとき、パススルー機能は働きません。
- 入力によっては、設定できない音声入力モードがあります。
- HDMI 入力、デジタルメディアポート、サーバー、SHOUTcast を選んでいるときは、「------」と表示され、他の項目は選べません。HDMI 入力、デジタルメディアポート、サーバー、SHOUTcast 以外の入力を選んでください。
- 「2ch Analog Direct」を使っているときやマルチチャンネル入力を選んでいるときは、音声入力モードは「Analog」に設定されます。他のモードは選べません。

（ARC）機能に対応していない場合は、光デジタル音声入力が選ばれます。
- OPT
  テレビ入力が選ばれているときに表示されます。TV OPTICAL IN端子への光デジタル音声入力が常に選ばれます。
- ANALOG
  AUDIO IN L/R端子へのアナログ音声入力が常に選ばれます。

他の入力からの音声／映像を楽しむ

（Input Assign）

映像や音声信号を他の入力に割り当てることができます。
例：DVDプレーヤーから光デジタル音声信号のみを入力したいときは、DVDプレーヤーのOPTICAL OUT端子を本機のOPTICAL VIDEO 1 IN端子につなぎます。
DVDプレーヤーから映像信号を入力したいときは、DVDプレーヤーのコンポーネント映像端子を本機のCOMPONENT VIDEO IN 1、COMPONENT VIDEO IN 2、またはCOMPONENT VIDEO IN 3端子につなぎます。
Inputメニューの「Input Assign」を使ってDVD入力端子の入力に映像と音声を割り当てます。



1 **「Input」を選び、⊕または → を押す。**

2 **入力を割り当てたい入力名を選ぶ。**

3 **OPTIONS を押す。**
オプションメニューが表示されます。

4 **「Input Assign」を選び、⊕を押す。**

5 **手順２で選んだ入力に割り当てたい音声、映像信号を選び、⊕を押す。**

ご注意
- オーディオリターンチャンネル（ARC）機能は、以下の場合は働きません。
  – テレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していない。
  –「Control for HDMI」が「OFF」に設定されている。
  – テレビのオーディオリターンチャンネル（ARC）機能対応HDMI 入力と本機を HDMI ケーブルでつないでいない。

つづく

入力名		BD	DVD	SAT/ CATV	VIDEO1	VIDEO2	MD/ TAPE	SA-CD/ CD	Tuner	MULTI IN	HDMI1	HDMI2	HDMI3	HDMI4
割り当て可能な映像入力端子	BD Composite	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	DVD Composite	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	SAT/CATV Composite	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	Video1 Composite	–	–	–	○*	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	Video2 Composite	–	–	–	–	○*	–	–	–	–	–	–	–	–
	Component1	○*	○	○	○	○	○	○	○	○	○**	○**	○**	○**
	Component2	○	○*	○	○	○	○	○	○	○	○**	○**	○**	○**
	Component3	○	○	○*	○	○	○	○	○	○	○**	○**	○**	○**
	HDMI1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*	–	–	–
	HDMI2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○*	–	–
	HDMI3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–	○*	–
	HDMI4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–	–	○*
割り当て可能な音声入力端子	Video1 OPT	○	○	–	○*	–	–	○	○	–	–	–	–	–
	Video2 OPT	○	○	–	–	○*	–	○	○	–	–	–	–	–
	MD/TAPE OPT	○	○	–	–	–	○*	○	○	–	–	–	–	–
	BD COAX	○*	–	○	○	○	○	–	○	–	–	–	–	–
	DVD COAX	–	○*	○	○	○	○	–	○	–	–	–	–	–
	SA-CD/CD COAX	–	–	○	○	○	○	○*	○	–	–	–	–	–

＊　初期設定です。

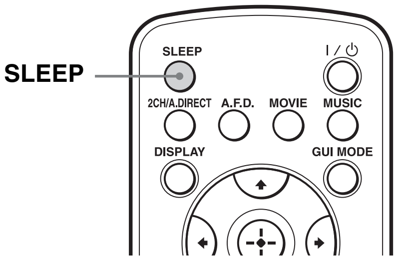
＊＊HDMI 入力にコンポーネント映像を割り当てても、入力されたコンポーネント映像信号は HDMI 映像信号に変換されず、HDMI OUT 端子から出力されません。
入力されたコンポーネント映像信号は、そのままの解像度で COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されます。また、GUI 出力の解像度は、コンポーネント映像、HDMI 映像ともに 525p（480p）になります。

ご注意

- 初期設定ですでに光デジタル端子（OPT）が割り当てられている入力には、他の光デジタル入力を割り当てることはできません。また、初期設定で同軸デジタル端子（COAX）が割り当てられている入力には、他の同軸デジタル入力を割り当てることはできません。
- デジタル音声入力を割り当てると、INPUT MODE の設定が変わることがあります。
- 同じ入力に複数の HDMI 入力を同時に割り当てることはできません。
- 同じ入力に複数のデジタル音声入力を同時に割り当てることはできません。
- 同じ入力に複数のコンポーネント映像入力を同時に割り当てることはできません。
- HDMI 入力にコンポーネント映像を割り当てる場合は、「Control for HDMI」を「OFF」に設定してください。

スリープタイマーを使う

設定した時間がたつと、本機の電源を自動的に切ることができます。



SLEEP をくり返し押す。

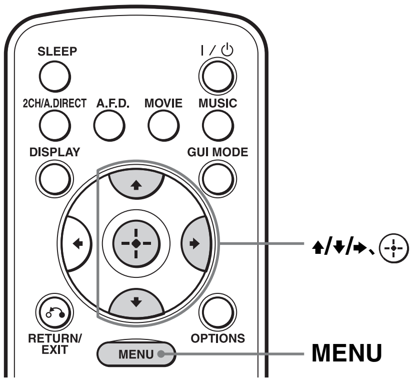
SLEEPを押すたびに時間表示が次のように切り換わります。

→0:30:00→1:00:00→1:30:00→2:00:00→OFF

スリープタイマーが働いているあいだは表示窓の「SLEEP」が点灯します。

小音量でサラウンド効果を楽しむ

音量が小さい状態でも、劇場のようなサラウンド効果を楽しめる機能です。サウンドフィールドと同時に働かせることができます。
例えば深夜に映画を見るとき、小音量でもセリフをはっきりと聞き取ることができます。



1 「Settings」を選び、⊕または → を押す。

2 「Audio」を選び、⊕または → を押す。

3 「Night Mode」を選び、⊕を押す。

4 「ON」を選び、⊕を押す。

ご注意

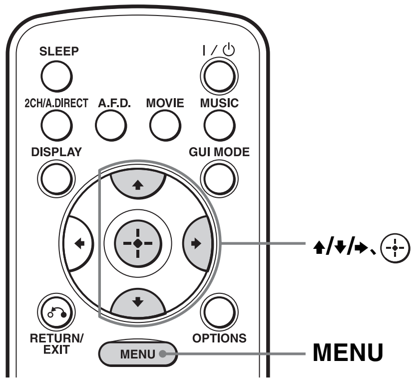
- 「Night Mode」は、以下の場合は機能しません。
  - マルチチャンネル入力を選んでいる。
  - 「2ch Analog Direct」を使用している。
  - サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の Dolby TrueHD 信号またはリニア PCM 信号を受信している。

ちょっと一言

- スリープタイマーが働くまでの残り時間を確認するには、SLEEP を押します。表示窓に残り時間が表示されます。
  もう一度 SLEEP を押すと、スリープタイマーの設定が変わります。
- 「Night Mode」が機能していると、Bass、Treble が上がり、「D.Range.Comp」が「MAX」になります。

他機を使って録音／録画する

本機を使ってオーディオ／映像機器から録音／録画ができます。お持ちの録音／録画機器の取扱説明書も参照してください。



ミニディスクやカセットテープに録音する

本機を使ってミニディスクまたはカセットテープに録音できます。お持ちのMDデッキまたはカセットデッキの取扱説明書も参照してください。

1 「⊡ Input」を選び、⊕または → を押す。

2 再生機器を選び、⊕を押す。

3 再生機器を準備する。

例：CDプレーヤーにディスクを入れる。

4 録音機器を準備する。

ミニディスクまたはカセットテープを入れ、録音レベルを調節する。

5 録音機器側で録音を開始し、再生機器側で再生する。

デジタル音声を録音するには

再生機器をデジタル音声入力（OPTICAL IN）端子につなぎ、録音機器をOPTICAL MD/TAPE OUT端子につないでください。

録画する

1 「⊡ Input」を選び、⊕または → を押す。

2 再生機器を選び、⊕を押す。

3 再生機器の準備をする。

例：ビデオデッキにビデオテープを入れる。

4 録画機器の準備をする。

（VIDEO 1につないだ）録画機器に録画用のビデオテープなどを入れる。

5 録画機器側で録画を開始し、再生機器側で再生する。

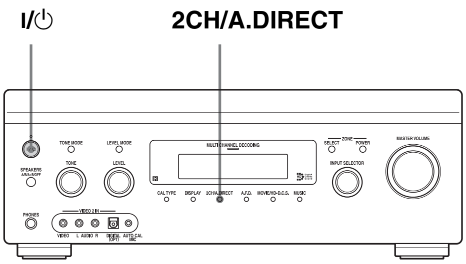
ご注意

- SCMS 対応の録音機器をお使いの場合、録音できないことがあります。
- MULTI CHANNEL INPUT 端子から入力された音声信号は出力されません。
- アナログ出力端子（録音用）からは、アナログ入力信号のみ出力されます。
- COAXIAL IN 端子または OPTICAL IN 端子からの入力信号は、OPTICAL MD/TAPE OUT 端子からそのまま出力されます（MD/Tape 入力を選んでいる場合は除く）。
- HDMI 音声は録音できません。
- 一部のソースにはコピー防止信号が含まれています。このような場合は、ソースからの録画はできないことがあります。
- アナログ出力端子（音声およびコンポジット映像）からは、アナログ入力信号のみ出力されます。
- コンポジット映像信号のみを録画中は、本機のオートスタンバイ機能が働き、録画が中断されることがあります。このような場合は、「Auto Standby」を「OFF」に設定してください（92 ページ）。

本体とリモコンのコマンドモードを切り換える

本機（アンプ）と付属のリモコンのコマンドモード（COMMAND MODE AV1またはCOMMAND MODE AV2）を切り換えることができます。付属のリモコン操作で他にお使いのソニー製機器が誤動作する場合は、コマンドモードを初期設定から適切な設定に切り換えてください。
本機と付属のリモコンともに、初期設定のコマンドモードはCOMMAND MODE AV2です。
本機と付属のリモコンはどちらも同じコマンドモードに設定する必要があります。コマンドモードが一致していない場合は、付属のリモコンで本機の操作ができません。

本体のコマンドモードを切り換える

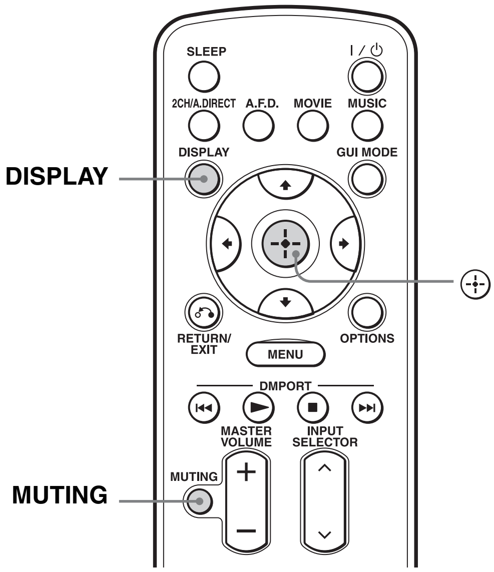


1 I/⏻ を押して、本機の電源を切る。

2 2CH/A.DIRECT を押しながら I/⏻ を押して、本機の電源を入れる。

コマンドモードが「AV2」に設定されると、表示窓に「C. MODE. AV2」と表示されます。
コマンドモードが「AV1」に設定されると、表示窓に「C. MODE. AV1」と表示されます。

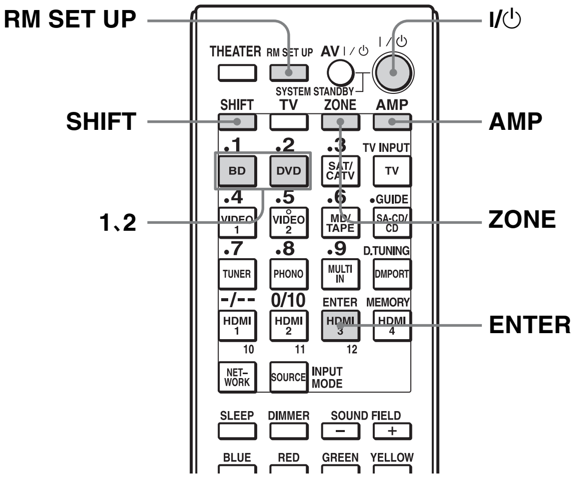
簡単リモコンのコマンドモードを切り換える



DISPLAY を押しながら MUTING を押し、そのまま⊕を押す。

つづく

多機能リモコンのコマンドモードを切り換える



1 RM SET UP を押しながら、I/⏻ を押す。

AMPとZONEが点滅します。

2 AMP を押す。

ZONEが消灯し、AMPは点滅したまま、SHIFTが点灯します。

3 AMPが点滅している間に1または2を押す。

1を押すと、コマンドモードは「AV SYSTEM1」に設定され、2を押すと「AV SYSTEM2」に設定されます。
AMPが点灯します。

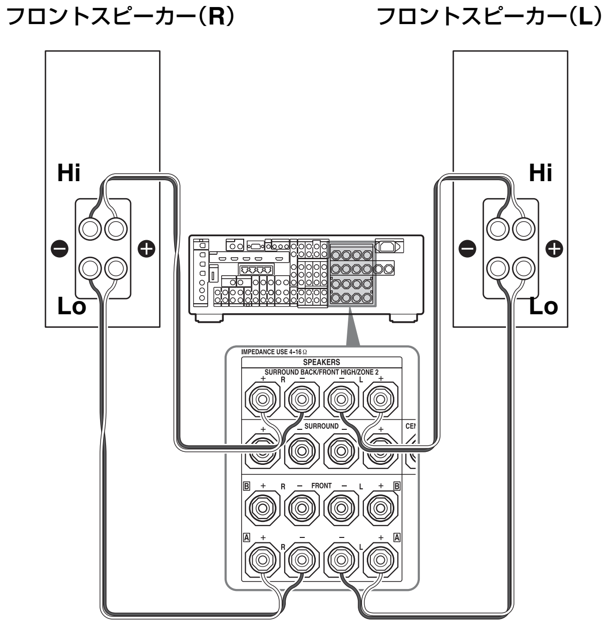
4 ENTER を押す。

AMPが2回点滅し、設定が完了します。

バイアンプ接続する

サラウンドバックスピーカーを使用しない場合、SURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2端子をフロントスピーカーのバイアンプ接続用に使用することができます。

接続する



フロントスピーカーのLo（またはHi）側を本機のFRONT Ⓐ端子に、フロントスピーカーのHi（またはLo）側を本機のSURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2端子につなぎます。
このとき、スピーカーに付属されているHi/Loのショート金具は必ずはずしてください。本機の故障の原因となります。

設定する

1 「Settings」を選び、⊕または ➡ を押す。

2 「Speaker」を選び、⊕または➡を押す。

3 「Speaker Pattern」を選び、⊕を押す。

4 サラウンドバックスピーカーおよびフロントハイスピーカーなしのスピーカーパターンを選ぶ。

5 RETURN/EXITを押す。

6 「Sur Back Assign」を選び、⊕を押す。

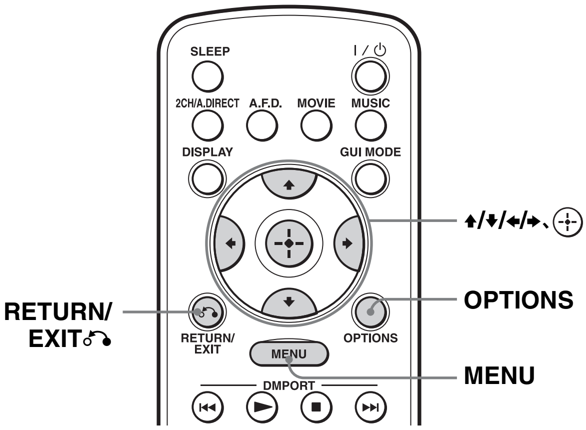
7 「BI-AMP」を選び、⊕を押す。
SURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2端子からFRONT Ⓐ端子と同じ信号が出力されます。

ご注意

- FRONT Ⓑ 端子を使ってバイアンプ接続することはできません。
- 自動音場補正機能を使う場合は、その前にバイアンプの設定をしてください。
- バイアンプの設定後は、サラウンドバックスピーカーのレベル、バランス、イコライザーなどの設定は無効となり、フロントスピーカーの設定が反映されます。
- PRE OUT 端子から出力される信号は SPEAKERS 端子と同じ設定になります。
- 「Speaker Pattern」でサラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーありの設定にした場合、「Sur Back Assign」を「BI-AMP」に設定できません。

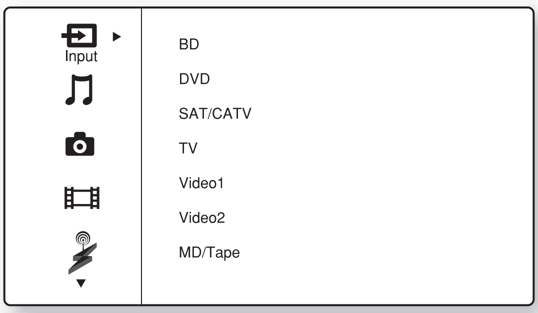
Settings メニューの使いかた

Settingsメニューを使って、スピーカーやサラウンド効果などさまざまな設定ができます。
Settingsメニューをテレビ画面に表示するには、「「GUI MODE」のオン／オフを切り換えるには」（44ページ）の手順にしたがって、本機が「GUI MODE」になっていることを確認してください。



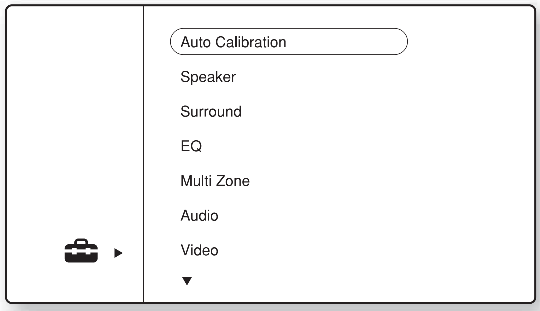
1 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。



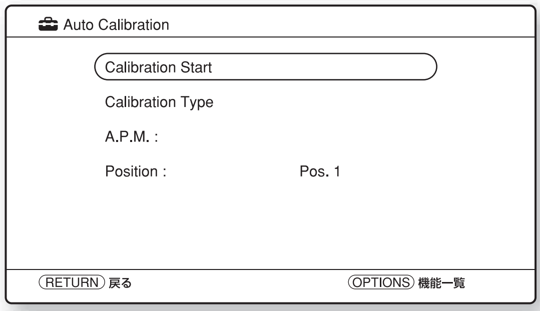
2 「Settings」を選び、⊕または → を押してメニューモードに入る。

Settingsメニューが表示されます。



3 お好みのメニュー項目を選び、⊕を押す。

例：**Auto Calibrationの場合**



4 設定を選び、⊕を押して確定する。

前の表示画面に戻るには

RETURN/EXITを押します。

メニューを消すには

MENUを押します。

Settingsメニュー一覧

メニューアイコン	内容
Auto Calibration	スピーカーレベルや距離などを自動で設定します。
Speaker	スピーカーの位置やインピーダンスを手動で設定します。（80ページ）。
Surround	お好みに合わせてサウンドフィールド（サラウンド効果）を選びます（83ページ）。
EQ	イコライザー（低域／高域のレベル）を調整します（84ページ）。
Multi Zone	マルチゾーンの設定をします（85ページ）。
Audio	音声の設定をします（86ページ）。
Video	アナログ映像信号の解像度を調節します（88ページ）。
HDMI	HDMI端子につないでいる機器の設定をします（89ページ）。
Network	ネットワークの設定をします（90ページ）。
System	本体の設定をします（92ページ）。

自動音場補正機能設定

（Auto Calibration）

Calibration Start

自動音場補正機能を実行します。詳しくは「準備8：自動でスピーカーを設定する （自動音場補正機能）」（36ページ）をご覧ください。

Calibration Type

リスニングポジションごとに補正タイプを選ぶことができます。詳しくは「測定結果を保存する」（39ページ）をご覧ください。

A.P.M.

D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能（36ページ）のA.P.M.（Automatic Phase Matching（自動位相マッチング））機能を設定できます。

■OFF

A.P.M.機能は働きません。

■AUTO

A.P.M.機能のオン／オフが自動的に切り換わります。

ご注意
- 測定結果が登録されていないときは「Calibration Type」は設定できません。
- 「AUTO」に設定しても、「Calibration Type」が「OFF」に設定されている場合は、「A.P.M.」は機能しません。
- 「A.P.M.」は、以下の場合は機能しません。
  – マルチチャンネル入力を選んでいる。
  – 「2ch Analog Direct」を使用している。
  – サンプリング周波数が 88.2 kHz 以上の信号を受信している。

つづく

Position

リスニングポジション、リスニング環境、測定条件に応じて、Pos. 1、2、3として3つのパターンを登録できます。

リスニング環境ごとの設定を登録するには

お好みのリスニングポジションを選んで、そのポジションで行った自動音場補正の測定結果を登録することができます。

1 測定結果を登録したいリスニングポジション（Pos. 1､2､3）を選び、⊕を押す。

2 「Calibration Start」を選び、⊕を押す。

3 測定したくない項目のチェックをはずし、➡を押す。

4 「Start」を選び、⊕を押す。

5 他のリスニングポジションを登録する場合は、手順1から4をくり返す。

登録したリスニングポジションを選ぶには

お好みのリスニングポジション（Pos. 1､2､3）を選び、⊕を押す。
登録したリスニングポジションが選ばれます。

リスニングポジションに名前を付けるには

1 名前を付けるリスニングポジション（Pos. 1､2､3）を選ぶ。

2 OPTIONSを押す。

3 「Name Input」を選び、⊕を押す。

4 ⬆/⬇を押して文字を選び、➡を押す。
⬅/➡を押して入力位置を前後に移動することができます。

5 手順4をくり返して文字を1つずつ入力し、⊕を押す。
入力した名前が登録されます。

スピーカー設定

（Speaker）

それぞれのスピーカーを手動で設定できます。自動音場補正完了後にもスピーカーレベルを調節できます。

Impedance

スピーカーインピーダンスを設定できます。詳しくは「準備7：スピーカーを設定する」（33ページ）をご覧ください。

■4 ohms

■8 ohms

Speaker Pattern

お使いのシステムによって「Speaker Pattern」を選びます。自動音場補正を行う前にスピーカーパターンを選んでください。

Sur Back Assign

バイアンプ接続または2ndゾーン接続用にSURROUND BACK/FRONT HIGH/ZONE 2端子の設定をします。

■OFF

■BI-AMP

■ZONE2

ご注意

- 測定結果は選択中の「Seating Position」にのみ有効です。
- バイアンプ接続または 2nd ゾーン接続からサラウンドバックスピーカー接続に切り換えたいときは、「Sur Back Assign」を「OFF」に設定してからサラウンドバックスピーカーをつないでください。サラウンドバックスピーカーをつないでから、スピーカーの設定をやりなおします。「自動音場補正機能」（36 ページ）または「Manual Setup」（81 ページ）をご覧ください。

Manual Setup

Manual Setup画面で各スピーカーを手動で設定できます。自動音場補正完了後もスピーカーレベルを調節できます。

スピーカーのレベルを調節するには

各スピーカー（センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、フロントハイ右／左、アクティブサブウーファー）のレベルを調節できます。

1 レベルを調節するスピーカーを選び、⊕を押す。

2 「Level:」を選び、⊕を押す。

3 スピーカーのレベルを設定して、⊕を押す。
−20 dBから＋10 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。
フロント右／左スピーカーの場合、左右のバランスを調節できます。フロント左のレベルをFL −10 dBからFL＋10 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。フロント右のレベルをFR−10 dBからFR＋10 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。

リスニングポジションからスピーカーまでの距離を調節するには

リスニングポジションから各スピーカー（フロント右／左、センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、フロントハイ右／左、アクティブサブウーファー）までの距離を調節できます。

1 リスニングポジションからの距離を調節するスピーカーを選び、⊕を押す。

2 「Distance:」を選び、⊕を押す。

3 スピーカーの距離を設定して、⊕を押す。
1.0〜10.0 mの範囲で、1 cm単位で設定できます。

スピーカーのサイズを調節するには

各スピーカー（フロント右／左、センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、フロントハイ右／左、アクティブサブウーファー）のサイズを調節できます。

1 サイズを調節するスピーカーを選び、⊕を押す。

2 「Size:」を選び、⊕を押す。

3 スピーカーのサイズを設定して、⊕を押す。
- Large
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだときに選びます。通常は「Large」を選びます。
- Small
  マルチチャンネルサラウンドの音声が歪んだり、サラウンド効果が不充分なときに選びます。サラウンドスピーカーの低域部分は、アクティブサブウーファーまたは「Large」に設定した他のスピーカーから再生されます。

Crossover Freq

Speakerメニューで「Small」に設定されているスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。自動音場測定後は、測定されたスピーカーのクロスオーバー周波数が各スピーカーに設定されます。

1 設定するスピーカーを選ぶ。

2 設定値を選び、⊕を押す。

ご注意
- 音楽用サウンドフィールドのいずれかを選んでいるときは、Speaker メニューですべてのスピーカーが「Large」に設定されていても、アクティブサブウーファーからは音が出ません。ただし、入力されたデジタル信号に L.F.E. 信号が含まれているときや、フロントとサラウンドのいずれかが「Small」に設定されているとき、映画用サウンドフィールドを選んでいるとき、「Portable Audio」を選んでいるときは、アクティブサブウーファーから音が出ます。

ちょっと一言
- 各スピーカーの「Large」、「Small」の違いは、「そのスピーカーの低音をカットするかしないか」です。「Small」でカットされた低音は、「Large」に設定した他のスピーカーまたはアクティブサブウーファーの低域に回されます。
  しかし、低域は一定の指向性を持っているため、できればカットしたくないものです。したがって、どんなに小型のスピーカーでも、低音を再生させたい場合は「Large」に設定します。逆に大型のスピーカーでも、低音を再生させたくない場合は「Small」に設定します。
  全体の音量が小さい場合はすべてのスピーカーを「Large」に設定し、低音感が足りない場合は、イコライザーで低域を上げることをおすすめします。
- サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。
- フロントスピーカーの設定を「Small」にすると、センター、サラウンド、サラウンドバックスピーカーも自動的に「Small」に設定されます。
- アクティブサブウーファーを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に「Large」に設定されます。

つづく

Test Tone

Test Tone画面でテストトーンの種類を選べます。

各スピーカーからテストトーンを出力するには

各スピーカーから順番に、テストトーンを出力します。

1 「Test Tone」を選び、⊕を押す。
Test Tone画面が表示されます。

2 設定を選び、⊕を押す。
- OFF
- AUTO
テストトーンが出るスピーカーが自動的に切り換わります。
- L、C、R、SR、SB*、SBR、SBL、SL、LH、RH、SW
*「SB」は、サラウンドバックスピーカーを１個のみつないでいるときに表示されます。
テストトーンを出力するスピーカーを選ぶことができます。

3 「Level:」を選び、⊕を押す。

隣り合うスピーカーからテストトーンを出力するには

隣り合うスピーカーからテストトーンを出力することで、スピーカー間のバランスを調節できます。

1 「Phase Noise」を選び、⊕を押す。
Phase Noise画面が表示されます。

2 設定を選び、⊕を押す。
- OFF
- L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SR/SBR、SR/SB*、SBR/SBL、SB/SL*、SBL/SL、SL/L、L/SR、L/RH、LH/RH、LH/R
*「SR/SB」および「SB/SL」は、サラウンドバックスピーカーを１個のみつないでいるときに表示されます。
隣り合う2つのスピーカーから順番に、テストトーンを出力します。
スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

3 「Level:」を選び、⊕を押す。

隣り合うスピーカーから音源を出力するには

隣り合うスピーカーから音源を出力して、スピーカー間のバランスを調節できます。

1 「Phase Audio」を選び、⊕を押す。
Phase Audio画面が表示されます。

2 設定を選び、⊕を押す。
- OFF
- L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SR/SBR、SR/SB*、SBR/SBL、SB/SL*、SBL/SL、SL/L、L/SR、L/RH、LH/RH、LH/R
*「SR/SB」および「SB/SL」は、サラウンドバックスピーカーを１個のみつないでいるときに表示されます。
隣り合う2つのスピーカーから順番に、テストトーンではなくフロント2チャンネルの音源を出力します。
スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

3 「Level:」を選び、⊕を押す。

テストトーンが何も聞こえないときは

- スピーカーコードが確実につながれていない場合があります。コードを軽く引っ張ってみて、抜けたりしないように確実につないでください。
- スピーカーコードがショートしている恐れがあります。

画面に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテストトーンが出力されるときは

つないだスピーカーと設定したスピーカーパターンが間違っています。スピーカーの接続とスピーカーパターンをもう一度確認してください。

ちょっと一言
- すべてのスピーカーの音量を一度に調節したいときは、MASTER VOLUME ＋ / －で調節します。
- 「Test Tone」の設定値は調節している間、表示窓に表示されます。

D.Range Comp

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ドルビーデジタルの音声にのみ働きます。

■OFF

ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

■AUTO

ダイナミックレンジが自動的に圧縮されます。

■STD

レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。

■MAX

ダイナミックレンジを極端に狭くします。

Distance Unit

スピーカーまでの距離を表示する単位を切り換えます。

■meter

メートル表示に切り換えます。

■feet

フィート表示に切り換えます。

サラウンド設定

(Surround)

Sound Field Select画面でサウンドフィールド（サラウンド効果）を選び、エフェクトレベルを調節できます。
詳しくは「サラウンド効果を楽しむ」（49ページ）をご覧ください。

サウンドフィールドを選ぶには

1 お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

2 RETURN/EXIT を押す。

HD-D.C.S.のエフェクトタイプを選ぶには

1 「HD-D.C.S.」を選び、 を押す。

2 お好みのエフェクトタイプを選び、を押す。
HD-D.C.S.には異なる3種類のタイプ（「Theater」、「Dynamic」、「Studio」）があります。各タイプは反響音と残響音の異なるミックスレベルが設定されており、鑑賞者の部屋の特性や好み、雰囲気に合わせて最適な調節をすることができます。

- Theater
  お買い上げ時の設定です。反射音と残響音をミックスし、マスタリングスタジオの特性を再現します。さらに、多くのプロのスタジオや映画館が持つ周波数特性をミックスします。残響の少ないリスニングルームでの映画鑑賞に最適なタイプです。
- Dynamic
  反射音を強調するタイプで、映画館で耳にするような効果音を存分に楽しめます。多くの部屋では音は鳴り響きがちであっても、広々とした音場感は乏しくなります。そのような部屋の特性を音響的に拡張し、マスタリングスタジオと同等の広大でダイナミックな音場感をもたらします。
- Studio
  劇場の素晴らしい音響体験はそのままに、効果を最小限のレベルで維持します。

ご注意
サウンドフィールドによって、メニューごとに設定できる項目が異なります。

ちょっと一言
- 「D.Range Comp」では、ダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。
- 「D.Range Comp」では「STD」が本来の圧縮値ですが、控えめに感じるときは、「MAX」をおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、深夜のビデオ鑑賞などに便利です。アナログのリミッターと異なり、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

つづく

3 RETURN/EXIT を押す。

フロントハイチャンネルのゲインレベルを調節する

プロロジックIIzモード用フロントハイチャンネルのゲインレベルを調節することができます。

1 「PLIIz Height」を選び、→ を選ぶ。

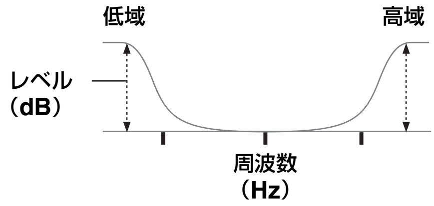
2 ゲインレベルを調節し、←を選ぶ。
- Low
  ゲインレベルを±0 dBに下げます。
- Mid
  ゲインレベルを+3 dBに上げます（初期設定）。
- High
  ゲインレベルを+5 dBに上げます。

3 RETURN/EXIT を押す。

イコライザー設定

（EQ）

下記のパラメーターを使って、すべてのスピーカーの音質（低域／高域のレベル）を調節できます。



EQ画面でイコライザーを調節するには

1 調節したいスピーカーを選び、⊕を押す。

2 「Bass」または「Treble」を選ぶ。

3 パラメーターを調節し、⊕を押す。

ご注意
- イコライザー機能は以下の場合、働きません。
  – マルチチャンネル入力が選ばれている。
  – 「2ch Analog Direct」を使用している。
  – サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の Dolby TrueHD 信号またはリニア PCM 信号を受信している。

マルチゾーン設定

（Multi Zone）

メインゾーン、2ndゾーン、3rdゾーンの設定ができます。

Multi Zone Setup

2ndゾーン／3rdゾーンのオン／オフを切り換えるには

2ndゾーンまたは3rdゾーンの操作のオン／オフを切り換えることができます。

1 オン／オフを切り換えたいゾーンを選び、⊕を押す。

2 「ON」または「OFF」を選び、⊕を押す。
- ON
- OFF

各ゾーンのソースを選ぶには

ゾーンに出力するソースを選ぶことができます。
2ndゾーンには映像信号と音声信号が出力されます。
3rdゾーンには音声信号のみ出力されます。

1 映像／音声信号を出力したいゾーンを選び、⊕を押す。

2 「Input」を選び、⊕を押す。

3 入力を選び、⊕を押す。

2ndゾーンの音量を調節するには

メインゾーン、または本機につないだIRリピーターを2ndゾーンに設置している場合は2ndゾーンで音量を調節することができます。スピーカー設定の「Sur Back Assign」を「ZONE2」に設定している場合は、2ndゾーンの音量も調節することができます。
「Zone2 Line Out Level」が「VARIABLE」に設定されている場合は、「Multi Zone Setup」でも音量を調節することができます。

1 音量を調節したいゾーンを選び、⊕を押す。

2 「Volume」を選び、⊕を押す。

3 音量を調節し、⊕を押す。

メインゾーン／2ndゾーンの音量をプリセットするには

本機の電源を入れたときの各ゾーンの音量をプリセットすることができます。

1 音量をプリセットしたいゾーンを選び、⊕を押す。

2 「Preset Volume」を選び、⊕を押す。

3 音量を調節し、⊕を押す。
調節中は、MASTER VOLUMEの値にかかわらず、調節した音量で音が出力されます
「OFF」に設定した場合は、各ゾーンは前回電源を切ったときの音量で起動します。

Zone2 Line Out Level

ZONE 2 AUDIO OUT端子の音量調節を「VARIABLE（可変）」または「FIXED（固定）」に設定できます。詳しくは、「2ndゾーンの音量調節の設定をする」（64ページ）をご覧ください。

■ **VARIABLE**

■ **FIXED**

12V Trigger

他のゾーンから本機の電源を入／切したり、12Vトリガ機能を使うためのさまざまなオプションを選んだりすることができます。

■ **OFF**

本機の電源が入っていても、12Vトリガの出力を常にオフにします。

■ **Ctrl**

外部制御機器のコントロールコマンドを使って、12Vトリガの出力のオン／オフを手動で切り換えます。

■ **Zone**

選んだゾーンのオン／オフに連動して、12Vトリガの出力のオン／オフを切り換えます。

ご注意
- 以下の場合は、2nd ゾーンの音量をプリセットできません。
  – 「Sur Back Assign」が「OFF」または「BI-AMP」に設定されている。
  – 「Zone2 Line Out Level」が「FIXED」に設定されている。

ちょっと一言
本機がスタンバイ状態であっても（本機の電源を切るには、リモコンの I/⏻ を押します）、2nd ゾーンまたは 3rd ゾーンのアンプの電源は入ったままです。すべてのアンプの電源を切るには、多機能リモコンの I/⏻ と AV I/⏻ を同時に押します（SYSTEM STANDBY）。

つづく

■**Input**

あらかじめ設定した入力が選ばれたとき、12Vトリガの出力をオンに切り換えます。
「Input」を選ぶと、各入力トリガのオン／オフを設定する設定画面が表示されます。↑/↓を押して入力を選び、⊕を押してボックスをチェックします。

音声設定

（Audio）

音声に関する設定ができます。

Digital Legato Linear（D.L.L.）

「AUTO」に設定すると、非可逆圧縮で録音された音声を高音質で再生できます。リニアPCMで記録されているCDの音声なら、さらに音質が向上します。

■**OFF**

■**AUTO 1**

非可逆圧縮された音声フォーマットとアナログ音声信号に対して機能します。

■**AUTO 2**

リニアPCM信号に対しても、非可逆圧縮された音声フォーマットとアナログ音声信号と同様に機能します。

A/V Sync

入力された音声を遅らせて、映像と音声のずれを調節することができます。

■**0 ms － 300 ms**

0 ms～300 msの範囲で10 msごとに調節できます。

ご注意

- 「D.L.L.」は、「A.F.D. Auto」が選ばれているときに機能します。ただし、以下の場合は機能しません。
  - サンプリング周波数が 44.1 kHz 以外のリニア PCM 信号を受信している。
  - Dolby Digital Plus、Dolby Digital EX、Dolby TrueHD、DTS 96/24、DTS-ES Matrix 6.1、DTS-HD Master Audio、または DTS-HD High Resolution Audio の信号を受信している。
- 「A/V Sync」は、大きな液晶ディスプレイやプラズマモニター、プロジェクターなどを使用しているときに便利な機能です。
- 「A/V Sync」は、以下の場合は機能しません。
  - マルチチャンネル入力を選んでいる。
  - 「2ch Analog Direct」を使用している。

Dual Mono

MPEG-2 AACやドルビーデジタルなどの二重音声を聞くとき、再生モードを設定します。

■MAIN/SUB

フロント左スピーカーから主音声、フロント右スピーカーから副音声を同時に出力します。

■MAIN

主音声のみを出力します。

■SUB

副音声のみを出力します。

Decode Priority

HDMI端子またはDIGITAL IN端子に入力されるデジタル音声の入力モードを設定できます。

■PCM

DIGITAL IN端子からの信号を選んでいるときに、リニアPCM信号を優先して処理します（頭切れを防ぎます）。なお、リニアPCM以外の信号が入力された場合、信号フォーマットによっては音が出なくなることがあります。この場合は「AUTO」に設定してください。
HDMI IN端子からの信号を選んでいるときは、つないだ機器からはリニアPCM信号のみ出力されるようになります。
その他のフォーマットを受信する場合は「AUTO」に設定してください。

■AUTO

ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、リニアPCMの音声入力を自動的に切り換えます。

Night Mode

音量が小さい状態でも、劇場のようなサラウンド効果を楽しめる機能です。サウンドフィールドと同時に働かせることができます。例えば深夜に映画を見るとき、小音量でもセリフをはっきりと聞き取ることができます。詳しくは「小音量でサラウンド効果を楽しむ」（73ページ）をご覧ください。

■OFF

■ON

ご注意

「Decode Priority」を「PCM」に設定した場合でも、再生するディスクの信号によっては頭切れすることがあります。

映像設定（Video）

映像に関する設定ができます。

Resolution

アナログ映像入力の解像度を変換できます。

■DIRECT

アナログの映像信号を変換しないで出力します。

■AUTO

■480i/576i

■480p/576p

■720p

■1080i

■1080p

「Resolution」の設定	出力信号 / 入力信号	HDMI OUT端子	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子	MONITOR VIDEO OUT端子
DIRECT	COMPONENT VIDEO IN端子	–	○	–
	VIDEO IN端子	–	–	○
AUTO（初期設定）	COMPONENT VIDEO IN端子	●a)	●b)	●b)
	VIDEO IN端子	●a)	●b)	●b)
480i/576i	COMPONENT VIDEO IN端子	●c)	●	●
	VIDEO IN端子	●c)	●	●
480p/576p	COMPONENT VIDEO IN端子	●	●	–
	VIDEO IN端子	●	●	○
720p、1080i	COMPONENT VIDEO IN端子	●	●d)	–
	VIDEO IN端子	●	●d)	○
1080p	COMPONENT VIDEO IN端子	●	○	–
	VIDEO IN端子	●	–	○

●： 映像は変換されて、ビデオコンバーターを通して出力されます。
○： 映像は変換されず、入力と同じ種類の信号のみ出力されます。
–： 映像を出力しません。

a) つないでいるモニターによって、解像度は自動的に設定されます。
b) HDMI OUT 端子にテレビがつながれていないときに「Resolution」が「AUTO」に設定されている場合、525i（480i）/625i（576i）の信号が出力されます。
c) 525i（480i）/625i（576i）に設定しても、525p（480p）/625p（576p）の信号が出力されます。
d) 著作権保護されていない映像は、メニューの設定のとおりに出力されます。著作権保護された映像は、525p（480p）/625p（576p）まで出力されます。

ご注意

- モニターなどを HDMI OUT 端子につないだときは、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子、MONITOR VIDEO OUT 端子から、映像信号は出力されません。
- つないだテレビが「Resolution」で選んだ解像度に対応していないときは、映像は正しく出力されません。
- 変換された HDMI 映像出力信号は Deep Color、“x.v.Color” および 3D には対応していません。

HDMI 設定

（HDMI）

HDMI端子につないだ機器のための設定ができます。

Control for HDMI

HDMI接続した機器のHDMI機器制御機能を有効にします。

■OFF

■ON

Pass Through

本機がスタンバイ状態でもHDMI信号をテレビに出力できるようにします。詳しくは、「本機がスタンバイ中でも再生機器を楽しむ （パススルー）」（70ページ）をご覧ください。

■OFF

■ON

Audio Out

本機とHDMI接続した再生機からの音声の出力先を設定します。

■TV+AMP

再生機の音声を本機につないだスピーカーと、本機にHDMI接続されたテレビのスピーカーの両方から再生します。

■AMP

再生機の音声を本機につないだスピーカーから出力します。マルチチャンネルの音声をそのまま再生可能です。

Sound Field

デジタル放送の番組を視聴するときに、オートジャンルセレクター機能を使うかどうかを設定します。
詳しくは、「デジタル放送のジャンルに応じてサラウンド効果を切り換える （オートジャンルセレクター）」（68ページ）をご覧ください。

■AUTO

■MANUAL

Subwoofer Level

HDMI接続を通してマルチチャンネルリニアPCM信号が入力されているとき、アクティブサブウーファーのレベルを「0 dB」または「+10 dB」に設定できます。HDMI入力ごとにレベルの設定ができます。

■0 dB

■AUTO

入力ソースの音声ストリームによって自動的に「0 dB」または「+10 dB」に設定します。

■+10 dB

Subwoofer LPF

HDMI接続でリニアPCM信号が入力されているときに、アクティブサブウーファー出力のローパスフィルターを設定します。お持ちのアクティブサブウーファーにクロスオーバー周波数調整などのローパスフィルターがない場合に設定してください。

■OFF

ローパスフィルターは働きません。

■ON

常にカットオフ周波数120 Hzのローパスフィルターが働きます。

ご注意

- 「Control for HDMI」が「ON」のとき、「Audio Out」の設定が自動的に変わる場合があります。
- 「Control for HDMI」が「OFF」のとき、「Pass Through」の設定はできません。
- 「Audio Out」が「TV+AMP」に設定されていると、再生機の音質はチャンネル数、サンプリング周波数など、テレビの性能に影響されます。テレビがステレオ（2ch）スピーカーの場合は、マルチチャンネルのソフトを再生しても、本機の音声出力はテレビと同じステレオ（2ch）になります。
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出力されない場合があります。この場合は、「Audio Out」を「AMP」に設定してください。
- Input メニューの「Input Assign」を使って HDMI 入力を割り当てた端子の場合は、テレビから音声は出ません。
- 「Audio Out」が「AMP」に設定されているときは、テレビのスピーカーから音は出ません。

ネットワーク設定

（Network）

ネットワークの設定をすることができます。

Network Setup

各種ネットワークの設定を行います。

ネットワーク設定を確認するには

1 「Network Setup」を選び、⊕を押す。

2 「Network Information」を選び、⊕を押す。
本機のネットワーク設定情報が表示されます。

ネットワーク設定を自動で変更するには

1 「Network Setup」を選び、⊕を押す。

2 「Internet Setup」を選び、⊕を押す。

3 「Connect Automatically (DHCP)」を選び、⊕を押す。
「本機がネットワークに接続しました。」と表示されます。

4 「Finish」を選び、⊕を押す。

IPアドレスを手動で設定するには

1 「Network Setup」を選び、⊕を押す。

2 「Internet Setup」を選び、⊕を押す。

3 「Manual Configuration」を選び、⊕を押す。
IPアドレスの設定画面が表示されます。

4 IPアドレス・ボックスを選び、⊕を押す。
ソフトキーボードが表示されます。

5 ↑/↓/←/→を押して数字を1 つずつ選び、⊕を押す。

6 「Finish」選び、⊕を押す。

7 →を押して、次の画面を表示する。

8 手順4から7をくり返して、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバー（優先）、DNSサーバー（代替）を入力する。

9 「Test Connection」を選び、⊕を押す。
「本機がネットワークに接続しました。」と表示されます。

10 「Finish」を選び、⊕を押す。

Proxyサーバーを手動で設定するには

1 「Network Setup」を選び、⊕を押す。

2 「Proxy Setup」を選び、⊕を押す。

3 「Enable」を選び、⊕を押す。

4 プロキシアドレス・ボックスを選択し、⊕を押す。
ソフトキーボードが表示されます。

5 ↑/↓/←/→を押して文字を1 つずつ選び、⊕を押す。

6 「Finish」選び、⊕を押す。

7 →を押してプロキシポート・ボックスを選び、⊕を押す。
ソフトキーボードが表示されます。

8 ↑/↓/←/→を押して数字を1 つずつ選び、⊕を押す。

9 「Finish」選び、⊕を押す。

10 →を押す。

11 「Finish」を選び、⊕を押す。

External Control

ホームネットワーク上の外部コントローラーから本機を操作する機能を有効にします。

■**OFF**

■**ON**

Controllers

過去に本機にアクセスを試みたホームネットワーク上のネットワークコントローラーに対して、操作の可否を設定します。

1 **「Controllers」を選び、⊕を押す。**
コントローラーの設定画面が表示されます。

2 **一覧から本機への操作を許可するコントローラーを選び、⊕を押す。**
「自動アクセス許可」のボックスをチェックすると、今後検出されるすべてのコントローラーが自動的にチェックされます。

3 **「Finish」を選び、⊕を押す。**

設定をキャンセルするには

手順3で「Cancel」を選び、⊕を押します。

検出されたコントローラーを一覧から削除するには

1 一覧から削除したいコントローラーを選び、⊕を押してチェックをはずす。

2 「Remove All」を選び、⊕を押す。

Device Name

ネットワーク上で表示される20文字までのデバイス名を本機に割り当てることができます。

1 **「Device Name」を選び、⊕を押す。**

2 **⊕を押す。**
ソフトキーボードが表示されます。

3 **↑/↓/←/→ を押して文字を1つずつ選び、⊕を押す。**

4 **「Finish」を選び、⊕を押す。**
設定が本機に反映されると、本機は自動的に再起動します。

Network Standby

本機がスタンバイ状態であっても、ネットワーク機能を有効にして、本機のスイッチングハブを機能させたり、外部制御機器が本機を操作したりできるようにします。

■OFF

本機がスタンバイ状態のときは、ネットワーク機能を停止します。

■ON

本機がスタンバイ状態であっても、ネットワーク機能を有効にします。
また、本機の電源を入れたあとのネットワーク機能の起動時間を短縮します。

設定を変更する

ご注意

- 「Controllers」を設定する場合は、「External Control」を「ON」にしてください。
- 「Device Name」で登録できるデバイス名は、最大20文字です。またデバイス名として使用できない文字があります。

ちょっと一言

- 本機にアクセスを試みたネットワークコントローラーが10台まで一覧表示され、各コントローラーが本機を操作できます。
- 初期設定のデバイス名は「TA-DA3600ES」です。

システム設定

(System)

本機の各種設定を変えることができます。

RS232C Control

保守・サービスのためのコントロールモードを有効にします。

■OFF

■ON

Auto Standby

操作や信号の入力がないときに、本機のメインゾーンを自動的にスタンバイ状態に切り換えます。

■OFF

スタンバイ状態に切り換えません。

■ON

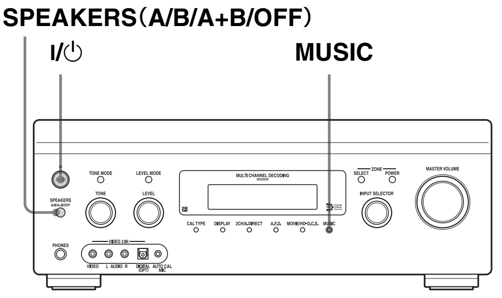
約30分後にスタンバイ状態に切り換えます。

Settings Lock

本機の設定をロックします。

■ON

Settingsメニューからは、この機能をオンにする操作のみが可能です。オフにするときは、以下の操作を行ってください。



1 **I/⏻ を押して、本機の電源を切る。**

2 **MUSIC と SPEAKERS(A/B/A+B/OFF)を押しながら、I/⏻ を押して、本機の電源を入れる。**

Software Version

本機システムのソフトウェアのバージョンを確認したり、ソフトウェアをアップデートしたりできます。ソフトウェアは、付属のCD-ROMで提供しているSetup Managerを使ってアップデートすることもできます。詳しくは「Setup Managerを使って本機のソフトウェアをアップデートする」(59ページ)をご覧ください。

本機のソフトウェアをアップデートするには

1 「Software Version」を選び、⊕を押す。

2 「Update via Internet」を選び、⊕を押す。
現在のソフトウェアバージョンおよび最新のソフトウェアバージョンが表示されます。

3 「Update」を選び、⊕を押す。
確認画面が表示されます。

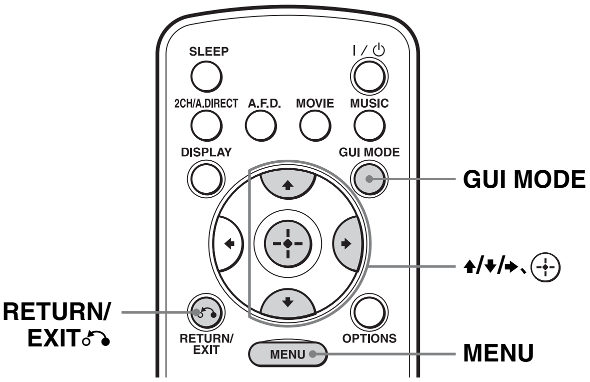
4 「開始」を選び、⊕を押す。
本機のアップデートが始まります。
アップデート中は、本体前面のMULTI CHANNEL DECODINGランプが点滅します。
アップデートが完了すると、本機は自動的に再起動します。

ご注意

- 「Server」、「SHOUTcast」、またはマルチチャンネル入力が選ばれているときは、Auto Standby 機能は働きません。
- 以下の場合、本機のアップデートは実行されません。
  - すべて最新のバージョンの場合
  - ネットワークの設定がされていない、サーバーがダウンしているなどの理由によって、本機がデータを取得できない場合
- ソフトウェアのアップデート中に本機の電源を切ったり、LAN ケーブルを抜いたりしないでください。故障の原因となります。
- ソフトウェアのアップデートは、完了するまで 50 分ほどかかります。

テレビをつながずに本機を操作する

本機をテレビにつないでいない場合、GUIを使わずに本体の表示窓の表示で操作を確認することができます。



表示窓のメニューを使う

MENU、DISPLAYまたは↑/↓を押したときに、表示窓に「GUI MODE」と表示される場合は、GUI MODEを押してメニューの表示モードを「DISPLAY MODE」に切り換えてください。（表示窓に「GUI OFF」と表示されたあと、「DISPLAY MODE」に切り換わります。）

1 本機の電源を入れる。

2 MENU を押す。

本体の表示窓にメニューが表示されます。

例：「SPEAKER」の場合



3 メニューを選び、⊕または → を押す。

4 メニュー項目を選び、⊕を押す。

項目のパラメーターが表示されます。



5 お好みのパラメーターを選び、⊕を押す。

パラメーターが確定します。



ちょっと一言

1 つ前の手順に戻るには RETURN/EXIT↶ を押します。

つづく

メニュー一覧（表示窓）

各メニューから以下のオプションが設定できます。
「■■」はそれぞれの項目の設定値が入ります。

メニュー	項目	設定値	初期値
自動音場補正機能設定 ＜AUTO CAL＞	A.CAL START （自動音場補正）		
	5 4 3 2 1		
	TONE		
	T.S.P.		
	WOOFER		
	COMPLETE （測定完了）	RETRY、SAVE EXIT、WRN CHECK、PHASE INFO、DIST. INFO、LEVEL INFO、EXIT	SAVE EXIT
	W-■■■:4Y （警告コード）	FL、FR、CNT、SL、SR、SBR、SBL、SW、LH、RH : 0、1、2、3、4	
	NO WARN （警告なし）		
	■■■: ■■■ （位相の情報）	FL、FR、CNT、SL、SR、SBR、SBL、SW、LH、RH : OUT、IN	
	■■■: ■■■ （距離の情報）	FL、FR、CNT、SL、SR、SBR、SBL、SW、LH、RH	
	■■■: ■■■■ （レベルの情報）	FL、FR、CNT、SL、SR、SBR、SBL、SW LH、RH	
	E-■■ :3Y （エラーコード）	F、SR、SB : 0、1、2、3、4	
	RETRY? ■■■ （再測定）	YES、NO	YES
	CANCEL （キャンセル）		
	CAL TYPE （補正のタイプ）	FULL FLAT、ENGINEER、FRONT REF、OFF	FULL FLAT
	A.P.M. （自動位相マッチング機能）	A.P.M. AUTO、A.P.M. OFF	A.P.M. AUTO
	POSITION （リスニングポジション）	POS. 1、POS. 2、POS. 3	POS. 1
	NAME IN （名前の入力）	この機能の参考として、「入力に名前を付ける （Name Input）」（46ページ）をご覧ください。	

メニュー	項目	設定値	初期値
レベル設定 <LEVEL>	TEST TONE （テストトーン）	OFF、FIX ■■■*、AUTO ■■■*	OFF
	P. NOISE （フェーズノイズ）	OFF、FL/CNT、CNT/FR、FR/SL、FR/SR、SR/SL、SR/SBR、SR/SB、SBR/SBL、SB/SL、SBL/SL、SL/FL、FL/SR、FL/RH、LH/RH、LH/FR	OFF
	P. AUDIO （フェーズオーディオ）	OFF、FL/CNT、CNT/FR、FR/SL、FR/SR、SR/SL、SR/SBR、SR/SB、SBR/SBL、SB/SL、SBL/SL、SL/FL、FL/SR、FL/RH、LH/RH、LH/FR	OFF
	FL LEVEL （フロントスピーカー（左）レベル）	FL −10.0dB ～ FL +10.0dB（0.5dB単位）	FL0dB
	FR LEVEL （フロントスピーカー（右）レベル）	FR −10.0dB ～ FR +10.0dB（0.5dB単位）	FR0dB
	CNT LEVEL （センタースピーカーレベル）	CNT −20.0dB ～ CNT +10.0dB（0.5dB単位）	CNT0dB
	SL LEVEL （サラウンドスピーカー（左）レベル）	SL −20.0dB ～ SL +10.0dB（0.5dB単位）	SL0dB
	SR LEVEL （サラウンドスピーカー（右）レベル）	SR −20.0dB ～ SR +10.0dB（0.5dB単位）	SR0dB
	SB LEVEL （サラウンドバックスピーカーレベル）	SB −20.0dB ～ SB +10.0dB（0.5dB単位）	SB0dB
	SBL LEVEL （サラウンドバックスピーカー（左）レベル）	SBL −20.0dB ～ SBL +10.0dB（0.5dB単位）	SBL0dB
	SBR LEVEL （サラウンドバックスピーカー（右）レベル）	SBR −20.0dB ～ SBR +10.0dB（0.5dB単位）	SBR0dB
	LH LEVEL （フロントハイスピーカー（左）レベル）	LH −20.0dB ～ LH +20.0dB（0.5dB単位）	LH0dB
	RH LEVEL （フロントハイスピーカー（右）レベル）	RH −20.0dB ～ RH +20.0dB（0.5dB単位）	RH0dB
	SW LEVEL （サブウーファーレベル）	SW −20.0dB ～ SW +10.0dB（0.5dB単位）	SW0dB
	D. RANGE （ダイナミックレンジの圧縮）	COMP. MAX、COMP. STD、COMP. AUTO、COMP. OFF	COMP. AUTO

つづく

メニュー	項目	設定値	初期値
スピーカー設定 <SPEAKER>	SP PATTERN （スピーカーパターン）	5/2.1〜2/0（20パターン）	3/4.1
	FRT SIZE （フロントスピーカー）	LARGE、SMALL	LARGE
	CNT SIZE （センタースピーカー）	LARGE、SMALL	LARGE
	SUR SIZE （サラウンドスピーカー）	LARGE、SMALL	LARGE
	FH SIZE （フロントハイスピーカー）	LARGE、SMALL	LARGE
	SB ASSIGN （サラウンドバックスピーカーの割り当て）	OFF、BI-AMP、ZONE2	OFF
	FL DIST. （フロントスピーカー（左）までの距離）	FL 1.00m 〜 FL 10.00m（0.01m単位）	FL 3.00 m
	FR DIST. （フロントスピーカー（右）までの距離）	FR 1.00m 〜 FR 10.00m（0.01m単位）	FR 3.00 m
	CNT DIST. （センタースピーカーまでの距離）	CNT 1.00m 〜 CNT 10.00m（0.01m単位）	CNT 3.00 m
	SL DIST. （サラウンドスピーカー(左)までの距離）	SL 1.00m 〜 SL 10.00m（0.01m単位）	SL 3.00 m
	SR DIST. （サラウンドスピーカー(右)までの距離）	SR 1.00m 〜 SR 10.00m（0.01m単位）	SR 3.00 m
	SB DIST. （サラウンドバックスピーカーまでの距離）	SB 1.00m 〜 SB 10.00m（0.01m単位）	SB 3.00 m
	SBL DIST. （サラウンドバックスピーカー（左）までの距離）	SBL 1.00m 〜 SBL 10.00m（0.01m単位）	SBL 3.00 m
	SBR DIST. （サラウンドバックスピーカー（右）までの距離）	SBR 1.00m 〜 SBR 10.00m（0.01m単位）	SBR 3.00 m
	FL DIST. （フロントハイスピーカー（左）までの距離）	FL 1.00m 〜 FL 10.00m（0.01m単位）	FL 3.00 m
	FR DIST. （フロントハイスピーカー（右）までの距離）	FR 1.00m 〜 FR 10.00m（0.01m単位）	FR 3.00 m
	SW DIST. （サブウーファーまでの距離）	SW 1.00m 〜 SW 10.00m（0.01m単位）	SW 3.00 m
	DIST. UNIT （距離の単位）	FEET、METER	METER
	FRT CROSS** （フロントスピーカーのクロスオーバー周波数）	CROSS 40Hz 〜 CROSS 200Hz（10Hz単位）	CROSS 120Hz
	CNT CROSS** （センタースピーカーのクロスオーバー周波数）	CROSS 40Hz 〜 CROSS 200Hz（10Hz単位）	CROSS 120Hz
	SUR CROSS** （サラウンドスピーカーのクロスオーバー周波数）	CROSS 40Hz 〜 CROSS 200Hz（10Hz単位）	CROSS 120Hz
	FH CROSS** （フロントハイスピーカーのクロスオーバー周波数）	CROSS 40Hz 〜 CROSS 200Hz（10Hz単位）	CROSS 120Hz
	SP IMP. （スピーカーインピーダンス）	8 ohms、4 ohms	8 ohms

メニュー	項目	設定値	初期値
サラウンド設定 ＜SURROUND＞	EFFECT （HD-D.C.S.のエフェクトタイプ）	DYNAMIC、THEATER、STUDIO	THEATER
	H. GAIN （PLIIz Heightのゲインレベル調整）	HIGH、MID、LOW	MID
イコライザー設定 ＜EQ＞	FRT BASS （フロントスピーカーの低域レベル）	FRT B. −10.0dB 〜 FRT B. +10.0dB（0.5dB単位）	FRT B. 0dB
	FRT TREBLE （フロントスピーカーの高域レベル）	FRT T. −10.0dB 〜 FRT T +10.0dB（0.5dB単位）	FRT T. 0dB
	CNT BASS （センタースピーカーの低域レベル）	CNT B. −10.0dB 〜 CNT B. +10.0dB（0.5dB単位）	CNT B. 0dB
	CNT TREBLE （センタースピーカーの高域レベル）	CNT T. −10.0dB 〜 CNT T +10.0dB（0.5dB単位）	CNT T. 0dB
	SUR BASS （サラウンドスピーカーの低域レベル）	SUR B. −10.0dB 〜 SUR B +10.0dB（0.5dB単位）	SUR B. 0dB
	SUR TREBLE （サラウンドスピーカーの高域レベル）	SUR T. −10.0dB 〜 SUR T +10.0dB（0.5dB単位）	SUR T. 0dB
	FH BASS （フロントハイスピーカーの低域レベル）	FH B. −10.0dB 〜 FH B +10.0dB（0.5dB単位）	FH B. 0dB
	FH TREBLE （フロントハイスピーカーの高域レベル）	FH T. −10.0dB 〜 FH T +10.0dB（0.5dB単位）	FH T. 0dB
マルチゾーン設定 <ZONE>	P.VOL MAIN （メインゾーンの音量プリセット）	OFF、−∞,−92.0dB to +23.0dB（0.5dB単位）	OFF
	P.VOL ZONE2 （2ndゾーンの音量プリセット）	OFF、−∞,−92dB to +18dB（1dB単位）	OFF
	Z2 LINEOUT （2ndゾーンのライン出力レベル切り換え）	FIXED、VARIABLE	VARIABLE
	12V TRIG. （12Vトリガ）	OFF、CTRL、ZONE、INPUT	OFF
音声設定 ＜AUDIO＞	D.L.L. （Digital Legato Linear）	D.L.L. AUTO2、D.L.L. AUTO1、D.L.L. OFF	D.L.L. AUTO1
	A/V SYNC （音声と映像出力の同期）	0ms 〜 300ms（10ms単位）	0ms
	DUAL MONO （二重音声モード）	MAIN/SUB、MAIN、SUB	MAIN
	DEC. PRIO. （デジタル音声入力デコードプライオリティ）	DEC. AUTO、DEC. PCM	DEC. AUTO
	NIGHT MODE （小音量サラウンド再生）	NIGHT ON、NIGHT OFF	NIGHT OFF
	A. ASSIGN （音声入力の割り当て）	この機能の参考として、「他の入力からの音声／映像を楽しむ （Input Assign）」（71ページ）をご覧ください。	
映像設定 ＜VIDEO＞	RESOLUTION （アナログ映像信号の変換）	DIRECT、AUTO、480/576i、480/576p、720p、1080i、1080p	AUTO
	V. ASSIGN （映像入力の割り当て）	この機能の参考として、「他の入力からの音声／映像を楽しむ （Input Assign）」（71ページ）をご覧ください。	

つづく

メニュー	項目	設定値	初期値
HDMI設定 <HDMI>	CTRL:HDMI （HDMI機器制御機能の設定）	CTRL ON、CTRL OFF	CTRL OFF
	PASS THRU （パススルー）	ON、OFF	OFF
	AUDIO OUT （HDMI音声出力の設定）	AMP、TV+AMP	AMP
	SOUND.FIELD （オートジャンルセレクター機能の設定）	AUTO、MANUAL	MANUAL
	SW LEVEL （HDMIのサブウーファーレベル）	SW AUTO、SW +10dB、SW 0dB	SW AUTO
	SW LPF （HDMIのサブウーファーローパスフィルター）	LPF ON、LPF OFF	LPF OFF
システム設定 <SYSTEM>	NAME IN （名前を付ける）	この機能の参考として、「入力に名前を付ける （Name Input)」（46ページ）をご覧ください。	
	RS232C （保守・サービスのための機能）	ON、OFF	OFF
	AUTO STBY （オートスタンバイ機能）	ON、OFF	ON
	VER ■.■■■ （ソフトウェアのバージョン）		
	UPDATE(PC) （パソコンからのアップデート操作）	PERMIT、DENY	DENY

＊　■■■ 部分には、スピーカーチャンネルが表示されます（FL、FR、CNT、SL、SR、SB、SBL、SBR、SW、LH、RH）。
＊＊スピーカーを「LARGE」に設定しているときは、この設定は選べません。

表示を切り換えるには

表示を切り換えて、サウンドフィールドなどの設定を確認できます。

1 情報を確認したい入力を選ぶ。

2 DISPLAYをくり返し押す。
DISPLAYを押すたびに、入力→サウンドフィールド→音量→入力の順に表示が切り換わります。

多機能リモコンで他機を操作する

付属の多機能リモコンを使って、他にお使いの機器を操作することができます。
初期設定では、ソニー製の機器が操作できるように設定されています。
お使いの機器に合わせて設定を変更すると、初期設定では操作できないソニー製機器や他社製の機器を操作することができます（100ページ）。

接続機器を操作できる本機のリモコンのボタン

ボタン ＼ 選ばれている機器	テレビ	ビデオデッキ	DVDレコーダー／プレーヤー	ブルーレイディスクレコーダー	HDDレコーダー	PSX	ビデオCDプレーヤー／LDプレーヤー	BSデジタル／デジタルCSチューナー	カセットデッキ（AとB）	DATデッキ	CDプレーヤー／MDデッキ	チューナー	デジタルメディアポート機器
AV I/⏻	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●		
数字ボタン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
TV INPUT	●												
GUIDE	●		●	●	●	●		●					
D.TUNING												●	
MEMORY												●	
-/--	●	●	●	●	●	●	●		●		●		
ENTER	●	●	●	●	●	●	●a)	●	●	●	●		
カラーボタン			●	●	●	●		●			●		
TOOLS/OPTIONS	●		●	●	●	●							
DISPLAY/d	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	
RETURN/EXIT	●		●	●	●	●	●	●					●
↑/↓/←/→、⊕、MENU、HOME	●	●	●	●	●	●		●					●
|◀◀/▶▶|	●	●	●	●	●	●	●		●b)	●	●		●
←·/·→	●		●	●	●	●							●
◀◀/TUNING –、▶▶/TUNING +	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●
DISK SKIP			●c)				●d)				●		
▶、II、■	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●		●
MUTING、MASTER VOL +/–、TV VOL +/–	●												
PRESET +/–、TV CH +/–	●	●	●	●	●		●a)	●				●	
BD/DVD TOP MENU、BD/DVD MENU			●	●		●							
F1、F2			●	●									

a) LD プレーヤーのみ操作できます。
b) デッキ B のみ操作できます。
c) DVD プレーヤーのみ操作できます。
d) ビデオ CD のみ操作できます。

ご注意
お使いの機器によっては、一部の機能が操作できないことがあります。

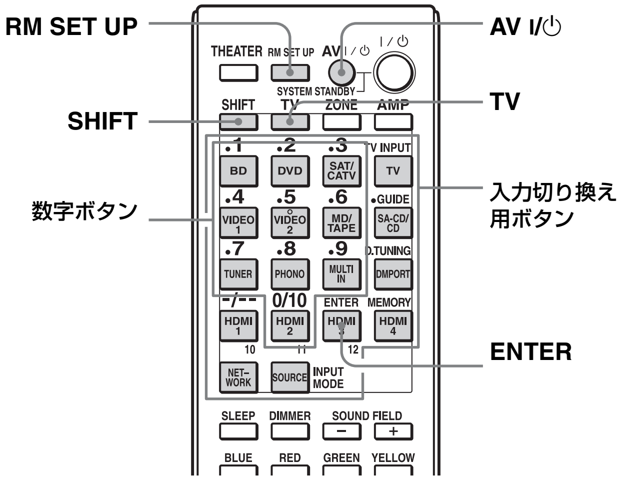
接続した機器を操作する

1 操作したい接続機器の入力切り換え用ボタンを押す。

2 下の表で●の付いたボタンを使って、それぞれの機器を操作する。

お使いの機器に合わせてリモコンコードを設定する

本機につないだ機器を操作できるように多機能リモコンを設定できます。また、初期設定のままでは操作できないソニー製の機器や他社製の機器も設定できます。
例：本体後面のVIDEO 1 IN端子につないだ他社製のビデオデッキを、このリモコンで操作できるように設定するとき



1 RM SET UPを押しながら、AV I/⏻を押す。

RM SET UPが点滅します。

2 RM SET UP が点滅している間に、入力切り換え用ボタン（TV ボタンを含む）を押して設定したい入力を選ぶ。

例えば、VIDEO 1 IN端子につないだビデオデッキを操作したいときは、VIDEO 1を選びます。
RM SET UPとSHIFTが点灯します。
TUNERやPHONO、DMPORT、NETWORK、SOURCEなどプログラムできない入力を選んだ場合は、RM SET UPが点滅を続けます。

3 数字ボタンを押して、機器とメーカー別の対応コードを入力する（コードが複数ある場合は、そのうちの 1 つ を入力する）。

入力切り換え用ボタンが点灯します。

4 ENTER を押す。

有効な対応コードが入力されると、RM SET UPが2回点滅し、設定モードが終了します。
入力切り換え用ボタンも消灯します。

設定操作を途中でやめるときは

手順の途中で、RM SET UPを押します。

機器・メーカー別の対応コード

以下の対応コードを使って他社製の機器や、初期設定のままでは操作できないソニー製機器を操作できるように設定します。それぞれの機器が受け付けるリモコン信号はモデルや年式によっても異なりますので、1つの機器に複数のコードが割り当てられている場合もあります。ある1つのコードを使っても設定できない場合は、別のコードを使って設定してみてください。

CDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	101、102、103
DENON	104、123
JVC	105、106、107
KENWOOD	108、109、110
MAGNAVOX	111、116
MARANTZ	116
ONKYO	112、113、114
PANASONIC	115
PHILIPS	116
PIONEER	117
TECHNICS	115、118、119
YAMAHA	120、121、122

DATデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	203
PIONEER	219

カセットデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	201、202
DENON	204、205
KENWOOD	206、207、208、209
NAKAMICHI	210

ご注意

- TV ボタンに登録できるのは、500 番台のコードのみです。
- 対応コードは、各メーカーの最新情報に基づいて決められています。ただし、機器によっては一部またはすべての対応コードに反応しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- お使いの機器によっては、どの入力切り換え用ボタンも機能しないことがあります。

メーカー	コード
PANASONIC	216
PHILIPS	211、212
PIONEER	213、214
TECHNICS	215、216
YAMAHA	217、218

MDデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	301
DENON	302
JVC	303
KENWOOD	304

HDDレコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	307、308、309

ブルーレイディスクレコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	310、311、312
LG	337
PANASONIC	331、332、333、335
PIONEER	334
SAMSUNG	336
SHARP	459、460、461

PSXの対応コード

メーカー	コード
SONY	313、314、315

DVDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403
BROKSONIC	424
DENON	405
HITACHI	416
JVC	415、423
MITSUBISHI	419
ORITRON	417
PANASONIC	406、408、425
PHILIPS	407
PIONEER	409、410
RCA	414
SAMSUNG	416、422
TOSHIBA	404、421
ZENITH	418、420

DVDレコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403
SHARP	459、460、461
HITACHI	441、442、443
JVC	444、445、446、447、459、460、461
MITSUBISHI	448、449
PANASONIC	450、451、452
PIONEER	453、454、455、456、457、458
TOSHIBA	462、463、464

テレビの対応コード

メーカー	コード
SONY	501、502
AIWA	501、536、539
AKAI	503
AOC	503
CENTURION	566
CORONADO	517
CURTIS-MATHES	503、551、566、567
DAYTRON	517、566
DAEWOO	504、505、506、507、515、544
FISHER	508、545
FUNAI	548
FUJITSU	528
GOLDSTAR/LG	503、512、515、517、534、544、556、568、576、578
GRUNDIG	511、533、534
HITACHI	503、513、514、515、517、519、544、557、571
ITT/NOKIA	521、522
J.C.PENNY	503、510、566
JVC	516、552
KMC	517
MAGNVOX	503、515、517、518、544、566
MARANTZ	527
MITSUBISHI/MGA	503、519、527、544、566、568
NEC	503、517、520、540、544、554、566
NORDMENDE	530、558
NOKIA	521、522、573、575
PANASONIC	509、524、553、559、572
PHILIPS	515、518、557、570、571
PHILCO	503、504、514、517、518
PIONEER	509、525、526、540、551、555、579
PORTLAND	503
QUASAR	509、535
RADIO SHACK	503、510、527、565、567
RCA/PROSCAN	503、510、523、529、544

つづく

メーカー	コード
SAMSUNG	503、515、517、531、532、534、544、556、557、562、563、566、569
SAMPO	566
SABA	530、537、547、549、558
SANYO	508、545、546、560、567
SCOTT	503、566
SEARS	503、508、510、517、518、551
SHARP	517、535、550、561、565、577、580、581
SYLVANIA	503、518、566
THOMSON	530、537、547、549
TOSHIBA	535、539、540、541、551
TELEFUNKEN	530、537、538、547、549、558
TEKNIKA	517、518、567
WARDS	503、517、566
YORK	566
ZENITH	542、543、567
GE	503、509、510、544
LOEWE	515、534、556

LDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	601、602、603
PIONEER	606

ビデオCDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	605

ビデオデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	701、702、703、704、705、706
AIWA*	710、750、757、758
AKAI	707、708、709、759
BLAUPUNKT	740
EMERSON	711、712、713、714、715、716、750
FISHER	717、718、719、720
GENERAL ELECTRIC（GE）	721、722、730
GOLDSTAR/LG	723、753
GRUNDIG	724
HITACHI	722、725、729、741
ITT/NOKIA	717
JVC	726、727、728、736
MAGNAVOX	730、731、738
MITSUBISHI/MGA	732、733、734、735
NEC	736
PANASONIC	729、730、737、738、739、740
PHILIPS	729、730、731
PIONEER	729
RCA/PROSCAN	722、729、730、731、741、747
SAMSUNG	742、743、744、745
SANYO	717、720、746
SHARP	748、749
TELEFUNKEN	751、752
TOSHIBA	747、756
ZENITH	754

＊アイワのコードを設定してもアイワ製のビデオデッキを操作できない場合は、ソニーのコードを入力してください。

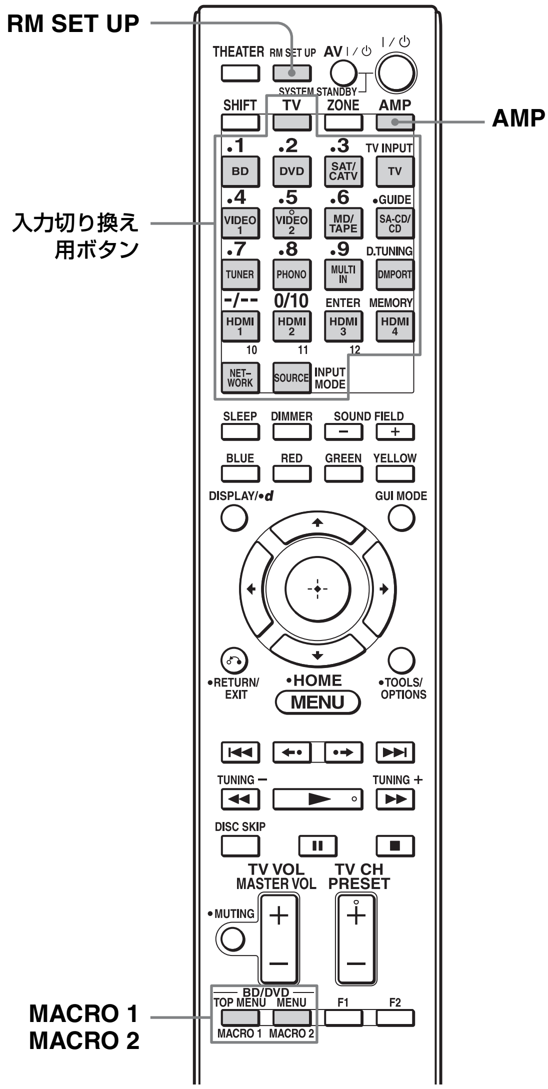
BSデジタルチューナー／デジタルCSチューナーの対応コード

メーカー	コード
SONY	801、802、803、804、824、825、865
AMSTRAD	845、846
BskyB	862
GENERAL ELECTRIC（GE）	866
GRUNDING	859、860
HUMAX	846、847
THOMSON	857、861、864、876
PACE	848、849、850、852、862、863、864
PANASONIC	818、855
PHILIPS	856、857、858、859、860、864、874
NOKIA	851、853、854、864
RCA/PROSCAN	866、871
HITACHI/BITA	868
HUGHES	867
JVC/Echostar/ Dish Network	873
MITSUBISHI	872
SAMSUNG	875
TOSHIBA	869、870

いくつかの操作を続けて実行させる

（マクロ操作）

マクロ操作を使って、いくつかのリモコンコマンドを1つにまとめて連続送信できます。
マクロ操作は、2つ登録することができます（MACRO 1、2）。1つのマクロ操作には、20個までリモコンコマンドを登録することができます。



操作の実行順を登録する

1 RM SET UP を押しながら、MACRO 1 または MACRO 2 を 1 秒以上押す。

RM SET UPが点滅し、入力切り換え用ボタンの1つが点灯します。
（初期設定ではBDが点灯します。）

2 入力切り換え用ボタンを押して、連続した操作を割り当てたい機器を選ぶ。

3 実行させたい操作のボタンを順番に押して、連続した操作を登録する。

以下のボタンでは特定の操作を登録することができます。

押すボタン	登録される操作
入力切り換え用ボタンを1秒以上押す	入力を切り換えます。
MACRO 1または MACRO 2	1秒の待機時間を設定します。より長い待機時間を設定するには、MACRO 1またはMACRO 2をくり返し押します。

手順2で選んだ入力のボタンが2回点滅し、再び点灯します。

4 他の入力に連続した操作を割り当てたいときは、手順 2 と 3 をくり返す。

5 RM SET UP を押して、登録を終了する。

マクロ操作の登録を途中でやめるには

手順の途中で60秒間何もボタンを押さないと、設定がキャンセルされます。前回登録した設定がそのまま有効です。

ご注意
マクロ操作を登録するときは、リモコンの電池を新しいものに交換してください。

ちょっと一言
手順 1 で RM SET UP が 5 回点滅して設定モードに入れない場合は、リモコンの電池を新しいものに交換してください。

マクロ操作を実行する

1 AMP を押す。

AMPが点灯し、消灯します。

2 MACRO 1またはMACRO 2を押してマクロ操作を実行する。

マクロ操作が開始され、登録した順にコマンドが実行されます。
コマンドが送信されている間は、AMPが点滅し、RM SET UPが点灯します。送信が終了すると、RM SET UPとAMPは消灯します。

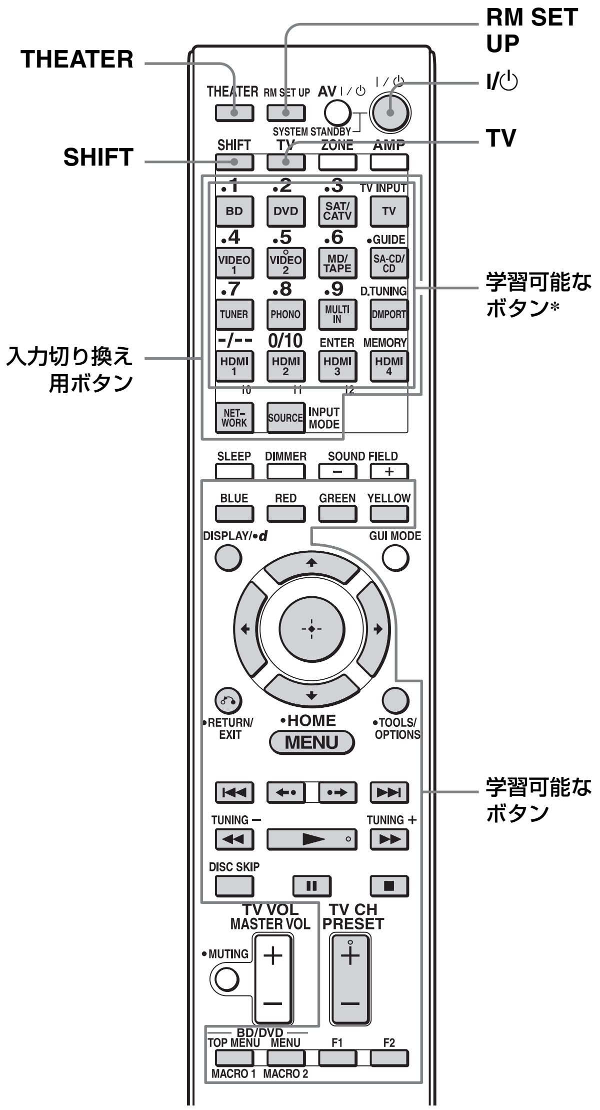
登録したマクロ操作を消すには

1 RM SET UP を押しながら、MACRO 1 または MACRO 2 を 1 秒以上押す。
RM SET UP がくり返し点滅します。

2 RM SET UPを押す。
登録したマクロ操作が消去されます。

本機のリモコンにないリモコンコードを学習させる

学習機能を使って、付属のリモコンに初期設定では登録されていないコードを学習させることができます。



＊これらのボタンに新しいコマンドを登録するには、先にSHIFT を押してから選びます。

1 RM SET UP を押しながら、THEATER を押す。

RM SET UPが点灯します。

ご注意
学習機能を設定するときは、リモコンの電池を新しいものに交換してください。

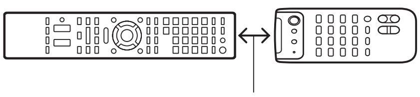
2 **入力切り換え用ボタン（TV ボタンを含む）を押して、新しいコマンドで操作したい機器を選ぶ。**

選んだ入力のボタンが点滅します。
（RM SET UPは点灯したままです。）
PHONO、DMPORT、NETWORK、SOURCEなど学習できない入力を選んだ場合は、その入力のボタンは点灯しません。（RM SET UPは点灯したままです。）

3 **新しいコマンドを割り当てたいボタンを押す。イラストで示した＊印の付いたボタンの場合は、SHIFT を押してから押す。**

手順2で選んだ入力のボタンが点灯します。
（RM SET UPは点灯したままです。）
コマンド登録に失敗すると、RM SET UPが5回点滅します。

4 **本機のリモコンコード受光部と、学習させたい機器のリモコンの送信部とを向かい合わせる。**



約5cm～10cm

5 **学習させたい機器のリモコンのボタンを押して、リモコンコードを送信する。**

本機のリモコンがコードを受信すると、手順2で選んだ入力ボタンが消灯します。
RM SET UPが2回点滅して、学習が完了します。
学習に失敗したときは、RM SET UPが5回点滅します。
手順2からもう一度行ってください。

6 **RM SET UP を押して、学習機能を終了する。**

学習を途中でやめるには

手順の途中でRM SET UPを押すか、60秒間何もボタンを押さないと、設定がキャンセルされます。

学習させたリモコンコードを使う

入力切り換え用ボタン（TV ボタンを含む）を押して、操作したい機器を選び、学習させたボタンを押す。

学習したリモコンコードを消すには

1 RM SET UP を押しながら、THEATER を押す。

2 入力切り換え用ボタンを押して、設定を消去したい入力を選ぶ。
選んだ入力のボタンが点滅します。
（RM SET UPは点灯したままです。）

3 I/⏻を1秒以上押す。
選んだ入力のボタンが2回の点滅をくり返します。

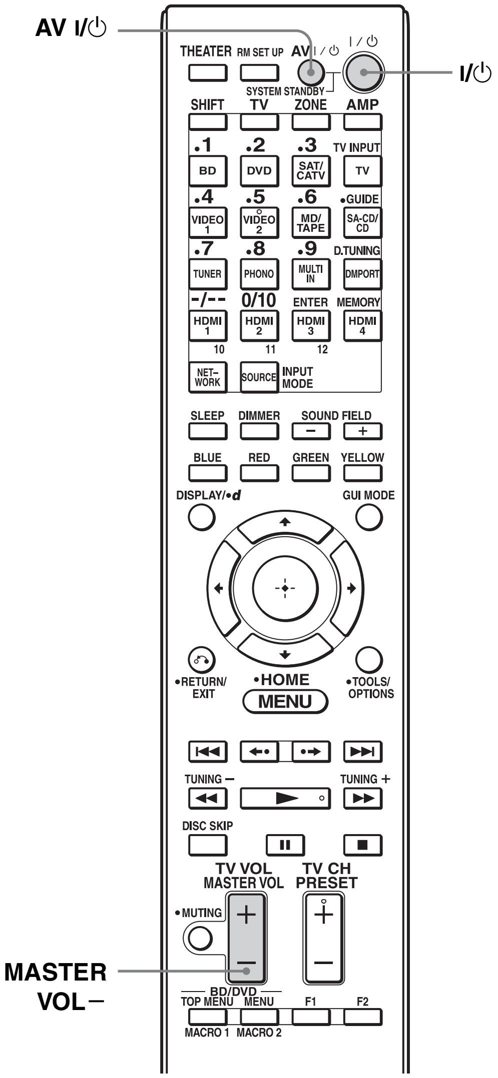
4 学習させたボタンを押し、登録した設定を消去する。
RM SET UPが2回点滅して、消去が完了します。
消去に失敗したときは、RM SET UPが5回点滅します。
手順2からもう一度行ってください。

5 RM SET UPを押して、消去を終了する。

ちょっと一言

- 容量が一杯になったときは、RM SET UP が 10 回点滅したあとに学習モードから抜けます。
- 手順 1 で RM SET UP が 5 回点滅して設定モードに入れない場合は、リモコンの電池を新しいものと交換してください。
- 手順 3 でコマンド登録に失敗する場合は、すでにコマンドが登録されているボタンに登録しようとしていないか確認してください。すでにコマンドが登録されているボタンに新しいコマンドを登録する場合は、あらかじめ登録済みのコマンドを消去してください。

リモコンをお買い上げ時の設定に戻す



1 MASTER VOL －を押したまま I/⏻ を押し、そのままさらに AV I/⏻ を押す。

RM SET UPが3回点滅します。

2 すべてのボタンを離す。

リモコンのすべての設定（登録したデータなど）が消去されます。

使用上のご注意

設置場所について

電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。（テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。
特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。
また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。
それでも正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）へお問い合わせください。

全般

症状	原因と対応のしかた
本機の電源が自動的に切れる	→ 「Auto Standby」が「ON」に設定されている（92ページ）。 → スリープタイマー機能が働いている（73ページ）。
GUIメニューの「Settings」がテレビ画面に表示されない	→ 「Settings Lock」が 「ON」に設定されている（92ページ）。

音声

症状	原因と対応のしかた
どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない	→ スピーカーコードが正しく接続されているか確認する。 → スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。 → MASTER VOLUMEのレベルが–∞dBになっていないか確認する。目安として、–40dBくらいの音量に調節してみてください。 → 本機前面のSPEAKERS（A/B/A+B/OFF）が「OFF」になっていないか確認する（35ページ）。 → リモコンのMUTINGを押して、消音機能を解除する。 → 入力切り換え用ボタンで正しい入力が選ばれているか確認する。 → ヘッドホンがつながれていないか確認する。 → 「Night Mode」が働いていないか確認する（73ページ）。 → 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう一度電源を入れる。
選んだ機器から音が出ない	→ 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。 → 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。 → INPUT MODEを「AUTO」に設定する（70ページ）。
片方のフロントスピーカーから音が出ない	→ ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しくつながっていません。正しくつながっているか確認してください。両方のチャンネルが聞こえる場合は、フロントスピーカーが正しくつながっていません。正しくつながっているか確認してください。 → モノラル機器をつないでいるときは、L/Rの片方の端子のみにつないでいないか確認する。この場合は、モノラルーステレオ変換ケーブル（別売）を使ってL/R両方の端子につないでください。ただし、選んだサウンドフィールドによっては、センタースピーカーからは音が出ません。センタースピーカーをつないでいないときは、フロントスピーカー L/Rからのみ音が出ます。
アナログ2チャンネル入力の音が出ない	→ 選んだ（デジタル）音声入力を、Inputメニューの「Input Assign」を使って他の入力に割り当てていないか確認する（71ページ）。
デジタル入力（COAXIAL、OPTICAL）の音が出ない	→ INPUT MODEの設定を確認する（70ページ）。 → 「2ch Analog Direct」を使っていないか確認する。 → 選んだ（デジタル）音声入力を、Inputメニューの「Input Assign」を使って他の入力に割り当てていないか確認する（71ページ）。

症状	原因と対応のしかた
HDMIに入力しているソースの音が本機または本機につないだテレビから出ない	➔ HDMI接続を確認してください。 ➔ HDMI Licensing LLCで認証されたHDMIロゴ付きのケーブルでつないでいるか確認してください。 ➔ 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書も参照してください。 ➔ 解像度が1080pの映像やDeep Colorまたは3Dの映像を視聴するときは、HIGH SPEED対応HDMI端子用の接続ケーブル（High Speed HDMIケーブル）でつないでいるか確認してください。
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ 自動音場補正機能を再度実行する。 ➔ スピーカーの音量を調整する。
ハム音またはノイズがひどい	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。 ➔ テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。 ➔ ⏚ SIGNAL GNDが正しくつながっているか確認する（レコードプレーヤーをつないでいる場合のみ）。 ➔ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。
センター／サラウンド／サラウンドバックスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない	➔ Auto CalibrationメニューまたはSpeakerメニューの「Speaker Pattern」を使ってスピーカーの設定が適切か確認する。その後、Speakerメニューの「Test Tone」を使って各スピーカーから正しく音が出力されているか確認する。 ➔ HD-D.C.S.モードを選ぶ（52ページ）。 ➔ スピーカーの音量を調節する。 ➔ センタースピーカーが「Small」または「Large」に正しく設定されているか確認する（81ページ）。
サラウンドバックスピーカーの音が出ない	➔ パッケージにドルビーデジタルサラウンドEXのロゴが記載されていても、ドルビーデジタルサラウンドEXのフラグが書かれていないディスクがあります。
アクティブサブウーファーの音が出ない	➔ アクティブサブウーファーが正しく接続されているか確認する。 ➔ スピーカーの電源が入っているか確認する。 ➔ すべてのスピーカーが「Large」に設定されているとき、「Neo:6 Cinema」または「Neo:6 Music」が選ばれているとアクティブサブウーファーからは音が出ません。
サラウンド効果が得られない	➔ サウンドフィールドが働いているか確認する（MOVIE/HD-D.C.S.またはMUSICを押す）。 ➔ サンプリング周波数が88.2 kHz以上のDolby TrueHD信号、DTS-HD信号、またはリニアPCM信号を受信している場合は、サウンドフィールドは機能しません。 ➔ 「PLII（Music/Movie）」、「PLIIx（Music/Movie）」、「PLIIz Height」および「Neo:6（Music/Cinema）」は、スピーカーパターンが2/0または2/0.1に設定されている場合は機能しません。
ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない	➔ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTS形式で録音されているか確認する。 ➔ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子につないでいるときは、つないだ機器の音声の出力設定を確認する。
録音ができない	➔ 各機器が正しくつながっているか確認する（27ページ）。 ➔ 入力切り換え用ボタンで録音したい機器を選ぶ（46ページ）。
MULTI CHANNEL DECODINGランプが青色に点灯しない	➔ 再生機器をデジタル接続し、本機側でその入力を選んでいるか確認する。 ➔ 再生しているソフトなどの入力ソースがマルチチャンネルに対応しているか確認する。 ➔ 再生機器側の設定がマルチチャンネル音声に設定されているか確認する。 ➔ 選んだ（デジタル）音声入力を、Inputメニューの「Input Assign」を使って他の入力に割り当てていないか確認する（71ページ）。
デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器から音が出ない	➔ 本機の音量を確認してください。 ➔ デジタルメディアポートアダプターとプレーヤーが正しく接続されていません。本機の電源を切り、デジタルメディアポートアダプターとプレーヤーをつなぎなおしてください。 ➔ 本機がデジタルメディアポートアダプターとプレーヤーのデバイスに対応しているか確認してください。

つづく

映像

症状	原因と対応のしかた
テレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない	➔ 適切な入力を選ぶ（46ページ）。 ➔ テレビの入力モードを確認する。 ➔ テレビをオーディオ機器から離す。 ➔ 映像入力の割り当てを正しく設定する。 ➔ 入力信号を本機でアップコンバートしている場合、入力と同じ信号にする（25ページ）。
COMPONENT VIDEO OUTに出力している映像が乱れる	➔ テレビがCOMPONENT VIDEO OUT端子から出力される信号の解像度に対応していない可能性があります。このような場合は、本機で適切な解像度を選んでください。
HDMIに入力しているソースの映像が本機につないだテレビから出ない、乱れる、または途切れる	➔ ケーブルの接続を確認してください。 ➔ 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書も参照してください。 ➔ 解像度が1080pの映像やDeep Colorまたは3Dの映像を視聴するときは、HIGH SPEED対応HDMI端子用の接続ケーブル（High Speed HDMIケーブル）でつないでいるか確認してください。
テレビ画面に3D映像が表示されない	➔ テレビや映像機器によっては、3D映像は表示されません。システムが対応している3D映像フォーマットを確認してください。
録画ができない	➔ 各機器が正しくつながっているか確認する（19ページ）。 ➔ 入力切り換え用ボタンで録画したい機器を選ぶ（46ページ）。
GUIが表示されない	➔「GUI MODE」がオフになっている。GUI MODEを押して、「GUI MODE」をオンにしてください。 ➔ テレビと正しく接続されているか確認する。

HDMI機器制御

症状	原因と対応のしかた
HDMI機器制御機能が働かない	➔ HDMI接続を確認する（19ページ）。 ➔ HDMIメニューで「Control for HDMI」が「ON」に設定されていることを確認する。 ➔ 接続機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認する。 ➔ 接続機器のHDMI機器制御設定を確認する。お使いの機器に付属の取扱説明書を参照してください。 ➔ HDMI接続を変更したり、電源コードの抜き差しをしたり、電源に不具合があるときは、「“ブラビアリンク”機能を使う」（67ページ）の手順をくり返す。 ➔「Control for HDMI」が「OFF」に設定されていると、機器をHDMI IN端子につないでいても“ブラビアリンク”機能が正しく働きません。 ➔ “ブラビアリンク”機能で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。 – 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）：3台まで – 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど）：3台まで – チューナー関連機器：4台まで – AVレシーバー（オーディオシステム）：1台まで

症状	原因と対応のしかた
システムオーディオコントロール機能を使っているときに本機とテレビの両方から音が出ない	➔ テレビがシステムオーディオコントロール機能に対応していることを確認する。 ➔ テレビにシステムオーディオコントロール機能がないときは、HDMIメニューの「Audio Out」を下記のように設定する。 – テレビと本機につないだスピーカーから音を聞くときは、「TV+AMP」に設定する。 – 本機につないだスピーカーからのみ音を聞くときは、「AMP」に設定する。 ➔ 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出力されない場合があります。この場合は、「Audio Out」を「AMP」に設定してください。 ➔ 本機につないだ機器の音声が聞こえない場合 – 本機にHDMI接続した機器を視聴するときは、本機の入力をHDMIに切り換える。 – テレビ放送を視聴するときは、テレビのチャンネルを切り換える。 – テレビにつないだ他の機器を視聴したい場合は、テレビを操作して、視聴したい機器または入力を選ぶ。テレビの操作について詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。 ➔ HDMI機器制御機能で、テレビのリモコンを使って接続機器を操作できない場合 – テレビや接続機器によっては、HDMI機器制御の設定が必要な場合があります。お使いの機器に付属の取扱説明書を参照してください。 – 本機の入力をHDMI接続しているものに変えてください。 ➔ 番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが切り換わらない場合 – つないだテレビがオートジャンルセレクターに対応しているか確認する。 – いったん本機の電源を切ってから、もう一度電源を入れる。

リモコン

症状	原因と対応のしかた
リモコンで操作できない	➔ 本体のリモコン受光部に向けて操作する。 ➔ リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。 ➔ リモコンの乾電池を新しいものに交換する。 ➔ 本体とリモコンのコマンドモードが一致しているか確認する（75ページ）。本体とリモコンのコマンドモードが違うと操作できません。 ➔ リモコンで正しい入力を選んだか確認する。 ➔ 他社製の機器を操作できるようにリモコンを設定したときは、その機器のメーカーや年式によっては正しく操作できない場合があります。

ネットワーク

症状	原因と対応のしかた
サーバーが見つからない	➔ Server Search機能でサーバーを検索する（55ページ）。 ➔ 下記を確認する。 – ルーターの電源が入っているか – 本機とルーターの間に別の機器がつながっている場合、その機器の電源が入っているか – すべてのケーブルが正しく確実につながっているか – ルーターの設定（DHCPまたは固定IPアドレス）に合わせて設定されているか ➔ パソコンを使っているとき、下記を確認する。 – パソコンのオペレーティングシステムに組み込まれているファイアーウォールの設定 – セキュリティーソフトのファイアーウォールの設定 お使いのセキュリティーソフトのファイアーウォール設定については、セキュリティーソフトのヘルプを参照してください。 ➔ 本機をサーバーに登録する。詳しくは、サーバーの取扱説明書を参照してください。 ➔ しばらく待ってから、もう一度サーバーへの接続を試す。

つづく

症状	原因と対応のしかた
サーバー上にあるはずのコンテンツが見つからない、再生できない	➔「♫Music」画面および「📷Photo」画面では、DLNAガイドラインに準拠してサーバーが提示するコンテンツのうち、本機が再生できる可能性があるコンテンツのみを表示しています。 ➔ 先頭に［*］の付いていないコンテンツは、サーバーがDLNAガイドライン規定のコンテンツとして提示していて、本機が再生できるコンテンツです。 ➔ 先頭に［*］の付いているコンテンツは、サーバーが非DLNAガイドライン規定のコンテンツとして提示していても、本機が再生できる可能性のあるコンテンツです。 ➔ サーバーによってはDLNAガイドライン規定のコンテンツとして提示しないため、本機が再生できるコンテンツであっても、メニューに表示されないことがあります。また、まれにサーバーがDLNAガイドライン規定のコンテンツとして提示していても、本機が再生できない場合があります。 ➔ サーバーによってコンテンツの提示の方法が異なりますので、コンテンツが表示されない場合や再生に失敗する場合があります。その場合は、サーバーソフトウェアとして付属のVAIO Media plusをお試しください。
Setup Managerで本機に接続できない	➔ パソコンでアンチウイルスソフトウェアやファイアウォールソフトウェア、ネットワークパケットフィルタドライバーが動作していませんか？ それらのソフトウェアを一時的にオフにするか、本機からのTCPおよびUDPの着信パケットをすべて許可してください。ただし、ソフトウェアを一時的にオフにする場合は、パソコンのセキュリティーに充分注意してください。
ネットワークコントローラーから本機にアクセスできない。	➔「External Control」が「ON」に設定されていることを確認する。 ➔ Controllers設定画面にネットワークコントローラーが一覧表示され、「Permit」がチェックされていますか？ チェックされていない場合は、「自動アクセス許可」にチェックしてからメニューに戻り、一度ネットワークコントローラーから本機を操作したあと、「自動アクセス許可」のチェックをはずしてください。 ➔ ネットワークコントローラーとしてパソコンのソフトウェアをお使いの場合、アンチウイルスソフトウェアやファイアウォールソフトウェアにブロックされていませんか？ 本機とソフトウェア間のUPnPの通信を許可してください。

上記以外の症状で、しばらく待っても症状が改善しない場合は、以下の操作を行ってください。

- リモコンのI/⏻を押して、本機の電源を切ってから、もう一度電源を入れる。
- 本体のI/⏻をボタンの上の緑色のランプが点滅するまで押し続けて、本機を再起動する。

エラーメッセージ

本機が正しく動作していないとき、表示窓にメッセージとチェックコードが表示されます。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。以下をご覧になり、表示に合った対応をしてください。2、3度くり返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

メッセージ	原因と対応のしかた
PROTECTOR	スピーカー出力に異常な電流が流れています。または天板の上がふさがれています。2、3秒後に本機の電源が自動的に切れます。スピーカーの接続を確認するか、天板をふさいでいるものを取り除き、もう一度電源を入れてください。

その他のメッセージについては、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」（40ページ）、「デジタルメディアポートメッセージ一覧」（48ページ）をご覧ください。

本機の設定をリセットする

参照ページ

リセットするもの	参照ページ
すべての設定	32ページ
多機能リモコン	106ページ

簡単リモコンをお買い上げ時の設定に戻すには

リモコンから電池を抜いて、数分間放置してください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：TA-DA3600ES
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード：
（8 Ω、JEITA）
150 W ＋ 150 W
（4 Ω、JEITA）
150 W ＋ 150 W
サラウンドモード：
（8 Ω、JEITA）
フロント部：150 W ＋ 150 W
センター部：150 W
サラウンド部：150 W ＋ 150 W
サラウンドバック部：150 W ＋ 150 W
（4 Ω、JEITA）
フロント部：150 W ＋ 150 W
センター部：150 W
サラウンド部：150 W ＋ 150 W
サラウンドバック部：150 W ＋ 150 W

スピーカー適合インピーダンス

フロント、サラウンド、センター、サラウンドバック部：
4 Ωまたはそれ以上

高調波ひずみ率

0.09 %以下
20 Hz～20 kHz
（8 Ω負荷）
100 W＋100 W

周波数特性

10 Hz～100 kHz ±3 dB（8 Ω時）

入力（アナログ）

MULTI CHANNEL INPUT、SA-CD/CD、DVD、BD、TV、SAT/CATV、MD/TAPE、VIDEO 1、2、TUNER：
入力感度：150 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：96 dB
（Input short、20 kHz LPF、Aネットワーク）
PHONO：
入力感度：2.5 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：86 dB
（Input short、20 kHz LPF、Aネットワーク）

つづく

入力（デジタル）

BD、DVD、
SA-CD/CD（Coaxial）：
入力インピーダンス：75 Ω
S/N比：96 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）
VIDEO 1、2、TV、
MD/TAPE（OPTICAL）：
S/N比：96 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）

出力

MD/TAPE（REC OUT）、
VIDEO 1（AUDIO OUT）、
ZONE 2、ZONE 3（AUDIO OUT）：
出力電圧：150 mV
出力インピーダンス：1 kΩ
FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、
SURROUND BACK L/R、
FRONT HIGH L/R、SUBWOOFER：
出力電圧：2 V
出力インピーダンス：1 kΩ

ビデオ部

入力／出力

VIDEO：1 Vp-p 75Ω
COMPONENT VIDEO：ルミナンス（Y）
入力感度／出力電圧：1 Vp-p
入力／出力インピーダンス：75 Ω
P_B、P_R
入力感度／出力電圧：0.7 Vp-p
入力／出力インピーダンス：75 Ω

HDMI部

入力／出力（HDMI Repeater block）

640×480p@60 Hz
720×480p@59.94/60 Hz
1280×720p@59.94/60 Hz
1920×1080i@59.94/60 Hz
1920×1080p@59.94/60 Hz
720×576p@50 Hz
1280×720p@50 Hz
1920×1080i@50 Hz
1920×1080p@50 Hz
1920×1080p@24 Hz

HDMI部（3D）

入力／出力（HDMI Repeater block）

1280×720p@59.94/60 Hz
Frame packing
1280×720p@59.94/60 Hz
Over-Under (Top-and-Bottom)
1920×1080i@59.94/60 Hz
Frame packing
1920×1080i@59.94/60 Hz
Side-by-Side (Half)
1920×1080p@59.94/60 Hz
Side-by-Side (Half)
1280×720p@50 Hz Frame packing
1280×720p@50 Hz
Over-Under (Top-and-Bottom)
1920×1080i@50 Hz Frame packing
1920×1080i@50 Hz Side-by-Side (Half)
1920×1080p@50 Hz Side-by-Side (Half)
1920×1080p@24 Hz Frame packing
1920×1080p@24 Hz
Over-Under (Top-and-Bottom)

再生対応フォーマット

ホームネットワーク上の機器から配信されるコンテンツを本機で再生するには、コンテンツが以下のフォーマットに対応している必要があります。

コンテンツの種類	フォーマット	その他の条件
音楽	リニアPCM	DLNAガイドライン1.0定義のLPCM サンプリングレート：44.1、48 kHz チャンネル数：1、2 量子化ビット数：16 bit
	MPEG-1 Layer3（MP3）	DLNAガイドライン1.0定義のMPEG ビットレート：32、40、48、56、64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 kbps サンプリングレート：32、44.1、48 kHz チャンネル数：1、2 エンコード：CBR、VBR
	Windows Media Audio（WMA）	DLNAガイドライン1.0定義のWMA_FULLおよびWMA_BASE 最大ビットレート：385 kbps サンプリングレート：48 kHzまで チャンネル数：2 WMA Proファイル非対応
	AAC	DLNAガイドライン1.0定義のAAC Profile @ Level 1、@ Level 2 サンプリングレート：8、11.025、12、16、22.05、32、44.1、48 kHz 最大ビットレート：576 kbps チャンネル数：1、2 ファイルによって再生できない場合があります。
	WAV	リニアPCMに準じる。 ファイルによって再生できない場合があります。

コンテンツの種類	フォーマット	その他の条件
写真	JPEG	DLNAガイドライン1.0定義のJPEG_SM、JPEG_MED、またはJPEG_LRG 最大ピクセル数：4096 × 4096 非プログレッシブJPEG
	BMP	JPEGに準じる。 ファイルによって再生できない場合があります。
	PNG	JPEGに準じる。 ファイルによって再生できない場合があります。

電源、その他

電源　AC100 V、50/60 Hz

消費電力　250 W

消費電力（スタンバイ状態時）
0.5 W（「Control for HDMI」、「Network Standby」、「RS232C Control」を「OFF」に設定、および2nd／3rdゾーンの電源切時）

最大外形寸法
430 × 160× 390 mm
（幅／高さ／奥行き、最大突起部を含む）

質量　約 13.7 kg

付属品　キャリブレーションマイクロフォン：ECM-AC2（1）
電源コード（1）
リモートコマンダー：RM-AAL037（1）
リモートコマンダー：RM-AAU039（1）
単3形マンガン乾電池（4）
スピーカーコード取付補助具（1）
Setup Manager CD-ROM（1）
VAIO Media plus CD-ROM（1）
取扱説明書（本書）（1）
接続・設定ガイド（1）
GUIメニューリスト（1）
ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内（1）
保証書（1）
安全のために（1）

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

eco 省エネルギー
- オートオフ機能搭載
- 待機時消費電力44%削減（2009年度当社従来モデル比）

ご注意
- DRM で保護されたファイルには非対応です。
- ファイルによっては、上記の条件を満たしていても再生できないことがあります。
- DLNA ガイドラインで規定されているフォーマットについては、DLNA ガイドラインで定められたフォーマット情報をサーバーが正しく付加して公開している必要があります。

本製品に含まれるソニー製ソフトウェアの使用許諾契約書

本製品をご使用になる前に以下の契約内容をよくお読みください。
お客様による本製品の使用開始をもって、当該契約内容にご同意いただいたものとさせていただきます。

重要なお知らせ：この使用許諾契約書（以下、「本契約」といいます）は、お客様と本件ソニーハードウェア製品（以下、「本製品」といいます）の製造者であるソニー株式会社（以下、「ソニー」といいます）との間の法的拘束力のある契約です。本製品に含まれる、若しくは、アップデート・アップグレード版として提供或いはウェブサイトからダウンロードされる、すべてのソフトウェア及び第三者ソフトウェア（ソニーがお客様にその旨を通知する、別途独自のソフトウェア使用許諾契約を要するものを除きます）を以下、「許諾ソフトウェア」とします。本契約は、許諾ソフトウェアにのみ適用されるものです。許諾ソフトウェアには、本製品に含まれるソフトウェア、関連媒体、書類並びにオンライン文書及び電子文書（ソニーが提供するこれらの正式なアップデート・アップグレード版を含みます）が含まれます。お客様は、許諾ソフトウェアを本製品の使用に関してのみ使用することができるものとします。お客様の本製品の使用開始をもって、本使用許諾にかかる諸条件に従うに同意したものとさせていただきます。本使用許諾の諸条件にご同意いただけない場合、お客様は、本製品の購入代金返金のため、許諾ソフトウェアを本製品と共にご返送いただく際の手続をソニーに速やかにお問い合わせいただくものとします。

ソフトウェア使用許諾

許諾ソフトウェアは、著作権法並びに著作権に関する国際条約その他知的財産権に関する法律及び条約によって保護されています。許諾ソフトウェアは、使用権を許諾されるものであり、お客様に譲渡されるものではありません。

使用権の許諾

本契約は、以下に定める非独占的、譲渡不能（別途本契約で許諾されている場合を除きます）、且つ限定的な権利をお客様に許諾するものです。

- 許諾ソフトウェア：お客様は、本製品上においてのみ、許諾ソフトウェアを使用できます。
- 私的使用：お客様は、許諾ソフトウェアを私的目的でのみ使用できます。
- 保管/ネットワーク使用：お客様は、許諾ソフトウェアと共に頒布される文書で特に定める場合を除き、許諾ソフトウェアをネットワークを通じて使用したり、許諾ソフトウェアを頒布してはなりません。
- バックアップコピー：お客様はリカバリー目的でのみ許諾ソフトウェアのバックアップコピーを一部作成することができます。

制限事項

リバースエンジニアリング、逆コンパイル及び逆アセンブルの制限：お客様は、許諾ソフトウェアの全部又は一部を改変、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルその他の許諾ソフトウェアのソースコードを生成させる行為をしてはなりません。

許諾ソフトウェアの一部の分離：許諾ソフトウェアは、単一製品として使用許諾されるものです。ソニーより明示的に許諾されない限り、お客様は、許諾ソフトウェアの一部を分離してはなりません。

データファイル：許諾ソフトウェアは、その使用時に自動的にデータファイルを生成することがあります。かかるデータファイルは、許諾ソフトウェアの一部とみなされます。

単一製品：許諾ソフトウェアは本製品と一体の単一製品として、本製品と共に使用許諾されるものです。お客様は、許諾ソフトウェアを、許諾ソフトウェアと共に提供される文書で特に定める場合を除き、本製品と共に使用しなければなりません。

貸与：お客様は、許諾ソフトウェアを貸与又は賃貸してはなりません。

許諾ソフトウェアの譲渡：お客様は、本製品の販売或いは移転に伴う場合にのみ、本契約に基づくお客様の権利の全てを永久に譲渡することができます。但し、この場合、お客様に許諾ソフトウェアの全て（全ての複製物、構成物、記録書体及び文書類、許諾ソフトウェアの全バージョン及びアップグレード版並びに本契約を含む）を譲渡するものとし、一写の複製物を手元に残してはならないものとします。

解約：お客様が本契約の諸条件に違反した場合、ソニーは、その他のいかなる権利も失うことなく、本契約を解約することができます。かかる場合、お客様は、許諾ソフトウェアの複製物及びその構成物の複製物の一切を消去するものとします。

秘密保持：お客様は、許諾ソフトウェアに含まれる公知でない情報を秘密に保持し、ソニーの事前の書面による承諾のない限り、第三者に開示してはなりません。

付随ソフトウェア：許諾ソフトウェアの動作に必要な、許諾ソフトウェア以外のソフトウェア、ネットワークサービスその他の製品は、提供者（ソフトウェアサプライヤー、サービスプロバイダー、或いはソニー）の判断で、提供中止されることがあります。ソニー及びかかる提供者は、当該ソフトウェア、ネットワークサービスその他の製品が、中断或いは変更されることなく継続して利用できる事、或いは動作する事を保証するものではありません。

著作権

許諾ソフトウェア（許諾ソフトウェアに含まれる、画像、写真、動画、映像、音声、音楽、文字及びアプレットを含むがこれに限られません。）及びその複製物に関する著作権等の一切の権利は、ソニー又は原権利者に帰属するものとします。本契約の下で特に許諾されていない権利は、ソニーに留保されるものとします。

許諾ソフトウェアの著作権法上保護されるコンテンツとの使用

お客様は、許諾ソフトウェアを、お客様及び第三者が製作したコンテンツを保存、加工、使用するために使用することができます。かかるコンテンツは著作権法その他の知的財産権に関する法律及び/又は契約によって保護されている場合があります。お客様は、許諾ソフトウェアをかかるコンテンツに適用される法律や契約を遵守の上で使用するものとします。お客様は、ソニーが、許諾ソフトウェアの使用により保存、加工、使用されるコンテンツの著作権を保護するために適切な手段を講じることができることに合意するものとします。かかる手段には、お客様による特定の許諾ソフトウェアの機能を用いたバックアップ及び復旧の頻度を数えること、特定の許諾ソフトウェアの機能を通じたお客様のデータ復旧要求を拒否すること、並びに、お客様が許諾ソフトウェアを違法に使用する場合、本契約を解約することを含みますがこれに限られません。

ハイリスク行為

許諾ソフトウェアは耐障害性を有するものではなく、安全装置機能を必要とする危険な環境（核施設の運営、航空機の操縦、情報通信システム、航空管制、直接生命を維持する装置、又は武器などの許諾ソフトウェアの欠陥が死亡、怪我、重大な物理的若しくは環境的損害につながり得るもの（以下、「ハイリスク行為」といいます））においてオンライン制御が可能な装置として、設計、製造又は使用若しくは再販する事を想定したものではありません。ソニー及び原権利者は、許諾ソフトウェアがかかるハイリスク行為に適合するものであることを、明示、黙示を問わず保証するものではありません。

CD-ROM媒体についての限定的保証

許諾ソフトウェアのバックアップコピーがCD-ROM媒体で提供される場合、ソニーは、お客様への納入日から90日間、かかるバックアップコピーが記録されているCD-ROM媒体が、通常使用の下で、物理的及び工程上の瑕疵がないことを保証する。この限定的保証は、最初の許諾を受けたお客様にのみ適用されるものとします。ソニーの限定的保証に合致せず、ソニーに、（CD-ROM媒体が保証期間内であることを証明する）売買証書形式の購入証明と共に返却されたCD-ROM媒体の交換のみが、ソニーの責任の全てであり、お客様の得られる唯一の救済です。ソニーは、事故、誤用或いは不正使用により破損したディスクを交換する責任を負うものではありません。CD-ROM媒体についてのいかなる黙示的保証（商品性、特定目的適合性の保証を含みますがこれに限られません）は、納入日から90日間に限られます。保証期間の限定が認められない裁判管轄では、お客様に前述の期間限定は適用されません。この保証はお客様に特別の法的権利を与えるものであり、お客様は各管轄毎に異なるその他の権利も有するものとします。

許諾ソフトウェアの保証適用の除外

お客様は、許諾ソフトウェアの使用は自己責任で行うものであることを明示的に認識し、かつ合意するものとします。許諾ソフトウェアは、現状有姿かつ無保証で提供されるものとし、ソニー及びそのライセンサー（以下、本条項ではあわせて「ソニー」といいます）は、いかなる明示・黙示の保証（商品性、目的適合性、特定目的の黙示的保証を含みますがこれに限られません）も負わない事を明示的に確認するものとします。ソニーは、許諾ソフトウェアに含まれる機能がお客様の要求を満たすこと、或いは、許諾ソフトウェアの動作が修正されることを保証するものではありません。また、ソニーは、許諾ソフトウェアの正確性、信頼性その他の観点において、許諾ソフトウェアの使用もしくは使用の結果について、何らの保証又は表明を行うものではありません。ソニーの正式な代表者の口頭、書面の情報、アドバイスは、新たな保証を提供し、又は、本保証の範囲を一切拡張するものではありません。許諾ソフトウェアに不具合がある場合、お客様（ソニー或いはソニーの正式な代表者ではありません）が、必要なサービス、修理に必要な費用全部を負担するものとします。但し、黙示的保証の除外が認められない裁判管轄では、お客様に前述の除外規定は適用されません。

つづく

ソニーは、いかなるコンピュータハードウェア及びソフトウェアも、許諾ソフトウェア或いはお客様が許諾ソフトウェアを使用してダウンロードしたデータによって破損されないことを保証しません。お客様は、許諾ソフトウェアの使用は全自己責任で行うことを明示的に認識し、かつ合意するものとし、許諾ソフトウェアのインストール、及び、許諾ソフトウェアの本製品との使用については、お客様が責任を負うものとします。

責任限定

ソニー、その関連会社及びそれの各ライセンサー（以下、本条項ではあわせて「ソニー」といいます）は、本製品に関する、いかなる明示若しくは黙示の保証違反、契約違反、故意、厳格責任その他法的根拠に基づく間接損害、偶然損害、結果損害又は特別損害（逸失利益、逸失収入又はデータ損失、本製品或いは関連ハードウェアの使用機会喪失、中断時間及びお客様の時間損失を含みますがこれに限られません）について、損害が生じる可能性をソニーが通知され、又は認識していた場合であっても、責任を負いません。いかなる場合も、ソニーの本契約の各条項に基づく責任は、関連製品について実際に支払われた対価を上限とするものとします。結果或いは偶発的損害の免責或いは責任制限が認められない裁判管轄では、上記の除外規定は、お客様には適用されません。

ソフトウェアデータ収集とモニタリング

許諾ソフトウェアには、ソニー及び/又は第三者が、許諾ソフトウェアを実行又は許諾ソフトウェアと相互接続する制御用及び/又は監視用コンピュータ及び装置から、データを収集できる機能が含まれています。お客様はかかるデータ収集行為が行われることにつき同意するものとします。ソニーの現行のプライバシーポリシーについては各国におけるソニーの問合せ先までお問い合わせ下さい。

自動アップデート機能

ソニー或いは第三者は、セキュリティ機能の強化、バグ修正並びに機能改善目的等で、お客様がソニー或いは第三者のサーバーにアクセスする場合等に、適宜許諾ソフトウェアの自動アップデートその他改変をすることができます。かかるアップデートや改変物は、許諾ソフトウェアの機能の性質その他の特徴（お客様が活用している機能を含みます）を削除或いは変更することがあります。お客様は、これらの行為がソニーの判断のみで行うことができ、かつ、ソニーは、お客様がかかるアップデート若しくは改変版を完全にインストールし、或いは受諾することを、許諾ソフトウェアの継続的使用の条件とすることできる事に合意するものとします。

輸出

お客様が許諾ソフトウェアを、お客様の居住国以外で使用する場合、お客様はあらゆる輸出入及び関税に関する法律及び規制（米国商務省その他米国政府機関の法律及び規則を含みますがこれに限られません）を遵守するものとします。お客様は、許諾ソフトウェアを、輸出禁止国に、又は輸出入及び税関に関する制限に違反して、移転或いは移転させないことに同意するものとします。

可分性

本契約の一部が無効或いは執行不能となっても、本契約の他の部分は有効に存続するものとします。

準拠法及び裁判管轄

本契約は、法例に抵触しない限り、日本法に準拠するものとします。本契約の当事者は、日本の裁判所を専属管轄裁判所とすることに同意するものとします。ソニーは、お客様が登録されたＥメールアドレスへの通知、又はその他法的に容認される形式の通知により、許諾ソフトウェアの使用許諾に関する特定の条件を変更することができるものとします。お客様がソニーから発効に先立ち通知された変更後の条件に同意しない場合、お客様は本契約の「重要なお知らせ」に規定された手続に従った返金のため、本製品全部及び購入時に同梱されたその他配布物をソニーのウェブサイトから入手されたソフトウェアと共に返却するものとします。かかる通知後、お客様が許諾ソフトウェアを継続して使用することをもって、お客様は修正後の条件に従うことに同意したものとみなされます。

第三者受益者

本契約の全ての目的のために、ソニーの許諾ソフトウェアにかかる各第三者ライセンサーは、明示的な本契約上の第三者受益者とみなされるものとし、本契約の諸条件を執行する権利を有するものとします。

本契約或いは本契約上の限定的保証に関して疑問がある場合、各国におけるソニーの問合せ先に書面にてお問い合わせ下さい。

本機のファームウェアについて

本製品はMicrosoft Corporationの知的財産権により保護されています。当該ファームウェアについては、Microsoftもしくは Microsoft認定子会社のライセンスなしに、本製品より取り出して使用したり、または配布したりすることは禁止されています。

本製品のファームウェアには、libpngバージョン1.2.8、Independent JPEG GroupのJPEGソフトウェアバージョン6b、「zlib」汎用圧縮ライブラリ・バージョン1.2.2のインタフェースzlib.h、FreeType 2バージョン2.1.9、およびOpenSSL バージョン0.9.8bが含まれています。

The PNG Reference Library is supplied "AS IS". The Contributing Authors and Group 42, Inc. disclaim all warranties, expressed or implied, including, without limitation, the warranties of merchantability and of fitness for any purpose. The Contributing Authors and Group 42, Inc. assume no liability for direct, indirect, incidental, special, exemplary, or consequential damages, which may result from the use of the PNG Reference Library, even if advised of the possibility of such damage.
Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this source code, or portions hereof, for any purpose, without fee, subject to the following restrictions:

1. The origin of this source code must not be misrepresented.
2. Altered versions must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source.
3. This Copyright notice may not be removed or altered from any source or altered source distribution.

The Contributing Authors and Group 42, Inc. specifically permit, without fee, and encourage the use of this source code as a component to supporting the PNG file format in commercial products. If you use this source code in a product, acknowledgment is not required but would be appreciated.

A "png_get_copyright" function is available, for convenient use in "about" boxes and the like:

```
printf("%s",png_get_copyright(NULL));
```

Also, the PNG logo (in PNG format, of course) is supplied in the files "pngbar.png" and "pngbar.jpg" (88x31) and "pngnow.png" (98x31).

Libpng is OSI Certified Open Source Software. OSI Certified Open Source is a certification mark of the Open Source Initiative.

Glenn Randers-Pehrson
glennrp at users.sourceforge.net
August 15, 2008

The Independent JPEG Group's JPEG Software version 6b

- Portions of the firmware of this product is used in part on The Independent JPEG Group's JPEG software. The Independent JPEG Group's JPEG software is copyright © 1991-1998, Thomas G. Lane. All Rights Reserved. "The Graphics Interchange Format© is the Copyright property of CompuServe Incorporated. GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated."

zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library version 1.2.2

zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library version 1.2.2, October 3rd, 2004
Copyright © 1995-2004 Jean-loup Gailly and Mark Adler

FreeType 2 version 2.1.9

Portions of this firmware of this product are copyright © 1996-2002 The FreeTypeProject (www.freetype.org). All rights reserved.

1. No Warranty
THE FREETYPE PROJECT IS PROVIDED 'AS IS' WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT WILL ANY OF THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY DAMAGES CAUSED BY THE USE OR THE INABILITY TO USE, OF THE FREETYPE PROJECT.

OpenSSL version 0.9.8b

1. OpenSSL License
Copyright © 1998-2008 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyrightnotice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO,THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

2. Original Ssleay License
Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).
Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.
If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.
This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

つづく

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

A

B

C

つづく

Z

数字

記号